

第 12 回キャリア教育優良教育委員会、
学校及び P T A 団体等
文部科学大臣表彰
受賞団体における推薦理由

第12回 キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等の取組内容（推薦理由）

— 目 次 —

<北海道>	<神奈川県>
北海道白糠高等学校・・・・・・・・・・・・・1	神奈川県立横浜清陵高等学校・・・・・・・・・・・・・21
<青森県>	<新潟県>
平川市立竹館小学校・・・・・・・・・・・・・1	胎内市教育委員会・・・・・・・・・・・・・22
<岩手県>	長岡市立脇野町小学校・・・・・・・・・・・・・23
岩手県立盛岡工業高等学校 定時制課程・・・・・・2	上越市立雄志中学校・・・・・・・・・・・・・23
<宮城県>	新潟県立栃尾高等学校・・・・・・・・・・・・・24
登米市立東和中学校・・・・・・・・・・・・・3	<富山県>
宮城県松島高等学校・・・・・・・・・・・・・3	射水市立射北中学校・・・・・・・・・・・・・24
<秋田県>	小矢部市立津沢小学校・・・・・・・・・・・・・25
八峰町教育委員会・・・・・・・・・・・・・5	滑川市立西部小学校・・・・・・・・・・・・・25
小坂町立小坂小学校・小坂中学校・・・・・・・・・・6	<石川県>
由利本荘市立鳥海小学校・・・・・・・・・・・・・6	石川県立翠星高等学校・・・・・・・・・・・・・26
横手市立十文字第一小学校・・・・・・・・・・・・・7	<福井県>
<山形県>	越前市武生第五中学校・・・・・・・・・・・・・26
長井市立長井南中学校・・・・・・・・・・・・・8	福井県立羽水高等学校・・・・・・・・・・・・・27
山形県立北村山高等学校・・・・・・・・・・・・・8	福井県立科学技術高等学校・・・・・・・・・・・・・27
<福島県>	<長野県>
福島県立西会津高等学校・・・・・・・・・・・・・9	塩尻市教育委員会・・・・・・・・・・・・・28
いわき市立中央台北中学校・・・・・・・・・・・・・10	長野県蓼科高等学校・・・・・・・・・・・・・29
昭和村立昭和中学校・・・・・・・・・・・・・10	飯山市立城南中学校・・・・・・・・・・・・・29
<茨城県>	上田市立北小学校・・・・・・・・・・・・・30
茨城県立那珂湊高等学校・・・・・・・・・・・・・11	郷土愛プロジェクト・・・・・・・・・・・・・30
美浦村立木原小学校・・・・・・・・・・・・・12	<岐阜県>
下妻市立下妻中学校・・・・・・・・・・・・・12	中津川市教育委員会・・・・・・・・・・・・・31
<群馬県>	輪之内町立輪之内中学校・・・・・・・・・・・・・31
伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校・・・・・・・・・・13	白川町立白川中学校・・・・・・・・・・・・・32
群馬県立勢多農林高等学校・・・・・・・・・・・・・14	垂井町立不破中学校PTA・・・・・・・・・・・・・33
群馬県立高崎高等特別支援学校・・・・・・・・・・・・・15	<静岡県>
<埼玉県>	静岡県立伊東商業高等学校・・・・・・・・・・・・・34
皆野町立皆野中学校・・・・・・・・・・・・・16	静岡県立菰山高等学校PTA・・・・・・・・・・・・・34
<千葉県>	<愛知県>
流山市立東深井中学校・・・・・・・・・・・・・17	豊川市教育委員会・・・・・・・・・・・・・35
<東京都>	岩倉市立岩倉北小学校・・・・・・・・・・・・・35
府中市教育委員会・・・・・・・・・・・・・18	新城市立千郷中学校・・・・・・・・・・・・・36
町田市立金井中学校・・・・・・・・・・・・・18	<三重県>
調布市立第六中学校・・・・・・・・・・・・・19	南伊勢町教育委員会・・・・・・・・・・・・・37
東京都立芝商業高等学校・・・・・・・・・・・・・19	四日市市立羽津中学校・・・・・・・・・・・・・37
東京都立多摩桜の丘学園・・・・・・・・・・・・・20	三重県立桑名北高等学校・・・・・・・・・・・・・38
東京都立大島高等学校・・・・・・・・・・・・・20	<滋賀県>
文教大学附属中学校・高等学校・・・・・・・・・・・・・21	高島市教育委員会・・・・・・・・・・・・・39
府中市立小中学校PTA連合会・・・・・・・・・・・・・21	滋賀県立守山中学校・・・・・・・・・・・・・40

滋賀県立安曇川高等学校	40	福岡県立三井高等学校PTA	63
<京都府>		福津市立神興東小学校PTA	64
南丹市立園部中学校	41	<佐賀県>	
京都府立木津高等学校	41	武雄市立山内中学校	65
<兵庫県>		佐賀県立唐津商業高等学校 定時制課程	66
豊岡市立日高小学校	43	<長崎県>	
兵庫県立伊丹北高等学校	44	長崎県立宇久高等学校	66
百合学院高等学校	45	長崎県立五島高等学校	67
一般社団法人 兵庫ビルメンテナンス協会	45	長崎県立諫早農業高等学校	68
<奈良県>		<熊本県>	
奈良県立橿原高等学校	46	熊本大学教育学部附属特別支援学校	68
<和歌山県>		<宮崎県>	
和歌山県立桐蔭中学校・桐蔭高等学校	46	日向市教育委員会	69
<島根県>		宮崎県立延岡商業高等学校	70
津和野町教育委員会	48	宮崎県立福島高等学校	70
<岡山県>		<鹿児島県>	
奈義町立奈義中学校	48	肝付町立波野中学校	71
岡山県立瀬戸高等学校	49	与論町立与論中学校	72
岡山県立岡山瀬戸高等支援学校	49	鹿児島県立隼人工業高等学校	72
<広島県>		<沖縄県>	
東広島市立高美が丘小学校	50	今帰仁村教育委員会	74
安芸高田市立高宮中学校	51	嘉手納町立嘉手納中学校	75
広島県立三原特別支援学校	51	沖縄県立八重山特別支援学校	75
<山口県>		嘉手納町立嘉手納中学校PTA	76
下関市立名池小学校	52	<仙台市>	
光市立浅江中学校	53	仙台市立東宮城野小学校	77
山口県立豊北・下関北高等学校	54	仙台市立鶴谷特別支援学校	77
<徳島県>		<川崎市>	
三好市立池田小学校	56	川崎市立木月小学校	78
藍住町立藍住東中学校	56	<浜松市>	
徳島県立みなと高等学園	57	浜松市立富塚中学校	78
<香川県>		<京都市>	
香川県立多度津高等学校	57	京都市立九条弘道小学校	79
香川県立志度高等学校	58	京都市立大原小中学校	80
<愛媛県>		特定非営利活動法人	
松山市立湯築小学校	58	京都シニアベンチャークラブ連合会	80
愛媛県立今治工業高等学校	59	<大阪市>	
道前会（愛媛県立西条高等学校同窓会組織）	59	大阪市立白鷺中学校	81
<高知県>			
高知県立山田高等学校	60		
高知県立日高養護学校高知みかづき分校	61		
<福岡県>			
古賀市教育委員会	62		
朝倉市立南陵中学校	62		
みやま市立東山中学校	63		

<北海道> (種別：学校) 北海道白糠高等学校

推薦理由

本校は、平成27年度から29年度の3年間、北海道教育委員会から「職業教育・キャリア教育推進事業」の指定を受け、研究指定校として、普通科高校でありながら、総合学科の原則履修科目である「産業社会と人間」を開設したほか、キャリア教育の全体計画の作成、各教科・科目のシラバスの改善・充実、卒業生に対する就業状況調査を実施するなど、組織的・系統的なキャリア教育に取り組んできた。研究指定期間が終了した今年度については、学校のキャッチフレーズを「学び直しとキャリア教育の白糠高校」と改め、引き続き、生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成するため、教育活動の一層の改善・充実に取り組んでいる。

○ 学校設定科目「産業社会と人間」の開設

- ・第1学年1単位、第2学年1単位、計2単位
- ・職業理解を深め、キャリアプランニング能力を高める「企業・上級学校見学」や「インターンシップ」等のほか、自己理解を深め、人間関係形成・社会形成能力を高める、「ジョハリの窓」や「ピアサポート」等を実施

○ キャリア教育の全体計画の作成

- ・校務分掌や学年、各教科等におけるキャリア教育のそれぞれの取組を、効果的な取組となるよう、系統的に整理
- ・校種間の連携を深めるため、地域の小・中学校との連携事業や出前講座等を、計画に位置づけ

○ 各教科・科目のシラバスの改善・充実

- ・各教科において、「基礎的・汎用的能力」の育成の観点を加えたシラバスを作成し、学校教育全体を通してキャリア教育を組織的に推進

○ 就業状況調査の実施と調査結果の活用

- ・卒業生を対象とした「就業状況調査」を実施し、「基礎的・汎用的能力」の育成に係る課題等の明確化を図るとともに、調査結果を踏まえ、早期離職の未然防止に向け、キャリアカウンセリングの充実を図るなど、取組を改善

○ その他

- ・今年度から開設された、白糠町営の公営塾「久遠塾」と連携し、生徒のキャリアアップに向け、「主体的・対話的で深い学び」を中心に、協働で教育活動を実施

【ホームページ】<http://www.shiranuka.hokkaido-c.ed.jp/>

<青森県> (種別：学校) 平川市立竹館小学校

推薦理由

当該校では、子どもたちの地域への愛着と誇りを培い、ふるさとを愛する心に根ざした職業観・勤労観を育むべく「いきいき わたしのふるさと」をテーマに、学区内の各種施設や団体と協働したキャリア教育を積極的に推進している。

具体的な取組は次のとおりである。

【具体的な取組】

子どもたちへ身に付けさせたい力として、①人間関係形成能力、②自己理解・自己管理能力、③課題対応能力、④キャリアプランニング能力の4つの能力を掲げ、学年毎に取り組む体験学習を効果的に配列することで、地域への敬意とプライドを育み、将来の社会的自立・職業的自立の基礎となる資質・能力、態度を養う。

(1) 各学年の活動

- 第1・2学年「昔遊び交流会」

- 第2学年「学区探検」

学区の概要や地域の民俗芸能について学ぶとともに、地域のお年寄りから昔遊びについての学習を行う

- 第3学年「進め！リンゴたんけんたい」

学校に隣接する農家の協力を得てりんご栽培についての学習を行う

- 第4学年「福祉体験学習」
特別養護老人ホーム「緑青園」と協働した福祉学習を行う
- 第5学年「お米探検隊！」
中山間地域新館集落の皆さんと協働した水稲栽培についての学習を行う
- 第6学年「平川市再発見！」
修学旅行を通して、地域の魅力を再発見させ、ふるさとのために積極的に貢献する意欲を持たせる学習を行う

(2) 福祉学習

「緑青園」と協働で実施している。30年以上にわたって実施しているもので、年間計画に基づいて、児童と入所者が相互に訪問し合い、それぞれの学びを深めている。近年は、プルタブ等の資源回収で得た資金で車椅子を購入し、定期的に緑青園へ寄贈している。

(平成15年から始めて平成29年までに10台を寄贈した実績がある。)

平成30年6月に実施したアンケート調査によると、20年後の自分の姿として本市で働いていることを理想とする児童が約8割おり、将来はお年寄りの皆さんのために緑青園で働きたい、本市の特産物であるりんごの消費拡大のために力を尽くしたいと考える子どもがいるなど一定の成果を挙げている。

<岩手県> (種別：学校) 岩手県立盛岡工業高等学校 定時制課程

推薦理由

岩手県立盛岡工業高等学校定時制は、本県で唯一、教科工業を学ぶことができる定時制課程で、高校を一度退学し編入した生徒、他の高校から転入学した生徒、中学校で不登校を経験した生徒等を積極的に受け入れている。「盛工定時制という新たな環境の中で、工業に関する知識・技能・資格を身につけ、大きく成長し社会に飛び立とう！」を合言葉に、自立した社会人を育成するため、基礎・基本の定着や専門知識・技術等の習得について、個に応じた教育活動を計画的・組織的に行い、成果を上げている。

平成26年度以降、退学者2名、不登校0名、進路未決定者0名、就職後の離職者1名と、社会に適応できる人材を育成してきており、入学者も年々増えている。

1 基礎・基本の定着と自立した社会人を育成するキャリア教育

本定時制では、中学校までの学習内容の定着や自主性・社会性等を身につけさせるため、基礎・基本の定着と「いわてキャリア教育指針」に基づくキャリア教育を重点に様々な教育活動を行ってきた。

本定時制の強みは、次の点である。

- ・工業科目全般にわたり学習することができ、社会で即戦力として活躍する力を身につけることができること
- ・少人数教育の特長を生かし、個に応じた進度で学習できるため、つまづきを克服しながら基礎・基本の習得が図られること
- ・工業に関する各種資格を取得でき、進路実現につなげられること
- ・「盛岡工業高校定時制課程雇用主と教師の会」(E T A) を設立し、情報交換を行うとともに、生徒の学習や資格取得、各種行事等への支援を行っていること

2 具体的な取組

(1) 登校したいと思わせる学校づくりの取組

- ア 生徒理解を深めるため、全職員による情報交換を定期的実施している。
- イ スムーズな高校生活への適応を目指し、入学後3日目に1年生と教職員合同の構成的グループエンカウンターを実施している。
- ウ 教科工業の学習では、基礎・基本の定着を図るとともに実験・実習を重視した指導を行い、各種資格取得により生徒の学習意欲の喚起と自信獲得につなげている。
- エ 学校行事、生徒会行事等に生徒主体で取り組むことにより、協調性、思いやりの心、コミュニケーション能力及び良好な人間関係づくりにつなげている。

(2) 基礎学力向上の取組

- ア 一斉指導と併せて、生徒の理解度に応じた個別指導を取り入れている。

イ 始業前に国語・数学・一般常識の小テストを実施し、基礎学力向上を図っている。

ウ 長期休業中には、課題、就職希望者への課外、読書感想文等に取り組ませ、「生きる力」を育み、進路実現につなげている。

(3) 進路指導の取組

ア 勤労観・職業観の醸成、経済的自立及び人間的成長を目指し、アルバイト就労を奨励している。

イ 卒業生就職先やアルバイト就労先の訪問等を通して就職先を確保するとともに、社会人として必要とされる能力・資格等について生徒にフィードバックし、意識の高揚を図っている。

ウ E T Aが資格試験受験料を助成し、資格取得につなげている。

上記の取組は、定時制における本県のキャリア教育の推進に大いに貢献しているものと考え推薦するものである。

<宮城県> (種別：学校) 登米市立東和中学校

推薦理由

当該校は、宮城県の志教育の一環として望ましい職業観・勤労観を育み、地域の担い手となる生徒を育成するキャリア教育を全教育活動を通して推進している。特に、2年生における起業教育を前提に、総合的な学習の時間を核としながら特色あるキャリア教育を進めている。学校支援地域本部事業による地域連携で起業教育に取り組んで今年度で14年目を迎え、これまでの取組を検証しながら、改善を加えていき、生徒の協働性や社会性を高めている。また、キャリア教育の目指す社会的・職業的な自立に向け、基礎的・汎用的能力の構成要素である人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力の育成につながる意義ある取組になっている。

○ 起業教育を取り入れたキャリア教育の推進（2年生）

・第1期・職場体験学習

前年度末から準備をし、職場体験学習を行っている。社会の一員としての望ましい職業観や勤労観の育成につなげている。また、学んだことを今後の会社運営にも生かすこととしている。

・第2期・模擬会社設立に当たっての必要なことを調べる学習

職業や自分と社会のつながりについて知る学習であり、地域の商工会や教育委員会と連携し、外部の人材による講演等を行い、意識を高めている。

・第3期・模擬会社設立を経験する学習

模擬会社を設立し、生徒一人一人が企画・製造・広告・経理等のいずれかを担当し、商品の生産から販売までの活動を行っている。模擬会社を設立、運営する活動を通して、自分の役割の価値や自分と役割の関係を見いだしていくことをねらいとしている。

・第4期・模擬会社の商品を販売し、実社会との関わりを持つ学習

販売活動や収支決算時の報告等を通して、会社経営や企業の在り方について振り返るとともに、自己の生き方についても見つめ直している。

以上のような活動を通して、自ら課題を発見し、課題を解決していく生きる力を育み、社会と調和しながら生きている調整力やバランス感覚、望ましい職業観や勤労観を養う実践を継続している。

<宮城県> (種別：学校) 宮城県松島高等学校

推薦理由

【概要】

松島高等学校は、宮城県で唯一の観光科設置校である。観光科では、日本三景「松島」をはじめ県内の観光資源を学習素材として、コミュニケーション能力を高め、おもてなしの心を育み、東日本大震災で打撃を受けた「ふるさと宮城」の再生と持続可能な地域の開発を担える人材の育成を目的に、地域及び外部機関と連携したキャリア教育を展開している。

教育課程を体系的に整理し、1学年は「地域を理解」、2学年「地域に貢献」、3学年「地域と共創」を目標として定め、観光に関する学校設定科目を設定し、学校独自の教材で授業を行うとともに、各事業等（事前・事後

指導含む。)を実施している。

【取組】

1 地域と連携したインターンシップ等の取組

(1) 販売実習（観光科1年生全員）

1年次の7月に、松島町内を中心に、塩竈市・仙台市内の事業所等（平成30年度は27社）で約2週間の現場実習を行い、地域を理解するとともに、接客の知識や技能を育成している。

(2) 和室作法講座（観光科2年生全員）

2年次の6月、講師を招いて、和室での所作等についての学習を行っている。7月に実施されるホテル実習に対する事前指導として位置づけており、畳の上での歩き方、襖の開け閉め、挨拶の仕方等、和室での作法全般について学習している。

(3) 仙台ホテル研修（観光科2年生全員）

2年次の6月に1日間、仙台市内のホテル（平成30年度は12社）において、職業人としての好ましい態度や身だしなみ、言葉遣いについて実習している。

(4) ホテル実習（観光科2年生全員）

2年次の7月に、県内ほぼ全域（松島、秋保、遠刈田、鳴子、南三陸、気仙沼）の観光ホテル・旅館で約1か月間の住み込みによる実習を行い、お迎え、お見送り、配膳、下膳、部屋の清掃やセッティング等あらゆる業務を行うことで、おもてなしの心を養い、コミュニケーション能力を高め、観光産業についてより実践的で高度な知識や技能を育成している。

(5) 小高連携事業（観光科1年生全員）

1年次11月、販売実習での職場体験を松島町内の3つの小学校で発表し、小学生とともに地域について理解を深める学習を行い、異年齢間の関わりを通して、お互いを思いやる気持ちを育てている。

(6) 中高連携事業（観光科2年生全員）

2年次12月、松島町立松島中学校において、中学生はインターンシップ、高校生はホテル実習での学習成果を互いに発表し合い、身近で働く人々の職業や仕事に対する考え方などを知り、望ましい勤労観や職業観の形成を促している。

2 観光商品開発の取組

3か年の観光科の学習のまとめとして観光商品開発を行い、主体的に課題を発見していく力や創造性を育てている。

(1) 観光実践発表会（観光科全員）

3年生が学校設定科目「観光実践」（3年次2単位）及び課題研究での学習のまとめとして、1・2年生に対して観光商品（高校生バスツアー等）の企画案や運営手法についてプレゼンテーションを行っている。

(2) 観光商品開発（観光科3年生全員）

3年次の12月、3年間学習してきた集大成として、身に付けた知識や技能を生かし、観光業者等と連携して、観光商品（高校生バスツアー等）を開発し、生徒が主体となり企画し、実際に運営する事業を実施している。

3 地域理解・課題検討の取組

地域と連携した体験的な学習活動を行い、地域を理解し、地域の課題を考察することによって、地域を担う人材を育成している。

(1) 農業体験・水産業体験（観光科1年生全員）

地域の産業を理解するとともに、地域交流を通してコミュニケーション能力を身に付けるため、松島町等と連携した農業体験（観光保全、米の田植え、稲刈り）や宮城県漁業協同組合松島支所と連携した水産業体験（牡蠣むき、牡蠣商品販売）を実施している。

(2) 松島フォーラム（観光科1・3年生全員）

6月、地域の課題を見付け、その課題を解決しようとする学びの一環として、産業界、行政等から講師を招いて、松島の課題を検討し地域活性化について話し合う「松島フォーラム」を開催している。

4 地域課題の解決に向けた主体的な取組

年間を通してボランティア活動を行い、主体的に課題を発見していく力や創造性、コミュニケーション能力、地域に貢献する力を育成している。

(1) 観光ボランティアガイド（観光科2・3年生）

県外及び台湾からの修学旅行生等（平成29年度は15団体で実施）への観光ガイド（松島の主要な観光施設等の説明及び交流）を、年間を通して継続的に実施し、学年が進行に伴いガイドの精度を高め、内容を充実させている。

(2) 地域でのボランティア活動（観光科希望者）

宮城県内各地で行われる行事（松島パークフェスティバル、松島流灯会海の盆、みちのくYOSAKOIまつり、松島紅葉ライトアップ等）でボランティア活動を行い、地域に貢献するとともに、おもてなしの心、コミュニケーション能力を育成している。平成29年度はのべ1,181人の生徒がボランティア活動に参加した。

5 地域パートナーシップ会議の設置（推薦要領3(2) 観点①、②、③）

地域及び外部機関と連携した実践的なキャリア教育の展開及び検証改善を行うため、地域の産業界、行政・教育機関等とのパートナーシップを構築している。

(1) 観光科サポート委員会

平成25年度に「宮城県松島高等学校観光科サポート委員会」が設置され、平成29年度まで実施してきた。

(2) 地域パートナーシップ会議

平成30年度は、宮城県教育委員会「県立高校に係る地域と連携した会議等設置要綱」に基づき、観光科サポート委員会での取組を継承し「宮城県松島高等学校地域パートナーシップ会議」を設置し、地域との共創による、より地域に根ざした実践的な教育活動の展開を図る体制を構築している。

<秋田県>（種別：教育委員会）八峰町教育委員会

推薦理由

八峰町では、平成27年度まで小学校が3校、中学校が2校あり、小学校では、日本海、世界遺産白神山地、ジオパーク等の豊かな自然環境を学習のフィールドに、地域の伝統文化や人々にふれる体験学習や地域の産業に関連した栽培学習などを実施してきた。また、中学校では、地域の産業にふれる職場体験や、地域の活性化に貢献する活動として「特産品販売」などを実施するなど、学校区の特徴を生かしたキャリア教育が推進され、一定の成果を上げてきた。その後、平成28年度からの学校統廃合で、小学校2校、中学校1校の体制になり、これまで実施してきたキャリア教育のフィールドが広がったことから、それぞれ独自に行ってきた学習計画を見直し、地域を捉え直した上で新たな計画を立案した。さらに、地元商工会や観光協会、町役場の産業振興課等と連携するなどしたキャリア教育プロジェクトチームを立ち上げ、平成28、29年度には「小・中学校等における起業体験推進事業」を実施した。町内全域を学びのフィールドと捉え、「フィールドワークからアントレプレナーへ」をコンセプトに、起業体験推進事業を核とした「地域に根ざしたキャリア教育」を推進した。

○ 「小・中学校等における起業体験推進事業」について

1 実施学校

八峰町立八峰中学校、八峰町立峰浜小学校、八峰町立八森小学校

2 事業内容

(1) 実施期間 平成28、29年度

(2) 教育課程上の位置付け

① 小学校：生活科、総合的な学習の時間で実施

地域人材との協働による栽培学習

八峰“んめもの”まつりにおいて販売体験

② 中学校：総合的な学習の時間で実施

1年生…職場体験（地元企業）

2年生…特産品販売（秋田駅ポポロード及び八峰“んめもの”まつり）

3年生…起業体験学習（模擬会社を設立し、地元企業とのコラボ商品の開発及びさんフェア秋田大会で販売）

③ 金融教育講演会、アントレプレナーシップ講演会の開催

3 事業の成果

児童生徒がふるさと八峰町の一員としての自覚を高め、目標とする力を確実に身に付けることにより、ふるさとを支えていこうとする人材の育成に寄与することができた。また、学校と地域が支援する関係から協働する関係へと変化することにより、持続可能な地域学校づくり（学校運営協議会制度）の実現に弾みがついた。

<秋田県>（種別：学校）小坂町立小坂小学校・小坂中学校

推薦理由

小中一貫教育校である小坂小学校・小坂中学校では、学校目標にある「つながり」「かかわり」をキーワードに、地域の教育力を学校に取り入れるだけでなく、児童生徒が積極的に地域に関わり、町づくりへの強い参画意識を醸成することを目指した取組を、総合的な学習の時間の全体計画に位置付け実践している。主な活動は次のとおりである。

【地域のじまん発見：小坂小学校3～5年生】

- ・町の特産品、歴史的建造物、自然、産業などを調査・体験。
- ・高齢者施設への訪問、町主催の敬老会参加者への手作りカードプレゼント、一人暮らし高齢者へ手紙を送る活動の実施。

【小坂町活性化アクションプロジェクト：小学校5～中学校3年生】

- ・学んだ町のよさをパンフレットや動画にまとめ、子どもたち自身のPR活動で、町内外に発信。（地域や近隣都市の祭り、修学旅行先など）
- ・「自分たちができること」を町民から聞き、福祉施設の窓ふきや自治会の花壇作業手伝いなどの奉仕活動の実施。
- ・町の特産物を使った弁当やスイーツの試作、観光施設でPR活動を実施。
- ・買い物客や店舗が減少している市日会に協力し、市日マップを作成。（町内全戸配布）
- ・町の総合計画を学び、実行可能で具体的な施策をまとめ、模擬議会「坂中議会」で町長や担当課長に提案。

児童生徒が自ら考えて活動してきたことで、「自分たちが町を元気にしている。町の役に立っている。」という達成感をもつことができた。「坂中議会」では、準備した提案のみならず、その場での質問や答弁があり、臨場感あふれるやりとりとなった。「自分たちが未来の創り手なんだ。」という町づくりへの参画意識も高まっている。

全国学力・学習状況調査の学校生活に関する質問紙（H29年度）では、自分自身やふるさとを思う気持ちの醸成に関する問いに、肯定的に回答した児童生徒が、全国・全県平均を大きく上回り、前年度よりも上昇した。

町の人も児童生徒の活動を喜んでおり、賞賛や感謝の手紙が学校にたくさん寄せられた。そのことが児童生徒に大きな自信をもたせ、相乗効果が生まれている。

多くの「ひと・もの・こと」との関わりの中で、児童生徒のコミュニケーション能力が向上しただけでなく、自分の生き方と関連付けた考え方もできるようになっている。学校・行政を含めた地域が一体となった町づくりが進められ、学校は確実に町づくりの参画者となっている。

<秋田県>（種別：学校）由利本荘市立鳥海小学校

推薦理由

<特色ある教育活動>

本学区は、農林業を基幹産業とした自然豊かな地域である。校舎は鳥海中学校と廊下で連結された小・中併設校である。学区の特色を活かし、「小中連携」「地域密着」を合い言葉に、蕎麦づくり、米づくり、民俗芸能活動など、地域に根ざしたキャリア教育を推進している。

1 「キャリア能力系統表」（9年間で育てたい基礎的・汎用的能力の表）の活用

- ・鳥海小・中連携によるキャリア教育について共通理解し、9年間を見通して、組織的・系統的に児童生徒の教育に当たっている。

2 学校運営協議会と連携したふるさと教育の実施

- ・学校運営協議会を核として、ふるさと鳥海の自然・文化・人材等を活かし、豊かな体験活動や地域の人との交流を行っている。
 - ボランティアによる読み聞かせ～毎週1回
 - 蕎麦づくり（3・4年）～蕎麦の種まき、観察、刈り取り、蕎麦打ち
 - 米づくり（5年）～田植え、観察、かかし作り、稲刈り、会食
 - 民俗芸能学習（6年）～学区内の3地域に伝わる民俗芸能を学ぶ
- ・それぞれの民俗芸能発祥の地へ出向き、取り組んでいる。
- ・小中合同飛鳥祭で発表し、学習の成果を地域に発信している。
- ・民俗芸能学習は、地域や教育委員会とも連携し、鳥海地域生涯学習発表会等で発表するなど、地域とのつながりを深めている。

3 行政（首長部局）との連携

- ・鳥海地域学校連携調整会議を実施し、地域・行政・学校が一体となってコミュニティ・スクールを推進している。
- ・ふれあい会食（5年）～お年寄りの方々との交流（社会福祉協議会）
- ・心の健康教室（5年）～命の大切さを学ぶ（助産師会）
- ・小中合同鳥海ダム建設フォーラム（鳥海ダム工事事務所）
- ・小・中合同講演会（青少年育成由利本荘市民会議鳥海支部）
 - 平成28年 県内在住シンガーソングライター 中川正太郎氏
 - 平成29年 国際セラピードック協会代表 大木トオル氏
 - 平成30年 秋田フットボールクラブ（株）取締役社長 岩瀬浩介氏

<秋田県>（種別：学校）横手市立十文字第一小学校

推薦理由

十文字第一小学校は、平成29年度から「学びの舞台を十文字（Jumonji）」、「深い学びを目指すジャンプアップタイム（Jump up time）」を学校経営の中核に据え、合い言葉を「未来へ“J”」として教育活動を展開している。同時に「開かれた教育課程」を理念とした、地域の企業家をはじめ有識者、保護者等からなる「未来へ“J”プロジェクト」を立ち上げ、様々な提言を教育活動に生かしている。平成30年度は、このような組織を基盤として、児童のキャリア発達と地域活性化をねらう新商品、六次化まんじゅう「十文字物語」を製造・販売することとしており、地域密着型のキャリア教育を推進する小学校として推薦するものである。主な取組は次のとおりである。

【平成29年度の取組】

- ・校務分掌に新たに「地域連携主任」をおく。
- ・「未来へ“J”」プロジェクトの設置（地域の企業家、有識者、保護者、教員による組織）
 - ※①キャリア教育推進部 ②豊かな環境推進部 ③学力向上推進部 ④安全・安心推進部
- ・キャリア教育系統表作成（教科横断・学年連携）、連携・協働する企業の相関図作成
- ・田植え体験、ぶどう園作業体験（障害者との交流）、ぶどう販売体験
- ・6年生職場体験活動「未来へ“J”気概を探せ!」（地元企業等13か所訪問）
 - ※地元企業等の「気概」を表現した応援ポスター製作（A1判パネル13枚をJR横手駅等に展示）
- ・児童から十文字スイーツ製造・販売の提案（カラー粘土使用）
- ・新商品開発プロジェクト発足（学校、連携・協働する企業、PTAによる組織）

【平成30年度の取組 ※主に新商品開発に係る取組について記述】

- ・新商品、六次化まんじゅう「十文字物語」製造・販売プロジェクト発足
 - ※4年生：まんじゅうのデザイン（図工）、5年生：化粧箱包装紙デザイン（総合）、6年生：化粧箱に入れる紹介文「十文字物語」製作（国語）
- ・まんじゅうは児童発案のクリームチーズを使用し、中に地元ぶどう農家のぶどうを入れ込む。収穫作業及びぶどうの加工作業は地元の障がい者福祉施設の障がい者と4年生が協働する。

- ※完成までの味見を児童をはじめ教員や保護者、露月堂（製造・販売企業）社員が行う。
- ・4年生の児童が地元愛プレゼンバトル県大会に出場し審査員特別賞受賞
- ※「子ども広報官」に任命
- ・9月19日に六次化まんじゅう「十文字物語」発売（児童と教員が販売体験）
- ※六次化まんじゅう「十文字物語」発売記念ポスター及び地元企業応援「気概ポスター」製作
- ・10月末の秋田県キャリア教育研究協議会において実践発表
- ・11月に障がい者との協働体験を基にした道徳科の授業を実施
- ・「未来へ“J”」プロジェクト及び学校評議員等による学校関係者評価の実施
- ・国や県の学力調査児童質問紙等により児童のキャリア発達を評価し、改善を図る予定

<山形県>（種別：学校）長井市立長井南中学校

推薦理由

<学校経営の概要>

授業を中核に、すべての教育活動で個々の生徒に自己決定・自己存在感・共感的な人間関係を育む学校経営の方針の下、生徒に自尊感情を育て社会をたくましく生き抜く力の育成をめざしている。

<具体的な実践>

○ 学校研究

研究主題「思いや考えを伝え合い、主体的に課題解決をめざす生徒の育成 ～子どもの学びの姿から考える～」のもと、研究に取り組んでいる。重点の一つに「単元ベースのカリキュラム・マネジメント」を掲げ、総合的な学習の時間を中心に教科横断的学習単元づくりを行っている。地域と連携し、教育活動全体でキャリア教育を系統的に実施している。

○ キャリア教育の視点を取り入れた総合的な学習の時間

・第1学年「長井巡り」

ふるさとである長井市を巡り、長井の人、自然、文化、よさなどに触れる活動を行い、次年度の修学旅行における「だがしや楽校」につなげている。また、長井市の強みである「ものづくり」に触れるため製造業の企業訪問も実施した。

・第2学年「だがしや楽校」

修学旅行において、東京都大田区蒲田駅西口広場で長井市の特産品等を紹介・販売する活動を行った。その中では、街行く多くの方々とのふれ合いが見られた。

・第3学年「職場体験」

長井市キャリア教育推進委員会（長井商工会議所、長井市役所、JAおきたま、市教育委員会、中学校関係者などで組織）との連携・協力のもと、50の事業所で3日間の職場体験を実施した。

○ 学校運営協議会と連携したキャリア教育の実施

本校は平成29年度からコミュニティ・スクール制度を導入し、学校運営協議会を設置している。その中には「長井・山形・日本・世界を担う長井の子ども」育成に向けて協議され、総合的な学習の時間や学年行事の活動についてのご意見やアドバイスもいただいた。

・南中ハローワーク

第3学年「職場体験」の体験先を決定する際に面接を実施し目的意識と意欲を持って体験に臨めるような取組を行い、その際の面接官を学校運営協議会委員が務めた。

・プレだがしや楽校

修学旅行に行く前に、保護者や地域の方に案内し、本校体育館で同様の取組を行い、これを学校運営協議会委員が視察しアドバイスする活動を行った。

<山形県>（種別：学校）山形県立北村山高等学校

推薦理由

昭和62年に県立大石田高校及び県立尾花沢高校を統合して開校し、平成29年度に創立30周年を迎えた。設置

学科は総合学科（全日制、1学年4学級）で、特にキャリア教育に力を入れており、総合的人間力の育成をめざしている。

1 「BeLノート」(Beautiful Life Note)を柱としたキャリア教育

1年次は「産業社会と人間」、2年次以降は総合的な学習の時間等において、独自教材を活用し、年次段階に応じながら、主に以下の指導を行っている。

（1年次）職業を知る講座、卒業生講話、企業・大学等訪問、やまがたのスペシャリストに聞くトップセミナー等

（2年次）進路コース別集会、インターンシップ社会人講話、地元企業経営者と語る会等

（3年次）キャリアアップセミナー、社会人基礎能力育成講座等

2 地元企業や自治体等との連携・協働、地域貢献活動等

(1) 地元の支援等による取組

2年次に行うインターンシップは、多くの事業所や関係機関の協力のもとで、特に事前事後指導に力を入れて実施している。また、尾花沢市企業懇談会、商工会、市商工観光課の協力により、上記記載の職業を知る講座、地元企業経営者と語る会以外にも、企業見学会や外部講師による模擬面接会を開催している。

(2) ボランティア活動等による地域貢献

尾花沢花笠まつりのパレード参加や美化活動、雪まつりの雪像づくりや運営補助などは全校挙げて取り組み、特に美化活動は平成28年度に環境大臣賞を受賞した。さらに、県外にも足を運び、石巻市復興支援ボランティアは、取り組んで6年目となっている。また、KVC（北村山高校ボランティアサークル）は、尾花沢市「花のかけはし」定植作業などにより、平成29年度に国際ソロプチミストから「Sクラブ認証」を受けた。

(3) 学校家庭クラブ活動「そばガールズ」の地域活性化

地元の特産品「そば」の魅力を広め、そばで地域を元気にするため、行政や企業を巻き込みながら研究・開発を行い、さらに県内外で普及活動に取り組んでいる。主な活動は、①地元企業と連携して「そばスイーツ」商品化、②アイデア料理試食会、③そば染めやそばスイーツ体験講習、④行政と連携した魅力PR活動等。

以上のとおり、地元企業や自治体など外部と連携しながら、学校の実態に合わせた独自教材による取組を柱とし、活発なボランティア活動、学校家庭クラブにおける課題解決型学習による地域活性化等は、学校の教育活動全体を通して系統的・体系的なキャリア教育に取り組んでいる好事例と言える。

<福島県>（種別：学校）福島県立西会津高等学校

推薦理由

平成27年度に校内の委員会として創設された「西高魅力発信隊」（翌年に特設部として改組）は、イノベーション（変革・革新）を合い言葉に地域活性化に資する活動をおこなってきた。地元西会津町の魅力を学びながら、商品開発や調査研究活動をおこない、それらの活動を通して、生徒の課題発見能力や課題解決能力をはぐくむ教育の実践を継続している。最初の題材は「車麩」であった。もともと西会津町の伝統的な加工食品であり冬場の大切な栄養源でもあった「車麩」が、時代の変遷とともに用いられなくなり生産量も消費量も減少している状況に着目し、この食材を題材にして“地域イノベーション”に取り組むこととした。

西会津町でただ一軒となった「製麩場」の存在を知り取材をおこなった。その結果、長年の伝統を守り車麩を作り続ける職人の「よい商品を届けたい」という消費者への思いを知ることとなった。何とか車麩をメジャーにできないか、という思いを胸に生徒はイノベーションの作法を身につけていく。アイデアの重要性とその創出手法を、校内教員はもとより町当局や一般社団法人 i. club（アイクラブ）の協力と指導を受けながら、生徒は試行錯誤の末に、車麩とスイーツをつないだ「車麩ラスク」のアイデアにたどりついた。

次のステップとして取り組んだのは、高校生がキーマンとなって生産者・加工者・販売者を有機的に連携させ、商業ベースとして成り立つ商品をこの世に誕生させることだった。そのために町内の菓子店とラスクの製造について協議しつつ、「道の駅にしあいづ」に販売をお願いして流通経路の接続を実現した。それとともに、町内在住のグラフィックデザイナーの協力を得てパッケージデザインとPRのためのチラシ作成をおこない、キャッチコピー「フフフッ スイーツ」を案出して販売を軌道に乗せた。

平成28年より、車麩ラスク「バターシュガー味」を商品化。

平成28年「新しい東北」復興ビジネスコンテストで“丸紅賞”受賞。

平成29年より、車麩ラスク「ほうじ茶風味」を販売開始。

平成28・29年『高校生ビジネスプラングランプリ』で2年連続ベスト100。

平成30年より、車麩ラスク「コーヒー牛乳風味」を販売開始。

現在は新たな風味の開発を継続しながら、地域のイベント等で販売活動をおこない、地域の方々に喜ばれている。

さらに、平成29年からは地元特産の「ミネラル野菜」「会津米」にも目を向け、地域の飲食店を巻き込んだ「ホワイトコーンカレープロジェクト」や、しいたけと米を活用したワークショップ「おにぎりプロジェクト」を展開している。

<福島県> (種別：学校) いわき市立中央台北中学校

推薦理由

- ◇ 「基礎的・汎用的能力を高めることが生きる力を高める」という理念のもと、「どの学校でもすぐにできるキャリア教育」をスローガンに、キャリア教育を学校教育の基盤に据えて取り組んでいる実践であること。
- キャリア教育を特定の活動に限定して行うのではなく、「全ての教育活動で行う」としていること。特に日常生活や日々の授業の中で具体的な基礎的・汎用的能力を示しながら実践していることが特徴的である。また、その実践のために必要な組織を作り、グループリーダーにマネジメントさせることで教職員を育てながら生徒の基礎的・汎用的能力を高めることに成功している。
- ◇ 「生きる力が社会で生かされるためには、学校教育活動が社会とつながっていないとてはならない」という基本姿勢を「小中一貫キャリア教育Vision」に示し、推薦校のみならず、推薦校の保護者、地域、関係小学校にも示し、地域を挙げてキャリア教育の推進を図った実践であること。
- 「小中一貫キャリア教育Vision」を用いて、「キャリア教育を基盤とした学校経営」というものがどんなものなのかについて、年間を通じ、意図的・計画的、かつ丁寧に説明しながら、保護者、地域の人材を巧みに取り入れている。また、参加する保護者、地域の方々も「キャリア教育を推進することが地域の生徒の力を高める」という推薦校の理念を共有した実践となっており、「地域の子どもを地域も育てる教育活動」が日常的(意図的・計画的)に行われている。
- ◇ キャリア教育の評価を行い、評価結果から課題を見だし、間接的キャリア教育(日常生活、授業、特別活動)と直接的キャリア教育(職業教育、職場体験等)概念を打ち立て、4つの領域をベースに多面的なアプローチを試み、キャリア教育の推進が生きる力を高めることがエビデンスに基づいて検証されている実践であること。
- 年に2回、生徒を対象にキャリア教育アンケートを行い、生徒の実態を的確に把握していること、それを学年、学級、教科経営に生かしていることが特色となっている。生徒自身に身に付けるべき資質・能力は何かを気づき・考え・実行させること、教職員にはどの能力を高めることが課題解決能力を高めることにつながるのかということに対しこの実態把握が効果を発揮している。授業の中で基礎的・汎用的能力を高めることを意識しながら本時の目標を達成させること、現職教育の中で指導方法を自己研鑽していることなども大いに評価したい。また、学校行事などにおいても前年度踏襲を避け、自ら課題を見だし、その課題解決を通じた能力開発にとどまらず、生徒の能力向上(開発)に適した内容を吟味し、生徒と教師が一緒になって課題解決に取り組む中で、生徒・教職員の資質・能力を高めた実践となっていることがこれからキャリア教育を進めてみたい学校にとってよき手本(よき教材、よき見本)となる実践であることも推薦理由の一つである。

<福島県> (種別：学校) 昭和村立昭和中学校

推薦理由

昭和村は福島県の西部に位置し、近年過疎化や少子高齢化が進んでいる地域である。周囲を山に囲まれた美しい山村で、その冷涼な気候や美しい清水を生かしてカスミソウを栽培している。栽培面積は全国第一位を誇り、出荷先は全国に及んでいる。カスミソウの栽培は、村の農業の中心を占めており、まさに村の振興を支える基幹

産業となっている。

昭和中学校は全校生徒17名の少人数の学校である。2012年から総合的な学習の時間において、カスミソウ栽培を研究課題とした「花育」に取り組んでいる。就職や進学で村を出て行くのは当たり前と考えている子どもたちに、地域への理解・愛着・誇りを育ててほしいという願いから始まった取組である。「花育」での学習を通じて、カスミソウ栽培が村にとって重要な産業であることも理解してほしいと考えている。

カスミソウ生産者や村産業建設課の協力のもと、昭和村花き振興協議会の花育プロジェクトとも連携を図り、カスミソウの定植や収穫、フラワーアレンジメント、カスミソウ染め加工、大田市場見学、浅草での販売体験等について、中学校の3年間を通じてすべて体験する。その学習の成果とまとめについては、文化祭において発表している。

少子高齢化と過疎化が進む村ではあるが、生徒を全国トップクラスの産業で生産・販売まで体験させることにより、地域の社会・経済・産業教育にもつなげている。また、生徒たちは販売やPR活動を通して、コミュニケーション能力を高めることができている。さらに、カスミソウ栽培の一連の学習を通じて、その魅力に触れたことにより、農業後継者を育てることにもつながっている。

これまでの取組は、県内の新聞社に取り上げられ、県民に広く紹介されている。「花育」の取組は、地域と学校が連携し、生徒たちに対して地域に誇りを感じる機会を与え、将来の地域を担う人材の育成とキャリア教育に大いに貢献しているものである。

<茨城県> (種別：学校) 茨城県立那珂湊高等学校

推薦理由

主体的に課題を発見し、実践的な体験を通して創造性を育む取り組みを積極的に行っており、キャリア教育優良学校として推薦いたします。

1 学校と飲料製造・販売会社との共同商品開発(ペットボトル炭酸飲料)

(1) 商品名「メロメロソーダ」「ポテンティア」

(2) 連携企業 アシードブリュー 北関東ペプシコーラ販売

(3) 取組内容

- ・生徒が授業の中で主体的に開発をプロデュースすることで、企業と共に実践的な課題や産業財産権使用等を解決し、商品化を実現した。販売に関しても、地域活性化につながる販売方法として、自動販売機にラッピングを施す提案などを考えた。
- ・仮説、検証することで「心のトリガーを引かせる」「高校生に付加価値があるか」「商品開発だけで終わらせない」等の課題に向き合い「学び」を積み重ねている。

2 学校とアイス製造・販売会社との共同商品開発(ジェラート)

(1) 商品名「さつまいもジェラート」「玄米抹茶ジェラート」

(2) 連携企業 東京日世フードサプライ

(3) 取組内容

- ・生徒が地域の課題を解決するために、地産地消の商品開発を企業へ提案し、主体的に開発をプロデュースすることで、地域産品に目を向け、商品化が実現した。また、販売に関しても模擬店舗での実証実験を繰り返し、マーケティングを実践的に行っている。

3 出店体験(販売体験)

- ・地元商店街で開催されるDonight(ドゥナイト)マーケットに出店。
- ・毎月第3土曜日(17:00から)ひたちなか市那珂湊地区で、約20店が並び、地域活性化に向けたイベントで、開発商品の販売体験をしている。

4 その他の取り組み

(1) デュアルシステムの実施

- ・起業ビジネス科3年生全員が、生徒希望の職種で年17日間、市役所、地元企業等で実施。
- ・教育課程上の取扱は、起業実践4単位、課題研究2単位(計6単位)。

(2) ひたちなか市準公認キャラクター「みなとちゃん」の開発

- ・ご当地キャラとして、市のイベントなどに出演し、地域活性化や学校をPRしている。

- ・文具類などのノベルティグッズを市と連携して開発、デザインパテントにも応募した。
- (3) 筑波銀行ビジネス交流商談会に参加(H28, H29, H30)
- ・参加団体は、北関東の企業、公的機関、大学、高校、研究機関等。
 - ・学校と様々な企業が連携し、共同開発するきっかけとなった。
- (4) 伊藤忠食品(株)「FOOD WAVE 2018 TOKYO」に参加
- ・メーカー18社が出展し、小売業の経営者、食品メーカーのバイヤー等が参加するイベントに、「商業高校の教育支援」として参加した。開発した商品の展示・説明などの体験を通して食品流通を学んだ。

<茨城県> (種別：学校) 美浦村立木原小学校

推薦理由

本小学校の取組「キッズ☆カンパニー」は、自分たちで会社を設立し、「商品の選定、販売、納税」を行うという起業体験活動である。児童は、自分たちの会社の経営目標や最終利益目標を設定し、会社経営を開始する。今年度、販売する商品は、美浦村商工会青年部の全面的な協力を得て、地元の農業加工品や地域の特産物などを扱うこととした。自分たちで商品を選定すると同時に、販売計画に従って仕入れる量や価格を設定し、また売り上げを伸ばすための方法などを検討し、みほ産業文化フェスティバルで模擬店舗を出店する予定である。その後は決算報告を行い、税金を村に納め、最終的に自分たちの手に残る利益をどのように有効に使うのかを考えていく。

専門的な知識が必要なものは、ゲストティーチャー(GT)を招き、協力していただいている。会社経営に関するアドバイスや出店のための融資の仕組みなどを美浦村商工会青年部に、商品選定や販売促進の助言を商工会女性部やまちづくり美浦をお願いしている。また、資金融資については筑波銀行美浦支店に、税に関する学習を竜ヶ崎税務署の方に指導していただく予定である。単元を通して地域の様々な立場の方に協力を依頼し、地域とのつながりを意識した取組となっている。

キッズ☆カンパニーでは、6年生児童を4グループに分け、それぞれ一つの会社を設立する。児童全員を通常の会社組織のように社長及び経理部・第一営業部・第二営業部の4つの部署に分け、それぞれに部長職を設ける。これにより、児童が一人ずつ役割をもち、それぞれの立場で責任をもって活動できるとともに、各部署が力を合わせ協力して活動することで、一つのことを成し遂げることの大切さを学ばせていく。

以上のように本小学校の取組は、「主体的に課題を発見していく力や創造性を育むため、模擬会社の設立、地域企業や団体との共同による地元商品の販売体験、事業アイデアの検討やビジネスプランの作成といった起業体験に係る取組を積極的に行っている学校」という本表彰の推薦の観点に合致していると認め、美浦村立木原小学校を推薦する。

<茨城県> (種別：学校) 下妻市立下妻中学校

推薦理由

本校は、平成16年度から18年度の3年間、「生徒一人一人に望ましい勤労観、勤労観を育てる指導の在り方」をテーマとして研究を行ってきた。研究をとおして、「望ましい職業観、勤労観を育てる4つの能力と8つの観点」を全教科・全領域に位置付けたり、キャリア総合単元を作成したりして、キャリア教育の充実を図ってきた。これらの実践が認められ、平成18年度にキャリア教育文部科学大臣表彰を受賞した経緯がある。さらに、それまでの取組を土台とし、継続して研究を深化させてきた。

今回の推薦理由となる取組は、以下のとおりである。

本校では、中学校3年間で「社会への入り口」のための3年間ととらえている。生徒が自らを十分に見つめ直し、適性を知る大切な時期であることを踏まえ、キャリア教育との関連を図り、第1学年から第3学年まで系統性をもち学習活動を設定し、研究を推進してきた。

○ 第1学年 ～チャレンジショップ(起業体験活動)を通して、働くことの意義について考える～

下妻市で開催される砂沼フェスティバルに飲食店を出店している。出店に当たり、学級で会社を設立し、生徒が社長などの係になり主体的に起業体験を行っている。「下妻市の特産品を用いて、利益を上げる」という目的を達成するために、各学級で知恵を絞り、情報を収集し活動を行う。実際に働くという体験を通して感じたこと、自分が担った仕事は自分の適性に合っていたかなどを確認し、年度末に行われる職業人に話を聞く「職

業人に学ぶ会」につなげている。

○ 第2学年 ～職場体験学習と立志の集いを通して、将来への展望をもつ～

職場体験学習や立志の集いの企画・運営、立志記念として郷土の良さを知る「下妻街道歩く会」などを行う。職場体験では、社会人としてのマナー、言葉遣い、その仕事の特性等を理解する。職場体験学習を通して、感じたこと、考えたこと、学んだことを振り返るとともに、改めて自分の適性について探っていく。また、人としての内面を磨き、困難克服体験を通して強い志を立てるために約2.5kmを歩く「下妻街道歩く会」を実施し、下妻をより深く知ることにもつなげている。立志の集いでは、これまで自分を育ててくれた親への感謝の意を表すとともに、本校の校訓である「自主・自律・自立」の実現に向けて「第一次自立宣言」と題し、将来の夢を宣言している。

○ 第3学年 ～社会に向けて自分たちができることを考える～

「アクションプラン」と題し、福祉、環境、国際理解等、実社会の現状を理解し、15歳の自分たちができる地域貢献を考えて行動を起こしていく。数年間の取組には、老人ホーム訪問、特別支援学校訪問、独居老人宅訪問環境保全などが挙げられ、自分たちの活動を振り返ることで、自分の「価値」に気付かせる。

<群馬県> (種別：学校) 伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校

推薦理由

当校は、全国初の市立中等教育学校として2009年に開校した。「未来に、そして世界にはばたく高い知性と豊かな道徳性をもった教養人の育成」を教育理念として、生徒の夢や希望を大切にしながら進路実現と、地域社会やグローバルな世界でたくましく生きる生徒の育成を目指している。

キャリア教育は、そのための大きな柱であり、6年間を基礎期(1・2年)、充実期(3・4年)、発展期(5・6年)の3段階に分け一貫した方針で計画的・系統的に行っている。具体的には、基礎期では、生徒間で自身の夢や希望を語り合う活動、職業調べ、地元の地域社会等で活躍している社会人の取材活動を行う。充実期では、地元と離れ現代社会の最先端都市東京等において、グローバルな企業や官公庁等を取材し職業にかかわる視野や社会貢献について学ぶ。発展期では、5学年全員がアメリカミズーリ州立大学において、グローバルな課題や高齢者施設、児童養護施設、企業等において午後を中心に5日間の職業体験、ボランティア体験を行う。さらには、5・6学年で、ソーシャルビジネスをテーマに持続可能な社会構築のための課題追究を行っている。

1 グローバル体験学習(1～3年)

総合的な学習の時間において「伝統文化」「環境」「多文化理解」「ものづくり」の4領域について系統的・発展的に学習する。大学・企業・地域から専門の講師を招いて本物に触れたり実際に体験したりしながら領域ごとに探究する。

2 アカデミックキャンプ(2年)

グローバル体験学習を踏まえ、興味・関心の高い1領域について都内の大学を拠点に2泊3日で最先端の知識や、本物の技術に触れ、さらなる探究心を育む。

3 社会人への取材活動(2年)

生徒の興味・関心に基づき、約30名の社会人講師を招き、複数の方々への取材を行う。その際、職業についての具体的な情報を得るだけでなく、社会人としての生き方や2年生として今、何をすべきかを感じたり学んだりする。

4 Career Discovery in Tokyo(3年)

東京の企業や官公庁を訪問し、働く場としての企業や学びの場としての大学を知り、働くことと学ぶこととの関連に気付き、生徒が自らの進路について、視野を広げ、深く考える。

5 グローバルスタディーズキャンプ(4年)

各業界でグローバルに活躍している著名な講師を招き、講演会やワークショップを実施している。2泊3日の活動を通じて、世界の現状を知るとともに様々な生き方を学び、国際感覚を磨く。

6 海外グローバルリーダー研修(5年)

米国スプリングフィールド市のミズーリ州立大学を拠点に、11日間の語学研修や国際交流活動を行う。現地では、フィールドワークやボランティア体験などの当該校がミズーリ州立大学と連携して開発したプログラム(国連の示すグローバルイシューを中心としてプログラム)を通して、「貧困」「資源」「福祉」「教育」など

について体験的に学習（職業体験、ボランティア体験）を行う。

7 ソーシャルビジネスを立ち上げよう（5・6年）

これまでの学習を生かし、自分たちの住む身近な地域社会の課題として、高齢化や地元の活性化などの社会問題を見つめ直し、持続可能な解決策となるようビジネスの観点から考えることを通して、社会への関心を高め、社会との関わりの中で自らの生き方を考える。

以上のことから、本校が表彰にふさわしいと考え、キャリア教育優良校として推薦するものである。

<群馬県>（種別：学校）群馬県立勢多農林高等学校

推薦理由

本校では、農業や地域産業の発展に貢献できる人材、農業のグローバル化に対応できる人材育成を目標に、教育活動全体を通じてキャリア教育を推進している。また、食料・環境・生命・健康の関連分野を担う「将来のスペシャリスト」として必要な「基礎・基本」を身に付けさせ、職業人としての豊かな人間性を育み、勤労観・職業観の育成に努めている。

平成28年度から、文部科学省のスーパー・プロフェッショナル・ハイスクール（SPH）事業の指定を受け、「勢農ブランド確立への挑戦！未来の農業を拓く専門人材育成プログラムの開発～地方創生や成長産業としての農業を担うための資質・能力の育成について～」を研究開発課題として、取り組んでいる。3年間の学習を通して、生徒に身に付けさせたい力を「課題解決実践力」とし、「学習指導法」「地域連携」「キャリア教育」を3本の柱として研究を進めている。キャリア教育では、これまで展開してきた系統的なインターンシップを更に発展させるとともに、先進地見学や大学講師等による授業、就農・雇用就農育成に向けての取組についても教育課程に位置づけ、生徒の基礎的・汎用的能力の育成を図っている。

1 系統的なインターンシップの取組

地域の企業や施設との連携により、各学科（6学科12コース）に関連の深い職業現場でインターンシップを行い、各分野での課題の発見と、その解決力の向上を目指している。具体的には、1年次の短期インターンシップ（3日間）、2年次の長期インターンシップ（6日間）、3年次のデュアルシステム（20日間以上）を通じて、生徒の知識・技術の習得段階に合わせて系統的に実施することで、生徒の専門的な学習意欲の向上につなげている。

(1) 短期インターンシップ（1学年各学科全員 239名）

1年次の短期インターンシップを通して、専門分野の現状を理解させ、「課題発見力」の育成を図っている。生徒のアンケート結果からは、現場での経験を通して職業意識の向上が見られ、勤労観・職業観の育成につながっていると考える。

(2) 長期インターンシップ（2学年各学科全員 234名）

2年次の長期インターンシップでは、1年次の「課題発見力」から「課題解決力」の育成へとつながるように取り組んでいる。生徒は、6日間のインターンシップにより、各学科の関連分野の職業について深く理解し、地域の農業及び農業関連分野の課題と、各事業所で取り組んでいる課題解決に向けた工夫について、理解を深めた。アンケート結果からも専門分野での学習や経験を進めていく中で、より現実を理解し、自己理解が進んでおり、更には現場での経験を通して職業意識の向上に繋がっていると考える。

(3) デュアルシステム（3学年各学科希望者）

3年次の希望者に対して、デュアルシステムを展開している。具体的には、今年度、10名の希望者が先進農家や牧場、食品会社等で「課題研究」の時間等を活用して就業体験を実施している。生徒のレポートや、実習中の発問への受け答えなどから、専門分野の確実な知識・技術が習得され、人間関係の経験を積むことによるコミュニケーション能力が向上していると考えられる。

2 専門科目におけるキャリア教育の推進

1学年は、学校設定科目「農業と人間」、2・3学年では、学校設定科目「地域連携Ⅰ」「地域連携Ⅱ」でポートフォリオ等を活用したキャリア教育の指導の充実を図っている。本校におけるポートフォリオ（本校ではSPHファイルと命名）では、生徒の日々の学習活動の記録と学期毎の振り返り用紙を利用し、自己理解や進路啓発を促している。ポートフォリオを導入したことにより、漠然とした目標や考えが整理され、明確になっている。また、学習を重ねることにより、より具体的な進路目標の設定ができるようになったことで、基礎的・

汎用的能力の育成につながっていると考える。

3 先進地見学研修

1年次に学校設定科目「農業と人間」を活用して、農業及び農業関連分野の現場見学を実施している。2年次では、学校設定科目「地域連携Ⅰ」を活用して、現場見学の時間を設け、生徒の進路意識の向上を図る機会としている。具体的には、植物科学科では、1年次に農業生産関連企業、2年次に流通・加工関連企業を見学している。また、動物科学科では1年次に食肉卸売市場、2年次に関連大学等の見学研修を実施している。このように本校では、職業意識や進路意識の向上をねらいとしたキャリア教育を実践している。

4 大学講師等による授業への取組

各学科の内容に特化した専門的な講師による講義により、新たな発見・発想から、「課題発見力」「課題解決力」「プロデュース力」の育成を図っている。具体的な授業としては、「県内畜産業の現状と養豚産業の今後について」、「企業が求める社会人としての資質とは」等があげられる。また、大学講師による授業では、「研究のまとめ方と発表の方法」、「農業マーケティング」、「実例から学ぶ勢農ブランド商品の作り方」等をテーマに、専門分野の現状を踏まえ、専門的な知識・技術の習得はもとより、進学意識の向上にもつながっている。今年度も、農業分野における先進的な知識・技術の習得のため「農業ICTの活用について」等の授業を企画している。

5 就農・雇用就農ガイダンスへの取組

農林業に興味・関心を持つ生徒を対象に、地方自治体や就農希望者を募集する農業法人を招聘し、新規就農に関するセミナー等での意見交換を行っている。これを通して、先進的な農林業等の現状を知り、農林業の諸問題や将来像などについて意見を交わし、将来、本県農林業を担う人材（就農・林業就業等）の確保と育成につなげている。今年度は、県・法人協会と連携し、本校独自の就農・雇用就農ガイダンスを開催した。また、県主催の「就農相談会」、農林水産省・厚生労働省後援の「新・農業人フェア」への参加も企画しており、本県農林業の人材育成を推進している。

以上のことから、本校が表彰にふさわしいと考え、キャリア教育優良校として推薦するものである。

<群馬県>（種別：学校）群馬県立高崎高等特別支援学校

推薦理由

県立高崎高等特別支援学校は、平成8年4月に群馬県立高崎高等養護学校として開設された。「澄みわたる 大空のような広い心を目指して～明るさ・素直さ・思いやり、そして感動～」を校訓に、更に平成20年には、社会の変化に伴う教育環境の変化に合わせて、これまでの校訓を学校の基本的な教育姿勢として堅持しつつ、「自立意欲 礼儀」を新たな校訓とし、引き続き生徒一人一人の自立と社会参加を目指す教育に取り組んでいる。

キャリア教育は、本校が目指す教育の大きな柱となっており、その中でも、平成27年度から取り組んでいる「介護人材育成プロジェクト」は、慢性的な介護現場の人材不足に着目し、地域の介護人材の確保と、生徒の社会的職業的自立に向けた能力や態度の育成、そして、卒業後の進路選択の幅を拡充するプロジェクトとなっている。

以下に「介護人材育成プロジェクト」の主な特色を示す。

1 介護職員初任者研修の受講で資格習得までつなげる

介護職員初任者研修は、介護実務の入門資格であり、専門学校や介護施設、通信講座など、様々な受講方法がある。当校では、群馬県の指定を受け、特別支援学校の教育の中で、資格を取得できる。資格を取得するために、130時間の履修と筆記試験が課されるが、特別支援学校の教育活動の中で受講できるよう、計画されている。また、大学教授などから講師を選定し、専門的、具体的な内容を学んでいるとともに、知的障害のある生徒の特性に合わせた指導を行い、27年度は4人、28年度は5人、29年度は4人の取得者を輩出しており、30年度も6人が受講している。

2 「資格取得」から、社会的職業的自立を目指す

「資格を取る」ことは、生徒たちの自己肯定感を高めることにも有用であり、社会的に認められている資格を取ることで、生徒たちは、より自信を持って社会に出ることができるようになる。また、研修の内容は、介護福祉サービスの理解や介護におけるコミュニケーション、人権の尊重など、介護の専門性ととともに、社会的自立に必要な能力や態度を身につけることができる。

3 地域に開かれた学びから、卒業後の進路を広げる

群馬県は、介護人材の確保が課題となっており、また、各地域に高齢者介護施設も整備されてきていることから、特別支援学校高等部生徒の卒業後の就職先としても、注目されている（平成29年度卒業生の産業別就職順位では2位）。こうした社会情勢も踏まえ、群馬県から研修事業者の指定を受け、学校で介護職員初任者研修を実施できるようにした。また、ほかの特別支援学校にも、参加する生徒を募り、体験的な研修の機会も設定している。

以上のことから、本校が表彰にふさわしいと考え、キャリア教育優良校として推薦するものである。

<埼玉県>（種別：学校）皆野町立皆野中学校

推薦理由

「系統的なキャリア教育の推進とグローバル人材の育成～社会的に自立し、グローバル化に対応できる資質・能力の育成～」を研究テーマとし、キャリア教育を軸にした教育活動を展開し成果をあげている。

(1) 「6 skills」による教育活動（教科指導にキャリア教育の視点を取り入れる）

本校では基礎的・汎用的能力を「人間関係形成能力、社会形成能力、自己理解能力、自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力」の6つの能力に分け、「6 skills」として授業をはじめ全教育活動を通して育成するよう組織的に取り組んでいる。教科指導において「6 skills」と本時の授業との関連や育成したい能力をわかりやすく生徒に示している。各教科で育成する6つの能力を一覧表にまとめたり、研究授業の指導案にも6 skillsの視点を明示したりして教職員の共通理解を図っている。また新年の決意発表会を全校で取り組みキャリアプランニング能力の育成に成果をあげている。

(2) キャリアパスポートの作成

平成30年度から6 skillsの視点を取り入れた「皆野中学校キャリアパスポート」を作成し、全職員で様々な試行や検討を進めている。

(3) 小中連携・中高連携によるキャリア教育の推進

【高等学校体験授業】1年生・2年生の全員が体験。専門学科等の授業体験により、上級学校を知るとともに、職業観も養う事でキャリアプランニング能力を育成する。

【進路説明会】3年生の全生徒・保護者を対象に実施。秩父地区県立4校の高等学校の教員とハローワークの職員の話から進路選択の方法や進学・就職の意義を知る事でキャリアプランニング能力を育成する。

【新1年生体験入学・出前授業】中学入学前の6年生を対象に実施。小・中学校教員連携により円滑な小中接続をめざしている。

【進路指導の充実】県立高校との連携によるTT授業で3年生の上級学校理解を促進。3学年担任に秩父地区県立4高校と私立高校の協力による視察研修を課して進路指導の一層の充実に努めている。

(4) 地域との連携（社会福祉協議会・商工会・産業観光課・みらい創造課との連携協力関係の確立）

【福祉体験】1年生全員が1日町内の福祉施設において体験。利用者の方との交流を通して人間関係形成能力や社会形成能力を育成する。

【職場体験】2年生全員が3日間、町内やその周辺の企業や事業所で体験。働くことの意義について考える機会となっており、自己理解能力や自己管理能力を育成する。

【浅草との交流】1年生全員が皆野町と交流のある浅草を訪れ体験学習を実施。また3年生は浅草雷門盆踊り大会に出場し、郷土芸能である秩父音頭を披露。浅草の魅力を学び、皆野町の魅力を他に伝えることで生徒自身の地域への関心を高め、地域への愛情を深めている。

【ボランティア体験】生徒会を中心としてのロードサポートや川の国応援団などの清掃活動や地域のイベントへのボランティア活動に積極的に参加している。地域に目を向け社会参画への意識を高めている。

(5) グローバル人材の育成

【英語検定への挑戦】皆野町による英語検定の補助制度を活用し、英語検定3級以上の取得者数を増加させている。

【外国人との交流】皆野町の支援により修学旅行において外国人留学生と京都を巡る活動を行っている。英語でコミュニケーションしながら皆野町を紹介したり見学をしたりすることで人間関係形成能力や課題対応能力を育成している。

【早稲田大学との交流】皆野町を研究のフィールドとしている早稲田大学と交流をしている。学生の中には様々な国からの留学生もおり、外国人の視点から地域や日本について考える機会になっている。

(6) キャリア教育の数値による成果

平成30年度埼玉県学力・学習状況調査の質問紙調査結果で、「将来の夢や目標を持っている」「町の歴史や自然への関心がある」「自分にはいいところがある」の項目で肯定的な回答が80%となり、県平均66%と比較すると14ポイントも高くなっている。

以上のようにキャリア教育を学校教育の基盤として取り組み、具体的な成果をあげている皆野町立皆野中学校を強く推薦するものである。

<千葉県> (種別：学校) 流山市立東深井中学校

推薦理由

地域の事業所や宿泊体験先等と連携し、生徒が将来に活かせる体験の場を設定するなど、キャリア教育を計画的に推進してきた。平成29年度には、「関東甲信越地区中学校進路指導研究協議会」に参加し、自校の実践を県内外に発信している。以下、その具体的な取組を推薦の観点に沿って示す。

1 観点①について

「職業を選択するにあたっては、幅広い選択肢をもつことが大切である。」という考えのもとで、第一次・二次・三次産業それぞれに該当する職業体験を生徒が3年間で体験できるよう、計画的な取組がされている。

<具体的な取組>

(1) 職業人講話（1年生対象）※5～8人を講師に屋台村方式で実施

(2) 体験活動

ア 第一次産業体験（2年生対象）

林間学園の民泊先の家族と農山村体験の実施（田植え、畑の作付け、山菜採り、釣り等）

※「食」に直接関わる体験もねらいの一つとなっている。

イ 職場体験学習（2年生対象）※多くの生徒が第三次産業を体験

(ア) 事業所数 142 ※目的や責任感をしっかりもって体験に臨ませる趣旨から、1つの事業所に生徒一人で体験に行かせることを基本とする。

(イ) 体験日数 3日間 ※事業所の休業日等への対策として、体験日によっては、他の事業所に行くことを可とする。

ウ 第二次産業体験（3年生対象）

(ア) 修学旅行 ※京友禅体験

(イ) 職人文化体験（熊手・提灯・江戸切り子・藍染め・風鈴・友禅染・漆・江戸小紋等）

※東京都墨田区・台東区中心に職人の匠の技に触れることで、ものづくり大国・技術立国日本を実感させるねらいもある。

2 観点②について

「日本の経済を支える一員になる。」という自覚をもたせるために、観点①の体験活動を活かしながら、社会科の学習で「会社を起こす学習」に取り組みせ、生徒に労働の意義を考えさせたり、生徒の職業観・勤労観の育成につなげたりしている。

3 成果について

(1) 生徒は、将来の職業への関心を高め、幅広い進路選択を行うようになった。

(2) 全国学力・学習状況調査の「将来の夢や目標を持っている」という質問項目において、前向きな回答をした生徒の割合が全国平均を上回る。（平成28・29年度実績）

以上のような取組や成果を評価し、優良学校として推薦する。

＜東京都＞（種別：教育委員会）府中市教育委員会

推薦理由

以下の特徴を生かした職場体験事業を実施することで、生徒一人一人の社会的・職業的自立に必要な、基盤となる能力や態度の育成に多大なる功績をあげていることから、本表彰に推薦する。

1 職場体験学習を推進するための「職場体験事業実行委員会」の設置

各校の職場体験学習の推進・充実を図るため、職場体験事業の担当校長、担当副校長及び各中学校の担当教員1名を委員として、「職場体験事業実行委員会」を年間4回実施している。平成20年度から全ての市立中学校で5日間の職場体験学習を実施しているが、各学校の円滑な実施を支援するため、特定の事業所に依頼が集中しないよう協力を依頼する事業所の事前調整や、保育園や食品を取り扱う事業所で必要となる細菌検査の取りまとめ等を行っている。また、職場体験学習実施後の成果と課題の共有及び改善策の検討や、次年度の各校の実施日程の調整等を行っている。

2 関係諸機関との連携を強化するための「職場体験事業推進協議会」の設置

職場体験事業を推進するため、職場体験事業推進協議会を設置している。本協議会は、府中公共職業安定所、武蔵府中法人会、むさし府中商工会議所、むさし府中青年会議所、市内私立幼稚園、市内NPO法人、府中市立小・中学校PTA連合会、市内の保育園を所管する府中市役所保育支援課、職場体験事業の担当校長及び担当副校長、教育委員会指導室で構成されている。年間2回、6月と2月に会合を行い、職場体験事業の目的の確認や、関係諸機関との緊密な連携体制の構築、各年度の成果と課題及び改善策等についての共通理解を図っている。

3 各学校における職場体験学習の充実に向けた支援

職場体験の実施に向け、全市立中学校において「仕事や職業に関する喜びや厳しさを知る」、「人との出会いや触れ合いを大切にする」、「自ら考え、学び、行動する」等、職場体験のねらいや目的を明確にした職場体験実施計画を作成させている。その際、実施計画の内容について、将来の社会的・職業的自立に向けた生き方の指導を含めた事前・事後指導となるよう指導・助言を行い、職場体験を通じた学習の質的向上及び内容の充実を図っている。

＜東京都＞（種別：学校）町田市立金井中学校

推薦理由

以下の特徴を生かしたキャリア教育を実践することで、生徒一人一人の社会的・職業的自立に必要な、基盤となる能力や態度の育成に多大なる功績をあげていることから、本表彰に推薦する。

＜地域人材を生かしたキャリア教育の実践＞

地域人材を活用し、「働くことの意義」「仕事のやりがい」「人との関わり合い」を3年間で計画的に実践している。

(1) 1年生

- 浴衣着付け教室

地域の方に浴衣の着付けを習い、それと同時にボランティア精神について学ぶ。

- 職業人の話を聞く会

地域人材を生かして、6～7人の方を招いて仕事についてのお話を聞き、将来の夢を考えさせる。

(2) 2年生

- ビジネスマナー講座

プロのマナー講師を招き、職場体験前に話し方や礼儀を学び、日常生活にも役立てる。

- 異文化対応力講座

英語国内留学の前に英語会話や外国文化を学び、将来の職業選びに役立てる。

- 英語国内留学

国際人を育成するために2泊3日の英語国内留学を行い、英語に対しての違和感を取り除き、外国文化に触れさせることで、将来世界に目を向けられる人材を育てる。

- 5日間の職場体験

1年生から学習してきたことを糧にして職場体験を行う。その際、希望する職業が体験できるように、学習支援ボランティアの協力を得て体験場所を探す。

(3) 3年生

○ 保育実習

近隣の小学校に出向き、小学1年生を対象に手遊びやゲーム、歌のプレゼントなどをして保育で学んだことを実践する。それと同時に保育という職業に就いて考え、将来の職業選びに役立てる。

(4) 全学年を通して

○ アンガーマネジメント教育

怒りをコントロールする方法を学び、将来職場で働いた時の人間関係の調整を学ぶ。

(5) 学習支援ボランティアの協力

キャリア教育に関わる様々な活動を実現するために、地域人材への要請や連絡・調整、職場体験先の開拓などに貢献している。

これらの取組を通じて、地域を支える人々と緊密に連携したキャリア教育を推進している。

<東京都> (種別：学校) 調布市立第六中学校

推薦理由

以下の特徴を生かした職場体験事業を実施することで、生徒一人一人の社会的・職業的自立に必要な、基盤となる能力や態度の育成に多大なる功績をあげていることから、本表彰に推薦する。

1 地域と連携して取り組む中学生職場体験学習

担当学年、校内委員会等にとどまらず、市教育委員会と連携しながら、組織的に受け入れ事業所との調整を行っている。その際、地域との連携を密にすることで、近隣の大規模商業施設を含め、新規の受け入れ事業所を開拓している。地域との連携を深め、多様な人々との交流を図ることで、生徒の社会的・職業的自立に向けた基盤となる能力や態度が育成できるよう、職場体験学習を計画している。

2 学校長を中心としたキャリア教育の充実

学校長が市の「職場体験推進委員会」の担当校長を務め、市内全中学校8校の職場体験事業の取りまとめを実施している。取りまとめを通じて明らかになった成果や課題、改善点を基に、事前・事後学習の内容や、受け入れ事業所との連携方法等、職場体験学習の内容の改善を図っている。学校長を中心として組織的に職場体験学習を実施することで、キャリア教育の推進・充実を図っている。

<東京都> (種別：学校) 東京都立芝商業高等学校

推薦理由

教育理念を「ビジネス教育を核とした教育活動を通じて、グローバル化する社会環境の中で自立することのできる人材の育成を使命とし、人権尊重・社会貢献の精神を育み、勤労意欲に溢れ、正しい職業観と社会性をもった人間を育成する。」と位置付け、意図的、系統的なキャリア教育に取り組んだ。

(1) インターンシップ事業の取組

- ・1学年全員のインターンシップを実施
- ・国際ロータリーと東京都教育委員会の連携によるインターンシップ事業成果発表会で取組を発表

(2) 「模擬株式会社芝翔」を核とした地域連携の取組

- 福島県池田町との連携事業
 - ・近隣商店街との連携して開発した菓子や雑貨などの商品販売
 - ・「第13回ふれ愛まつりだ、芝地区！」にて、池田中学校3年生とともに販売活動を実施
 - ・同町の冒険体験施設で「能面のまち」をアピールするお面作りの企画を実施
- 竹芝地区まちづくり協議会との連携事業
 - ・「竹芝夏ふえす」のコラボレーションステージに合唱部、軽音楽部が出演
- 「浜まつり」での企業との連携

- ・文化放送と連携し、キッズエキスポの企画運営に生徒が参加
- (3) 総合的な学習の時間や特別活動、部活動において、生徒の幅広いキャリア形成に取り組んだ。
- ・港区社会福祉協議会と連携し、西日本豪雨による被災者支援のための募金活動を実施
 - ・株式会社ゆりかもめでプレゼンテーションした企画を実現させ、1カ月間の傘無料貸し出しを実施
 - ・愛宕警察署の依頼を受け、春の交通安全運動に協力

<東京都> (種別：学校) 東京都立多摩桜の丘学園

推薦理由

地域企業、福祉推進会議等と連携した、高齢者の買い物支援の取組。

当該校は、東京都多摩市・稲城市にまたがる多摩丘陵に位置し、日本最大規模の団地群である「多摩ニュータウン」の中に位置している。

現在、ニュータウンでは、住民の方の高齢化が進んでおり、中でも自家用車の運転ができない世帯では、起伏の多い地形のため、近隣のスーパーマーケットに買い物にでかけることについて大変な不自由があり、生活用品を整えることが困難な状況がある。

当該校では、このような地域住民の生活上の困難を改善すべく、地元の企業等や地域福祉推進会議等と連携を図り、地域における「買い物物品運搬支援」に、生徒のキャリア教育の一貫として取り組み、学習成果をあげている。

具体的な学習活動は、高等部生徒が、高齢者である依頼者が買い物した購入品を、依頼者に同行しながら自宅まで運搬している。運搬の途中には、高齢者の方との会話も弾み、依頼者から感謝やねぎらいの言葉をかけられ、多くの生徒が達成感や充実感を得ている。

このような学習の積み重ねにより、人のために役立つ喜びや人から感謝される経験、そして地域に貢献していくことを実感することができ、自らの進路について、深く考えることに意欲的になってきている。

また、この全く新しい取組は、新聞社数紙でも取り上げられ紹介されるなど、全国からも注目されている。

当該校で実施している地域のニーズに応えるための運搬支援は、今までにない地域活動であり、特別支援学校で学ぶ知的障害のある生徒の可能性を最大限に引き出しているものである。また、本学習活動は組織的に行われており、持続性がある。

当該校の地域の特色を最大限に生かした学習活動であり、生徒の進路に対する関心が向上していることなど、キャリア教育推進の面から、顕著な成果がみられることから推薦する。

<東京都> (種別：学校) 東京都立大島高等学校

推薦理由

島しょ部の学校のため、進路選択の幅が広がるよう、職業観、勤労観の育成に重点を置いている。普通科・農林科・家政科がそれぞれの強みを活かし、地域・社会や産業界の多様な関係者と連携した取組を行っている。教育機関として世界初の「国際優秀つばき園」に認定された農林科の取組は、島内の産官学の連携であり、認定後も生徒の主体的な活動や進路実現につながっている。

近年は観光客の減少と過疎化・高齢化が大きな課題であり、里山も放置林化し、荒廃が進んでいるが、本校椿園を中心にツバキを活用する取組をしている。

① 国際優秀つばき園の活用

平成25年の土砂災害からの復興と観光振興を目的に、島内の産官学連携として、平成28年、東京都立大島公園椿園、民間の椿花ガーデンとともに「国際優秀つばき園」に認定された。授業では、椿園の管理作業や、新品種作りなどの学習教材として、地域資源であるツバキを活用している。椿まつりでは、生徒による椿ガイド(日本語と英語)を実施し、生徒が調べたことを説明している。また、今年度、第10回高校生観光選手権「観光甲子園」において、伊豆大島の豊かな自然と文化を楽しむ「伊豆大島 TSUBAKI 三昧の旅」を発表し、「金賞」を受賞した。

② 環境保全

防災や地域資源の活用として、林地の保全ボランティア活動により地域の里山の整備・再生に取り組んでい

る。地域のNPO法人と連携して地域の巨木「仙寿椿」を管理、再生し、日本ツバキ協会の優秀古木認定を達成した。大島椿樹の「伊豆大島つばき座」プロジェクトに参加し、里山の再生活動を行い、炭や油の原料確保に協力している。

③ 関係機関との連携

地域の企業と連携した椿油作りや、東京工業大学と連携した椿炭の研究（伊豆大島椿炭プロジェクト）、日本ツバキ協会や地域のNPO法人との連携を通じて、伊豆大島のツバキの魅力を発信している。

<東京都>（種別：学校）文教大学附属中学校・高等学校

推薦理由

文教大学附属中学校・高等学校では、文部科学省が学習指導要領に掲げているキャリア教育の方針に従い、中高一貫6カ年を通じて、『文教キャリア教育プロジェクト』と銘打った独自のキャリア教育プログラムを展開している。

「今日の最新が日々変化する世界の中で、常に学び続け、活躍できる人材の育成」を中高6カ年のキャリア目標に掲げ、中学1・2年次には「既知の未知化」、中学3年・高校1年次には、「未知の知識化」、そして高校2・3年次には、「知識の未来化」とブロックごとに大枠を定め、更に2学年ごとのブロック目標、学年ごとの目標をCan-Doにより具体化し、明確な目標を設定することで、段階的にキャリア意識を養っていきけるようにカリキュラムを編成している。

また、「総合的な学習の時間」及び、学校行事等を有機的に関連づけ、キャリア教育を効果的に実施していくために、キャリアプログラムに準拠した独自開発教材、キャリア教育ノート『NEWTON』を活用している。独自の教材『NEWTON』を使用することで、教員による指導力の格差を解消し、生徒ひとりひとりに対して、キャリア教育の「質」を保証することを可能にしている。

また、毎年、年度末には、学校行事として「総合学習発表会」という成果発表の機会を設けることで学年、クラスの枠を越えて波及効果を与えられるようにしている。

「文教キャリア教育プロジェクト」を通じて、授業や学校行事に対する学習意欲を向上させ、社会に飛び立った生徒たちは、人生を通じて、物事（仕事）の中にやりがいと生きがいを見だし、2045年人工知能が人間の知能を超えた技術的特異点の時代をしっかりとした力で生き抜いていくと確信している。

<東京都>（種別：団体）府中市立小中学校PTA連合会

推薦理由

職場体験事業の推進に関わり、以下の内容について取り組むことで、生徒一人一人の社会的・職業的自立に必要な、基盤となる能力や態度の育成に継続的に寄与していることから、本表彰に推薦する。

○ 職場体験事業への継続的な関与

平成20年度以降、継続して職場体験事業推進協議会の構成員として本事業の推進に尽力している。具体的な取組内容は以下のとおりである。

- ・府中市内の企業等に対する職場体験事業への協力の呼びかけ
- ・中学校と協力事業所等との連携体制の構築
- ・各中学校PTA広報誌等を活用した本事業の広報活動

<神奈川県>（種別：学校）神奈川県立横浜清陵高等学校

推薦理由

【キャリア教育実践プログラムについて】

- 神奈川県では、キャリア教育のより一層の充実に向けて、すべての県立高校において、学校の教育活動全体で取り組む「キャリア教育実践プログラム」を策定し、それに基づいて各校でキャリア教育に取り組んでいる。
- 当該校では、入学から卒業までの3年間を見通したキャリア教育実践プログラムがしっかりと確立されており、各年次における目標を明確に示し、その実現へ向けた年間指導計画がきめ細かく策定されている。

- 計画に沿って指導を進めるに当たり、各々の場面での指導・支援等のポイントや育みたい生徒の姿等が、計画の進度に合わせて捉えやすく示されており、全職員が認識を合わせ、統一した指導を展開できるプログラムとなっている。

【特徴的な取組について】

- 当該校は、平成29年度に単位制総合学科から単位制普通科に学科改編されたが、総合学科高校として培ってきたプログラムを生かし、「総合的な学習の時間」等を通して、3年間の発達段階に応じたキャリア教育の推進に向けた指導計画が系統立てて組み立てられている。
- 例えば、地域社会へのインタビュー実習や外部の企業等と連携し、課題解決に取り組むプログラムが、年間を通した計画として年次に応じた効果的な内容で組み入れられており、実践されている。
- 1年次での社会人へのインタビュー実習は、一年生全員が個々にキャリアに結び付く人を自ら折衝をして取材、まとめるもので、社会との結び付きや自身のキャリアを考える貴重な機会となっており、地域からも高い関心と評価を得ている。また、2年次での企業からのミッションを教材としたクエストエデュケーションと呼ばれる探究活動は、社会で求められる実践的な能力や態度を身に付ける学習活動として大変有効なものであり、当該校の特徴的な取組として注目できるものである。

以上のような取組を通し、着実なキャリア教育の推進に努めていることから、当該校をキャリア教育優良学校として推薦する。

<新潟県> (種別：教育委員会) 胎内市教育委員会

推薦理由

1 キャリア教育を推進する組織

(1) 小中高でつながる胎内市キャリア教育推進協議会

胎内市教育委員会が中心となり、青年会議所や市商工観光課など地元事業所や行政関係者、小中高校長会、各学校のキャリア教育担当で組織されている。この協議会で「職場体験活動で身に付けたい資質や態度」等を協議し、これからのキャリア教育の在り方を検討している。

2 キャリア教育の取組の概要

(1) ふるさと体験学習

小学5年を対象に宿泊体験学習を実施。市内の教育資源を活用した農村生活体験や民泊体験、直接自然とふれあう体験等を通して児童の郷土を愛する気持ちが着実に育っている。

(2) 子どもハローワーク

小中学生を対象に、勤労体験の場を紹介・提供するとともに、体験終了までの一連の活動を支援している。7月の中条駅開業イベントにおいては、小学生がメモリアルアートに取組み、中学生がセレモニーの司会や運営に携わり、市民とともに未来を描く活動に貢献した。様々な活動を通して児童生徒が自分の夢に向かって挑戦する意欲を育み郷土への貢献意欲を高めるとともに、地域の活性化にも貢献している。

(3) 職場体験学習・インターンシップ

中学2年が市内の事業所で3～4日の職場体験活動を実施。高等学校では事業所とともに地元産業を生かした商品開発を実施。

教育委員会では、地域や事業所等との連携を図り、生徒の望ましい勤労観・職業観を育むよう支援している。地域全体で支援する輪が広がっている。

3 キャリア教育を支える施策

(1) 胎内市のキャリア教育～職場体験学習ガイド～

小中高でつながるキャリア教育の推進、職場体験でねらう資質・能力、学習プログラム作成にかかる共有化を図るため、このガイドを作成し、周知啓発している。

(2) 胎内市立小中学校のキャリア教育プランの作成

小中学校のキャリア教育全体計画作成を指導。進むべき方向を明確にした。

(3) 胎内市キャリア教育の取組に関する報告書の作成・配付

地域や事業所の理解と協力が一層得られるように、教育委員会と学校の取組をまとめた報告書を作成し、広報に努めた。

<新潟県> (種別：学校) 長岡市立脇野町小学校

推薦理由

脇野町小学校では、豊かな体験と確かな学びで夢を描き志を立てる力と生き抜く自信を育む教育を行っている。主に、一人ひとりの子どもが自信と夢をもって成長していくため、それぞれの子どもの良さを見つけ、やる気や学ぶ意欲を引き出すための取組や地域や学校間との連携・協力を主体的にしたキャリア教育の推進に取り組んでいる。

1 発達段階に応じた、地域への貢献意欲を育む取組

(1) 低学年：地域の人を知り、つながりをつくる

地域交流の一貫として、校内に地域交流ランド「アルパカランド」を設置して、児童・保護者・地域の方たちが交流できる憩いの場を作っている。憩いの場を管理し、アルパカの入学式や卒業式等のイベント活動を通して自ら考え問題解決する力を培うとともに、地域との絆の大切さを感じている。

(2) 中学年：地域の人と産業を知り、地域に発信する

総合的な学習の時間に地域の商店等を調べたり、それぞれの商店で職場見学・体験を経験したりし、地域のよさを「みしまいいところマップ」にまとめ発信した。地域で働く大人の姿に触れ、勤労観・職業観や地域を愛する気持ちが育っている。

(3) 高学年：地域の歴史と伝統産業を知り、その良さを社会に発信する

長岡空襲、中越地震から立ち上がってきた地域の歴史、長岡花火に込められた慰霊の念や平和への願いを学習している。東日本大震災の被災者のことを知り、岩手県陸前高田市を元気づけようと、長岡の花火師と構想を練り、被災地に花火をあげることで復興支援活動を行ってきた。

これらの活動を通して、地域への愛着や誇りを土台に、自己の生き方を考え、地域に貢献する態度が育っている。

2 地域の一と・もの・ことを生かした多様な組織連携

(1) 継続的な体験活動の充実

・長岡市教育委員会が行う「熱中！感動！夢づくり教育」「学校・子どもかがやき塾」事業を活用。児童に継続的な体験活動の充実を図る。

(2) 地域人材を活用した学習活動の充実

・地域教育コーディネーターが中心となり、学校と地域の方々と連携した学習活動を推進している。

<新潟県> (種別：学校) 上越市立雄志中学校

推薦理由

1 キャリア教育を中核とした教育課程の編成

- ・平成21年度からすべての教育活動をキャリア教育の視点からとらえ直し、全校体制でキャリア教育に取り組んでおり、今年度で10年目となる。
- ・生徒に育みたい力を、キャリア教育の視点から、「郷土愛」「かかわる力」「みつめる力」「やり抜く力」「夢おこす力」の5能力とし、各教科・領域をはじめ教育活動全体を通してその育成に努めている。
- ・実施計画や授業指導案のねらいにキャリア教育の視点を明記し、教育活動全体を通してキャリア教育推進に取り組んでいる。特に、平成30年度からは、推薦中学校だけでなく、中学校区すべての小学校でも実施している。

2 共通キャリア教育学習プログラムに基づいた小中一貫した取組

① 中学校区キャリア教育取組プラン

- ・中学校区共通の目指す子ども像を設定し、その具現に向け、キャリア教育の視点から小中一貫した教育活動を展開している。
- ・郷土の資源を生かしつつ、小中学校及び地域が連携して郷土愛を育む「郷土愛着カリキュラム」を構築し、主に生活科、総合的な学習の時間において、小中一貫したキャリア教育学習を展開している。

② 評価規準一覧

- ・中学校区で、それぞれの活動における「評価規準一覧」を作成するとともに、活動の事前・事後における

学習ガイダンスや振り返り活動に活用できるように、各学年及び活動における重点的に育みたい力（具体的な生徒の姿）を明確にしている。

3 キャリア教育アンケートによる実態把握と活動改善

- ・新潟県の「新潟っ子をはぐくむキャリア教育アンケート」を年間3回（4月、7月、12月）に実施している。その際、5視点（能力）における生徒実態を把握し、以後の活動改善に役立てている。
- ・平成30年度からは、推薦中学校だけでなく、中学校区すべての小学校でもアンケートを実施している。特に、中学校区で部会を年3回程度開催するなど、小中一貫してキャリアの視点からの子どもの資質・能力育成に努めている。

<新潟県>（種別：学校）新潟県立栃尾高等学校

推薦理由

同校は地域の課題解決や郷土愛を醸成する活動を地域と協働して行い、生徒の将来の自己実現を図る活動を実践している。

このことにより、地域に対する愛着心と誇りを醸成し、生徒は自発的かつ積極的に行動するようになった。地域とともに歩む学校づくりをとおして、将来の自己実現に向かって進路を決める生徒や新たな職業への興味を持つ生徒が増えた。

【具体的な取組】

- 地域に対する愛着と誇りの醸成
 - ・地域探訪として、地元外部講師による校外での体験活動等を通して、栃尾地区の町並み・歴史・産業等の理解を図った。
 - ・地域に関する学習成果を地域の施設に展示し、栃尾地区の魅力を住民に広く浸透させる活動を行った。
- 学校と地域の活性化
 - ・総合学科の特徴を活かして開発した。商品を販売するための常設店舗を設置したほか、地元企業と商品開発に取り組み、共同して販売活動を行うことで、地域の活性化を図った。
 - ・オリジナルテーマソングとダンス等を考え、栃尾地域のPRビデオを制作し、市役所の大画面で上映する等、栃尾の魅力を発信した。
 - ・SNSで使用するLINEスタンプを制作、販売し、幅広い年代の人々に栃尾高校のキャラクターを発信した。
- 地域に求められる学校への取組
 - ・「来て！見て！作って！体験フェスティバル」を実施し、地域の子ども達に、夏休みの自由研究のヒントを提案すると共に、イベントをとおして栃尾地域や栃尾高校の魅力を伝えた。
 - ・体験活動等における幅広い世代の方々との交流をとおして、栃尾の文化や産業を深く理解できたことが、地域に求められる人材の育成につながった。

<富山県>（種別：学校）射水市立射北中学校

推薦理由

1 系統的なキャリア教育

（1学年）職業観を育てる取組

- ・保護者等を講師とした「働く人に学ぶ会」や2年生の「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」体験発表会に参加することで、多様な職業について学び、仕事への興味・関心を高める。

（2学年）「マナーアップ講座」「ものづくり企業体験・講演会」

- ・職業観の育成を図るとともに、集会の企画・運営等により主体性を育てる。

（3学年）地域社会への参画

- ・修学旅行で、各分野の企業を見学したり、企業の方から話を聞いたりすることで、働く意義や自分の生き方について考え、将来の進路選択に役立てる。
- ・地域の「福祉、環境、産業、観光、国際理解、防災、まちおこし」から調べてみたいことや実践してみたいことから課題を見付け、調査活動を行う。

2 地域を活用したキャリア教育

(1) 地域での体験活動（1学年）平成25年度より実施

- ・地域の農家の方から指導を受ける稲作や畑作体験、地域の漁業や養殖施設の見学や学習会を通して、地域の産業への関心を高め、職業観の育成につなげる。

3 主体的に社会参画する態度を育む青少年赤十字（JRC）活動

JRCの態度目標「気づき、考え、実行する」を目標として、生徒会が中心となって、様々なボランティア活動に取り組んでいる。

- ・地域の高齢者福祉施設の訪問（平成6年から毎月）や障害者施設入所者の招待、地域のボランティア団体と連携した年2回の独り暮らし老人宅へのプレゼント訪問、地域の敬老会の手伝い等を通して、自分の生き方を考えていこうとするキャリア発達を促す。

<富山県>（種別：学校）小矢部市立津沢小学校

推薦理由

1 1年生からの系統的な活動

生活科と総合的な学習の時間を中心として、地域との関わりを通して課題を見付け、自分の役割を進んで果たす活動に重点を置いている。

- ・6年生は、一連の活動の中で人のために働く大切さと喜びを体感している。
- ・下級生は、6年生の生き生きと活動する姿に憧れを抱いている。これらのことは、本校の伝統や校風づくりにもつながっている。

2 キッズショップにチャレンジ

文部科学省キャリア教育推進事業指定をきっかけに、平成16年から6年生の総合的な学習の時間等で「キッズショップチャレンジ」を実施している。

- ・専門家の助言を受けながら主体的に以下のような活動に取り組む。
 - ① 商工会津沢支部から資金調達
 - ② 商品の製作 ポスター、チラシの製作
 - ③ 店舗の飾り付けや販売の声かけの練習
 - ④ お客さんの立場に立った接客の練習
 - ⑤ 収支を計算して商工会に対して決算報告し、返済

3 地域のイベントへの出店

これまで、キッズショップは自校の学習発表会で出店し、保護者を相手としていたが、本年度、地域の祭りやイベントに出店することで地域振興のために一役担うことを目指している。

<富山県>（種別：学校）滑川市立西部小学校

推薦理由

1 地域の産業を支える人々との触れ合い

地域でものづくりを行っている企業の現地取材では、最先端の仕事や働きがいについて、直接話を聞いている。ものづくりに携わる方々の思いを知り、生き方を学ぶ中で、仕事への関心を高め、職業観や勤労観、郷土愛を育てている。

2 「科学の時間」の「ものづくり」を通して

- ・「科学の時間」は小中学校9年間の系統的な学習であり、「ものづくり」を『活動の柱』の1つに位置付けている。
- ・児童が自らの手で作品を作り上げていく中で、ものづくりの苦労を実感する。
- ・友達から学んだり、自分で創意工夫したりしながら効率的・効果的な技能を身に付ける。
- ・よりよいものを作り出すことでものづくりや科学に興味・関心をもつきっかけとする。

3 「なりたい自分見付け」「職業調べ」を通して

- ・スポーツ選手の話（「ユメセン」：JFA こころのプロジェクト H25～）を聞く機会を毎年5年生対象に設けてい

る。

- ・夢をもつことの素晴らしさ、大切さを感じた児童が、就きたい職業や憧れの人物を調べ、身近な人々にインタビューすることを通して働くことの意味や働く人々の願いについて関心を高め、自己の将来を設計する力を育てている。
- ・児童は職業や人物を新聞を活用して調べ、学習を深めている。

<石川県> (種別：学校) 石川県立翠星高等学校

推薦理由

【学校の概要及び教育目標】

石川県唯一の農業専門高校として、新しい時代の農業に積極的に貢献する意欲や実践的技術を身につけ、地域の「食」と「農業」と「環境」の問題に主体的に関わる態度を育成するとともに農業高校として地域に根ざした活動を推進し、地域の発展に貢献できる人材の育成を目指している。

【起業体験及び新商品開発の実践】

- ・模擬株式会社「SUISEI-FACTORY」設立 (H24) 社員数 12名 株主数 66名
業務内容 企業、大学、各種団体等と連携した地域活性化支援
- ・白山米粉プロジェクト (H21～) 連携先：白山市、白山米粉プロジェクト連絡会、他
開発商品：クッキー、シフォンケーキ、パウンドケーキ、…
- ・金沢ゆずプロジェクト (H23～) 連携先：JA 金沢柚子部会、金沢工大、他
開発商品：柚子マーマレード、クッキー、ピール煮、アロマオイル、石けん、…
- ・白山トマトプロジェクト (H24～) 連携先：JA 松任トマト部会
開発商品：レトルトトマトペースト、トマトパン、…
- ・加賀丸いもプロジェクト (H25～) 連携先：JA 能美、JA 根上
開発商品：加賀丸いもケーキミックス、マフィン、シフォンケーキ、…
- ・野々市ヤーコンプロジェクト (H25～) 連携先：野々市ヤーコン倶楽部、他
開発商品：ヤーこんにちは寿司翠星 (商標登録)、パン、ジャム、…

【課題発見・課題解決能力及び経営能力の育成】

- ・グローバルGAP 認証取得に関する取組 連携先：(有)安井ファーム、県農林水産部
内容 学校農場のリスクマネジメント及び公開審査会の実施

【3年間の系統性を重視したキャリア教育の実践】

- ・「産業探究」(1年)：農業及びその関連産業に関する探究的な学習の実施
- ・「キャリアガイダンス」(1年)：自己の生き方、あり方の学習の実施
- ・「課題研究」(2・3年)：進路を見据えた課題解決型探究活動の実施
- ・平成14年度よりインターンシップを2学年全員で実施 (17年連続)
- ・平成22年度より3年生10名が長期型のデュアルシステムを実施

【積極的な地域交流活動の実践】

- ・地域の保育園、特別支援学校との農業体験等の交流活動
- ・地域の各種イベントでの生徒による生産物販売

<福井県> (種別：学校) 越前市武生第五中学校

推薦理由

当該校のある越前市白山地区は、人口1600人ほどの小さな地区で、若年層の流失や過疎化等の問題を抱えている中、郷土愛を育み、次世代の地域を担う人材を育成するためのキャリア教育を積極的に行っている。さらに、地域と学校が連携することにより、生徒の社会的・職業的自立に向けた、必要となる基盤としての能力や態度を体験活動を通して育成している。

「地元特産のスイカ栽培」では、地元の生産者の方を講師として招き、総合的な学習の時間において、苗の定植から収穫まで生徒自らの手で活動を行っている。また、生徒会役員を中心として「SKI」(しらやま活性化委

員会)を発足させ、収穫した五中スイカを自分たちの手で販売したり、地元ブランド農産物「しらやま西瓜」を広くPRするために、PR動画を作成してイベント等で披露するなど、将来地区を支える産業等を中学生の目線で捉え、キャリアモデルを得る機会とした。

また、校区は、国の天然記念物「コウノトリ」の生息や、希少植物「サギ草」の自生する場所としても有名である。コウノトリについて調査したり、自分たちが栽培した五中スイカの収益金で地元産ドジョウ(生餌)10kgを購入して県に寄付したり、地元にある「サギ草王国」から講師を招いてサギ草を栽培したりと、様々な活動を行っている。こうした活動を通して、地域の自然環境や未来について考えたり、地域貢献意識を高めたりしている。修学旅行では、東京・葛西臨海水族園で、今まで取り組んできた活動やコウノトリが舞う里「白山」を広報するなど、地域に誇りと愛着をもち、未来を担っていこうとする意識を高めている。

さらに、1年生では「いのちのぬくもり体験」を通して、自己の成長を振り返るとともに、親がどれだけ子供に愛情を注いでいるのかを実感することで、自分を大切に生きていこうとする心情を育てている。2年生では様々な職業について調べ、「職場体験」を実施するだけでなく、福井県が輩出した偉人である橋本左内が15歳で啓発録を書いたことに習い、これからの自分の生き方や目標を「私の啓発録」にまとめ、祖父母や保護者を招いて発表会を実施している。

以上のように、地域や家庭とも連携しながら、各教科、総合的な学習の時間、特別活動など、学校の教育活動全体を通して、社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力や態度の育成を継続的に行っている。

<福井県> (種別: 学校) 福井県立羽水高等学校

推薦理由

本校は高度成長期の1963年に福井市南部に普通科高校として設立された。95%以上が上級学校へ進み、またそのうちかなりの割合で卒業生が地元で就労し、地域のために貢献している。平成19年にはキャリア教育調査研究推進校として文部科学省指定を受け、3年間の研究に取り組んでいる。

平成27年からOECD日本イノベーション教育ネットワーク(I SN)参加校となる。I SN事務局を設置し、学校全体で総合的な学習の時間をメインにしたプロジェクト学習(PBL)の取組みを進める。このPBLにおいて1年生では、福井市役所との連携により福井市が抱える身近な課題を見出し、それに対する解決策を自分たちなりに考え、市役所を訪問して提案するという活動を行っている。2年生では1年次に取り組んだ地域の課題に対する意識の高まりを各自の進路意識と結びつけ、PTAの協力による社会人講師を招いての職業に関する講話や適性発見講座、卒業生と語る会などを介して、学問探究や進路選択につなげる論文作成に取り組んでいる。また、福井県議会主催の「ふくい高校生県議会」への参加や、福井市の「輝く女性の未来予想図事業」による卒業生とのトークイベント開催などにも、1年次のPBLとの連続性を意識して積極的に取り組んでいる。こうしたPBLの成果を踏まえ、平成29年には「生徒国際イノベーションフォーラム2017」にも参加している。今年、PBLを一層深化させて国際協働学習を実施するために、香港の学校と姉妹校協定を結んだ。

その他、地元地域の祭事イベントや、福祉施設などの行事への参加協力など、部活動単位での活動も日常的に行われている。

このように、本校は地域と連携した教育活動を展開し、ふるさとへの愛着を深めるとともに、他方でまた広く世界にも大きく視野を広げる活動も進めながら、ふるさとを背負う確かな意志を持つ若者の育成を目指したキャリア教育を実践しているため推薦します。

<福井県> (種別: 学校) 福井県立科学技術高等学校

推薦理由

本校は機械システム科、化学システム科、テキスタイルデザイン科、電子電気科、情報工学科を有する工業高校で、創立110周年を終え県内外で活躍する多くの卒業生を輩出している。企業や地域と連携し「よりよい社会をつくる人となろう」を信条にキャリア教育を推進している。

地元企業と連携した取組みとして、実際の技術や技能を体験するため、2年生全員が3日間のインターンシップを行い、3年生の希望者は、10日間の長期インターンシップを行うとともに、地元企業で働く卒業生を学校に招いて「先輩と語る会」を開催し、就職・進学した先輩の生の声を聴き進路選択の参考にしている。

また、企業の技術者を招いて、現場で使われている高度な技術を生徒が学ぶ機会を数多く提供している。県職業能力開発協会や県織物工業組合（I TOMO）、県機械工業協同組合等と連携して、工場見学や技術者による技能検定の指導等を行うとともに、京セラ(株)、東レ(株)の大企業と連携してAI講習会や先端材料講座を実施するなど、学科の特色に応じた先端技術を学ぶことで、技術者として働く自信を身に着けている。テキスタイルデザイン科では平成27年度から地元企業と共同で細幅織物によるブックカバーを制作・商品化し好評を得ているなど、生徒のデザインと企業の生産技術を活かして、新製品を開発することで地域産業の活性化に寄与している。

さらに、地元公民館やNPO法人今庄旅籠塾と連携して、生徒一人ひとりがデザインした手ぬぐいや小物などのオリジナル商品を制作し販売することで実践的なキャリア教育を行っている。また、地元の社西ふれあいまつりや県工業技術センターのイベントに参加し、各科の特徴を活かして電動カー試乗・コンピュータ占い・プラ板キーホルダー作りなど、全学科の生徒がコーナーを設けて活動し、発想力や企画力、コミュニケーション能力等を育成している。

このように、本校は企業や地域と連携を密にして、生徒が主体的に協働して取り組む活動を通して、地域産業界を担う人材を育成するキャリア教育を積極的に実践しているため推薦します。

<長野県> (種別：教育委員会) 塩尻市教育委員会

推薦理由

塩尻市教育委員会は、平成28年度に市内全小中学校(小学校9校、中学校6校)に学校運営協議会を設置するとともに各校が設置する地域教育協議会を含め地域と学校とで協働する教育体制を構築し「コミュニティ・スクール」として指定した。キャリア教育もこのコミュニティ・スクールを基盤に、地域の住民・企業・施設などが学校と協働して主体的・自主的に実施している。

1 地域学校協働によるアクションプランを提案

- キャリア教育で目指す子ども像として、「すすんで学ぶ人」「感謝と思いやりの心を持つ人」「たくましい心と体をもつ人」「地域・社会に貢献する人」を設定し、4つの視点で学校・子ども・家庭・地域・産業界で具体的にどのように取組をすればよいか示し共通理解を図っている。

2 研修の機会の工夫

- キャリア教育の目的や意義、成果を広め深めるために様々な取組を実施している。
 - ・キャリア教育啓発用リーフレット作成、市内学校職員や産業界関係者、及びコミュニティ・スクール関係者(キャリア教育支援部)に配付。
 - ・親子でキャリア教育が学べる機会の設定(例)「親子で建設現場見学会」「キッズお仕事チャレンジ(桔梗小コミスク)など。
 - ・塩尻市内の事業所向けキャリア教育パンフレット作成、配布
 - ・塩尻市広報に記事で実践を掲載したり、実践発表会を開催(年6回)
 - ・「塩尻市コミスク実践集」を作成し、その中でも実践を報告。

3 地域学校協働体制の取組

- ・学校運営協議会では、第1回目は各校単位、第2回目は中学校区単位の合同学校運営協議会で「地域と学校とでともに力を合わせて育てたい子どもの姿」をグループワークを通して明文化。
- ・産官学民の四者連携によりキャリア教育を推進するための拠点づくりを進めてきている。(塩尻市キャリア教育支援協議会)
- ・平成32年度小学校、平成33年度中学校完全実施のふるさとだいすきっ子育成プロジェクト推進のための研修機会の工夫。

4 小中一貫、産業界と連携、積み上げ持続するキャリア教育の取組

- 塩尻市版「キャリア・パスポート」の作成と活用。(塩尻市キャリア教育委員会：市内小中学校のキャリア教育担当者が組織)
 - ・各校キャリア教育担当者が集まり、市内の小中学校が一貫してキャリア教育に取組み、「小→中」とつながり、保管され、近い将来市内の高校につながる「キャリア・パスポート」を作成した。来年度より市内全校で完全実施する。

<長野県> (種別：学校) 長野県蓼科高等学校

推薦理由

蓼科高校では、学校設定科目である「蓼科学」「地域Ⅰ」「地域Ⅱ」の授業を行っている。これらは、地域の協力のもと、「地域を学ぶ、地域に学ぶ、地域と共に学ぶ」をテーマにキャリア教育の学習に求められる「学校の学習と社会との関連」、「自然体験、社会体験の充実」、「発達に応じた指導の継続」、「地域と連携した教育」等の様々な要素を取り入れている。

1 蓼科学(2年生)

- ・地域住民や研究者を外部講師として、町にゆかりの人物や文化財、歴史、自然 等について学ぶ。講座は「地域開放講座」として一般の方の聴講も可能としている。「立科町探検隊」と称して、町の名所や文化財、特産物などについて調査した。長野大学との連携授業では、ICTを利用して地域に出て関係者に取材し、その成果を発表会として地域の方々に公開している。

2 地域Ⅰ(2年生)

- ・地域に出て花壇づくりや清掃活動を地域住民とともにいたり、観光協会協力のもと女神湖でのカヌー体験を通して、地域の魅力を発見し、地域貢献の意識を育んでいる。

3 地域Ⅱ(3年生)

- ・長野大学と連携して「地域デザイン」をテーマとしている。町の特産物を利用したお弁当や、町につくる公園プランなどを考えるとともに、町施設での発表会を行うなど、探究的な学びをとおして、地域に役立ち、実現の可能性を求めた。利用者となる町の福祉施設や保育園の方に意見を頂き、実際のニーズをつかむ努力もしている。

4 地域学

- ・平成24年度から総合的学習の中で取り入れ7年目を迎える。総合的学習での学びは「蓼高タイム」として全校生徒を対象に今も続いている。観光地ホテル実習やマラソン大会ボランティア活動、夏祭り神輿担ぎなど、様々な地域貢献を行い、地域からも大きな評価を得ている。

<長野県> (種別：学校) 飯山市立城南中学校

推薦理由

飯山市立城南中では、自然豊かな飯水地区の文化や産業の継承、及び、一旦故郷を離れても、やがて飯山に戻って地域を大切に生活する人の育成を願い、飯山の自然や人から学び、飯山を大切に思える生徒を育むため、地域と連携し「生き方を学ぶ会」や「城南未来塾」を実施している。このような学習を通して、生徒のキャリア形成を支える土台を確かなものとし、自らの進路について自主的に考え行動していける自立した姿を目指している。

1 生き方を学ぶ会

身近にいる家族や教員以外の大人から聞く様々な話から、生徒が自分の将来を考える上で大切にしたい、「『働くこと』への思い」「地域の発展にかける思い」「中学生の今、何を大切にしたらよいか」を感じとり、自らの生活や進路選択に生かすことを願っている。

① 地域在住の方と交流

- ・年3回(6・10・2月)実施。1回に10名ほど来校(経営者・農業・フリーアナウンサーやカメラマンの方等)
- ・30分程度でお話ししていただく。(30分×2回)
- ・生徒は、聞いてみたい方2人選び、その方の「生き方」を聞く。

② クラス報告会

- ・聞いた話を、クラスで伝え合う。

2 城南未来塾

生徒がふるさとの「人」や「もの」や「こと」とのつながりを感じ取り、自分の故郷への思いを深めていけることができると願っている。

① 地域の方と協働

- ・地域の方が講師となり 24 講座を開講し、年間 4 回活動。
 - ・5 回目は、学んだことを振り返る「まよめの会」を実施。
- ② 文化祭で活動報告
- ・ステージ発表や展示などで、城南未来塾で学んだことを発信。

<長野県> (種別：学校) 上田市立北小学校

推薦理由

上田市立北小学校は、「社会において自立的に生きる力」の育成、10 年後、20 年後に大輪の花を咲かせるための今の創造を理念に掲げ、自己理解・自己管理能力を高めるための取組として学校活動の様々な場面で「多様な大人」と相互にふれ合うを通して、人に対する関心や愛着を深め、信頼感を構築していく機会を図っている。

1 職場体験学習→5・6年で実施

5 年生は 1 1 月、6 年生は 9 月に各学年とも、1 日実施。徒歩圏内にある約 40 事業所で体験。ねらいは、「働くことの意義を考え、生きる力の醸成」「地域の多様な人々との関わりから、多くの人に見守られながら自分が生きていることを感じ取り、あいさつやコミュニケーションといった社会力を身につける機会」としている。6 年生は夏休み中に、体験する事業所への打ち合わせを自分たちで行う。

2 「ハッピータイム」

「遊びは生きる力の源。子どもたちの生活のそのものである。遊びを通して自己や友だちの尊厳に気づき、生きる意欲を育て、正解を切り拓いていく冒険心を養う」というキャリア教育にもつながる目標のもと外遊びの場と時間（毎週水曜日給食後から 1 3 時 5 5 分まで）を確保している。これも、教育の柱を具現化するために「遊びは生きる力の源。大胆に外で遊ぶことを通して、自分や友だちのよさに気づいたりお互いを認め合ったりすることをねらいとしている。

3 4～6 学年が行うクラブ活動

地域の方々が講師で、活動に取り組む。クラブ活動を「技術や知識の習得」ではなく、地域の多様な人々とのかかわりによって、子どもたちに、人に対する関心や愛着、信頼感を養ってほしいという、「人とのつながり」（社会力）をねらいとしている。

<長野県> (種別：団体) 郷土愛プロジェクト

推薦理由

郷土愛プロジェクトは、キャリア教育が子どもたちの成長に大きな力になることを願っている。子どもたちが、社会的・職業的に自立し社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現することができるように、上伊那 8 市町村を牽引し、学校・家庭・地域・産業界・行政が一体となってキャリア教育に取り組めることを目指している団体である。

1 産官学協働事業

- (1) キャリア教育産学官交流会
 - ・2014 年から実施し 5 回目。講演や分科会でのディスカッション
- (2) 伊那谷人材育成ラボ
 - ・地域の色々な方と人材育成のあり方を話し合う

2 次世代育成事業

- (1) キャリアフェス：生徒が約 50 ブースを自由に歩きながら、地域の産業や文化等を五感通して楽しく学ぶ企画
- (2) 夢大学：夢を大きく学ぶというコンセプトで、上伊那地域全体を丸ごとキャンパスと見立て、地域の人、産業、文化、歴史等から五感を通して楽しく学ぶ企画

3 学校支援事業

- (1) 伊那谷学：地域のよさを伝える
- (2) コーディネート事業：団体（学校、企業等）のキャリア教育や人材育成に関する相談、ニーズに応じて各団体をつなぐ

4 上伊那8市町村連携事業

- (1) キャリア教育担当者会議を実施し、8つの市町村教育委員会で意見交換を行い連携を強める
- (2) 職場体験・企業見学等たくさんの事業所に協力いただくために学校と地域をつなぐ

5 広報発信事業

- (1) 郷土愛通信を発行したり、ウェブサイトを取組を掲載し広く多くの方々の理解を広め協力を促すような発信

<岐阜県> (種別：教育委員会) 中津川市教育委員会

推薦理由

1 取組の概要

平成28年度から教育委員会が主導し、企業、学校が連携したキャリア教育のカリキュラムを作成している。事前学習から事後学習までの学びの流れをリーフレットにして、全小学校及び対象の中学校に配付する。児童・生徒は、希望する企業を訪れて見学・体験を中心とするカリキュラムに参加し、地元企業に対する理解を深めていく。

2 取組の具体

- ・市工業振興課からリストアップされた企業から、市教育委員会が学習カリキュラムに基づいた「すご技企業」を募り、協力企業リストを作成する。(協力企業：市内13企業)
- ・市教育委員会で「すご技中津川プロジェクト」に関わるリーフレット、事前指導・事後指導の企業別指導案、すご技学習プレゼン資料等を作成して小・中学校、企業や各種団体に配付したり、小学校社会科資料委員会作成の副読本「わたしたちの中津川市」にすご技紹介のページを掲載したりした。
- ・企業と工業振興課、市教育委員会、学校の担当者と打合せをする。
- ・小、中学生が地元の「すご技企業」を実際に見学したり、実物に触れたり、そこで働く方の話を聞いたりする。見学等から学んだことを感想等にも書きまとめる。
- ・市広報広聴課により、新聞、市の広報誌・ホームページ等を使って地域社会に広報する。
- ・教員の初任者研修において、地元企業4社を見学するとともに、「すご技中津川プロジェクト」についての研修を行っている。

3 取組の成果

平成30年度全国学力・学習状況調査の児童質問紙「将来の夢や目標をもっていますか」という設問に対して、「当てはまる」と回答した小学生は、平成28年度に比べて2.8%、中学生は2.5%上昇し、子どもたちが「夢」や「やりたいこと」を見つける機会となっている。また、地元企業の協力によりその企業の魅力や働くことの意義への気付きを促し、将来の主體的な進路選択に向けての基盤を作ることができており、キャリアプランニング能力の育成につながっている。

<岐阜県> (種別：学校) 輪之内町立輪之内中学校

推薦理由

1 取組の概要

これまで第2学年で実施する「職場体験学習」を中心に、職業講座(福祉きらきら講座)や高校生の活躍に学ぶ講話会(わのうち未来塾)などを教育課程に位置付け、望ましい勤労観・職業観を育成するキャリア教育に取り組んできた。また、今年度から輪之内町「少年防災士育成事業」の指定を受け、「防災士養成講座」(日本防災士機構・岐阜県支部)を第2学年生徒全員が受講し、中学校段階から地域に密着した防災士の育成に取り組む、地域社会の一員としての自覚と誇りを育むだけでなく、将来の職業選択に活かす生き方教育、キャリア教育の一環であると捉え、実践することとした。

2 取組の具体

- (1) 防災学習：受講講座「防災士養成講座」(全31講座)
 - ・町行政及び専門機関による協力を得て救急救命講習を含む17講座程度を受講し、地域社会の一員として、予想される自然災害等に備え、基礎知識を学び、実践力を身に付ける。

(2) 地域の事業所における職場体験学習

- ・職場体験学習については、町商工会及び事業所（40箇所程度）の支援を得て2日間の勤労体験を行っており、地域社会のニーズや求める人材の育成に向けて、関係機関及び団体と連携して学習の充実を図っている。職業調べや職場体験学習を通して、働くことの喜びや厳しさを実感するとともに、自分の特性や適性について理解し、将来の進路選択について考えを深める。

(3) 職業講座（福祉きらきら講座）・高校生講話会（わのうち未来塾）

- ・職業講話では専門分野で活躍されている方から働くことの生きがいや喜び、苦勞などを語っていただくとともに、高校生の活躍に学ぶ講話会（わのうち未来塾）では、スポーツや文化活動にひたむきに取り組んでいる卒業生から自らを輝かせて生きることのすばらしさを話していただいている。

3 取組の成果

職場体験学習や職業講座、高校生講話会では働くことの喜びや厳しさを実感し、社会奉仕や自己の伸長を図ることができている。また今年度からスタートした「防災士養成講座」により、大阪北部地震の際に、自助の意識が働き、緊急放送を待たずに机下避難するとともに、仲間の安否を気遣う姿や励まし合いながら冷静に対応する共助の姿も多く見られた。さらに、輪之内町防災訓練では主体的に生徒が参加し、緊急時対応の訓練を受けた。こうした勤労体験、防災学習の充実を図ることにより、働くことの意義や自分の適性、生き方について理解を深めるとともに、「防災士養成講座」の受講を通して、地域の防災活動に積極的に貢献できる実践力を身に付け、地域社会のニーズや求める人材の育成を図ることができている。生徒にとっては、自らを磨き、現在の学習と社会のつながりを意識し、目的をもって学ぶことができる機会となっている。

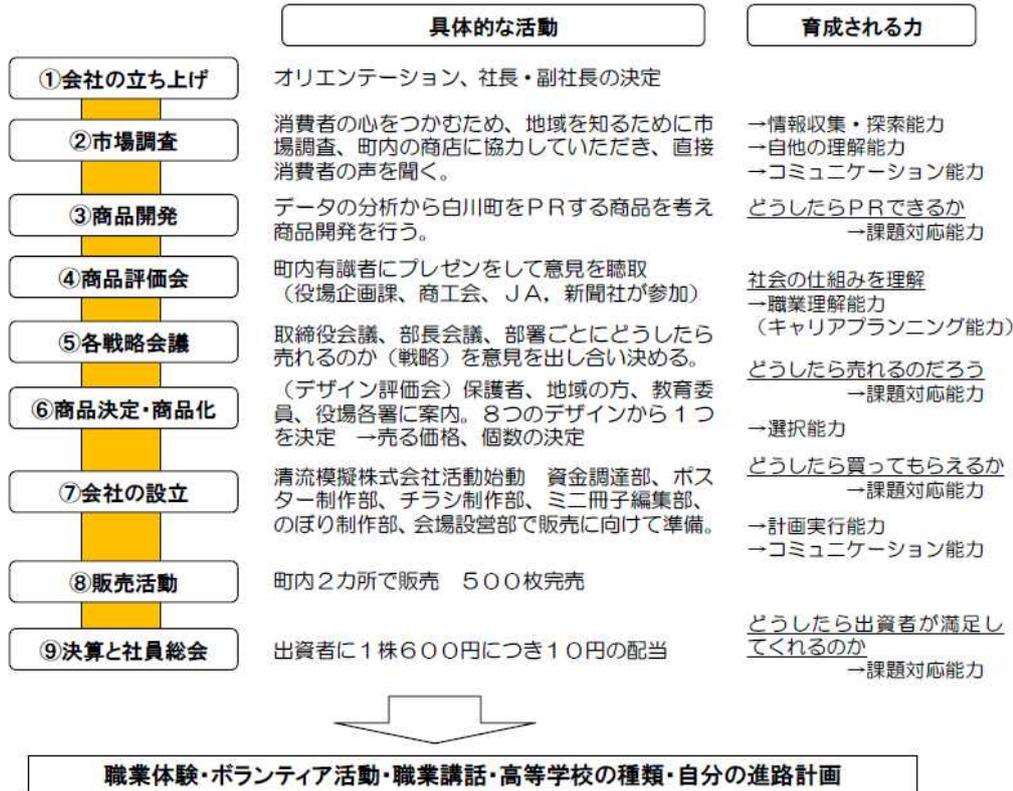
<岐阜県>（種別：学校）白川町立白川中学校

推薦理由

1 取組の概要

白川中学校では、平成27年度から「有限会社マイトイ」の協力をうけ、中学校2年生のキャリア教育「課題対応能力」の育成を主として起業家教育を取り入れている。会社という一つの組織の中で、8つの部署を分担し仲間同士で協力しながら、市場調査など地域との関わりなどを考えることにより、基礎的・汎用的能力すべての領域での育成につながっている。また、白川町をPRすることをテーマとして『起業で育む郷土愛』を目指し、地域の住民や企業との関わりを密に活動を展開している。この活動により本町の課題である人口減少の改善も意図し、地域の活性化にもつながる実践である。

2 取組の具体



3 取組の成果

この起業家教育から、職場体験・地域へのボランティア・職業講話・高等学校の種類・自分の進路計画へとつながり系統立ててキャリア教育の実践を進めている。キャリア発達課題の肯定的自己理解と自己有用感の獲得だけでなく、興味・関心等に基づく勤労観や職業観の形成のために、大きな成果をあげている。

<岐阜県>（種別：団体）垂井町立不破中学校PTA

推薦理由

1 取組の概要

- 平成28年度から、PTAの全面的な協力の下「中学生への職業講話 ～人生の小さな岐路に立って、今きみたちは何を想う～」を実施している。地元の企業で働く方、保護者や卒業生などの身近な方を講師に迎えて職業講話を実施し、「仕事の内容やその仕事に就いた理由、動機」「仕事に就くための条件や必要な資格」「仕事のやりがい、苦楽」などの講話を聞くことで、地元の人とのつながりを通して、将来の「仕事」について幅広く見聞を深めるとともに、自分の願いや適性を見つめ、進路について考えることをねらいとしている。

2 取組の具体

- PTA役員が地元での人脈を生かして講師の選定・依頼をする。
（平成28年度は31講座34名、平成29年度は37講座45名、平成30年度は34講座46名）
- 講師とのやり取りは、基本的にPTA役員が行っている。依頼文書の送付、生徒に配布するプロフィール集の原稿の回収、生徒からの事前の質問や事後の感想文の送付などを行っている。
- 当日は、全校生徒が2講座ずつを選んで講話を聞く。
- 当日の運営は、総勢100名ほどの保護者が運営スタッフとして協力している。

3 取組の成果

- 実際に働いている方々から職業の内容だけでなく、自分の職業に対する思いや、生き方や考え方、中学生のころから将来に向けて大切にしておくことなどについても話していただいたことで、漠然と考えていた将来の夢をより明確な目標とすることができた生徒や、これまでの夢を考え直し、より自分に合った職業を探していこうとする生徒、自分の生活を改めて見つめ直す生徒が出てくるなど、キャリア教育の充実に資

する実践が行われている。

【ホームページ】<http://www.mirai.ne.jp/~fjh40221/>

＜静岡県＞（種別：学校）静岡県立伊東商業高等学校

推薦理由

静岡県立伊東商業高等学校は、教育目標に「有徳のビジネスマンの育成」を掲げ商業教育を通して、個人として自立し、他人を思いやり、地域社会に貢献できる人材を育成することを目指して日々の教育活動に取り組んでいる。地元で活躍している卒業生も多く、地域社会からの様々な要望等に対して、学校としてできることを最大限に発揮して貢献し続けている。学校の特色は、商業科の専門性を生かし、地域との連携を深め、実践的活動を通じて生徒を育てるという理念に基づき、地域活性化のための取組を行っている点である。

平成 26 年度から日本政策金融公庫が主催する「高校生ビジネスプラン・グランプリ」へ出場しており、平成 29 年度にはセミファイナリストに選出されるなど地域の諸団体と積極的に連携・協働することで、実践的な活動として成果を上げている。また、平成 27 年度から伊東市の委嘱を受け、「伊東市高校生観光おもてなし特派員」として市内でのイベント、祭典等の運営、観光 PR ツールの作成など、様々な活動を行っている。

これらの取組は、地域を理解し、地域と連携した商業の専門性を生かしたキャリア教育であり、学校における地域課題の解決に向けた先進事例である。

【具体的な取組】

1 ビジネスプラン

- 平成 27 年度から、商業科目「課題研究」において、高校生の視点で地域活性化の具体的な方策を考案し、伊東市役所で市職員に向けて発表している。平成 29 年度には、読売新聞社が主催する「中高生未来創造コンテスト」において、高齢者向けサービス「働ケーション」の研究が最優秀賞を受賞した。

2 産学官連携実践

- 伊東市の委嘱を受け「伊東市高校生観光おもてなし特派員」として地域産業の柱である観光について学び、伊東市における観光業の今後についての研究やビジネスの観点から観光を捉え課題解決や情報発信するなどの実践的な学習を行い、将来の地域の担い手として活躍できる人材を育成している。具体的活動は、市主催の観光講座受講と体験、按針祭 100 周年記念キャンドルナイト等のイベント運営補助、他校生との交流、伊東市観光 PR 動画作成等による伊東の良さの PR である。また、県内企業と協働し、「おもてなし特派員ブログ」を開設し、高校生の視点から伊東市の魅力を発信している。

3 商品開発

- 平成 28 年度は、ビジネスプランニングを学び、観光地伊東の PR の一環として、土産物のふりかけとクッキーを地元販売店及び洋菓子店と共同開発して販売し、「日本ジオパーク伊豆半島大会」において発表した。平成 29 年度には、地魚の鯖を PR するため、鯖を使ったヘルシーなハンバーガーを地元料亭と共同開発し、「サバイバー」と称して地元小中学校の給食メニューに採用された。また、稲取産のテングサを使ったクッキーを考案し、地元洋菓子店と共同開発して実際に販売することで、地域の伝統産業であるテングサ漁の復活に貢献するとともに売上の一部を伊豆漁業協同組合に寄付した。

＜静岡県＞（種別：団体）静岡県立韮山高等学校 P T A

推薦理由

静岡県立韮山高等学校では、平成 16 年度から「生涯にわたる自己実現と社会に貢献する人材育成」を目標とした「進学校における組織的なキャリア教育」を実施している。インターンシップを重要な柱として位置付けるとともに、「職業レクチャー」、「大学レクチャー」などの行事と関連付け、入学から卒業までの 3 年間で組織的なキャリア教育を実施している。これらの行事は土曜日に実施するため、PTA の協力が不可欠であり、行事の円滑な運営に継続的に寄与している。

(1) 職業レクチャー：7 月実施

志望大学の学部・学科決定の一助となるばかりでなく、将来の職業決定や社会人となった場合の心構えも学ぶことで、大学で何をどのように学ぶことが有益かを考える機会となっている。講師の多くは韮山高校の卒業

生である。

本年度の講師は医師、薬剤師、銀行員など14人が務め、複数の講座の中から生徒は2講座を受講している。PTAは、講師の選定・推薦・交渉(4月～6月)、当日の接待、冊子作成(7月～9月)などを担当している。

(2) 大学レクチャー：12月実施

大学教授の講義を受講することにより、志望の学部・学科への興味を深め、学習意欲の向上を図っている。

昨年度は11大学による13講座を開講し、その中から生徒は2講座を受講した。PTAは、当日の接待・誘導を担当している。

(3) 学校支援活動(土曜講習・自習室開放)

本事業は、生徒が明確な進路意識と大学入学後も継続して高い学習意欲を持ち続ける一助となっている。

PTAは、当番制で自習室の監督を担当している。

菰山高校の将来を見据えたキャリア教育の特筆すべき事例としては、菰山高校卒業生のうち、平成26年度から29年度までの3年間で、東京大学を首席で卒業した生徒が2人おり、他大学でも首席卒業者が出ている。

以上のように、学校のキャリア教育を円滑に推進するため、推進体制を整えるなど、PTAが組織的に協力していることが評価できる。

<愛知県> (種別：教育委員会) 豊川市教育委員会

推薦理由

豊川市教育委員会は、子供たちが将来自立した社会人となるための基盤をつくるため、社会への関心を高めたり、社会と自分の関わりについて学んだりする機会を設けることが重要であると考え、愛知県のキャリア教育事業に参加し、キャリア教育を推進している。また、昨年度は、発達段階に応じた系統的なキャリア教育を推進するために、小中高の連携にも取り組んだ。

○ 中学校全学年でのキャリア教育

2年生の職場体験を核として、1年生のガイダンス事業、3年生のプレゼンテーション事業など、全学年でキャリア教育を進めている。子供たちが働くことの意義を考え、自分の進路や生き方を見つめることができるよう、系統的な活動を各校で実施している。

○ 「職業レディネス・テスト」「職業適性検査」の実施

市の予算で、市内の全中学校2年生を対象に「職業レディネス・テスト」「職業適性検査」を実施している。職場体験活動の事前事後指導に職業レディネス・テストや職業適性検査を活用することにより、職業への関心を高め、活動を充実させることをねらっている。

○ 小中高が連携したキャリア教育の実施

平成29年度愛知県のキャリアコミュニティプロジェクトの研究委嘱を受け、「夢をもち、夢をかなえる」をテーマに据えて、特色のある高等学校が校区にある中学校を指定して実施した。豊川工業高等学校がある代田中学校区では「ものづくり」を核に、国際教養科があり、あいちスーパーイングリッシュハブスクールの指定を受けた御津高等学校を校区にもつ御津中学校区では「英語や国際交流」を核に取り組んだ。

代田中学校区では、豊川工業高等学校との連携を生かして、中学生が高等学校のものづくりの授業を見学したり、中学校の文化祭で高校生がものづくり講座を行ったりして、ものづくりに触れる機会を多くもった。また、2年生が職場体験を報告する発表会には、校区の小学生を招待し、職業について知ってもらおうといった活動も行った。

御津中学校区では、小中学校の合同講演会として、関西大学外国語学部教授の田尻悟郎先生の講演を聞く機会をもち、御津中学校区の3小中学校で行うオーストラリアとの国際交流についてもアドバイスを受けた。また、高校生が小学生に英語の授業を行って、これから学習していく英語を身近に感じてもらう活動など、小中高の連携を生かしてキャリア教育を進めた。

<愛知県> (種別：学校) 岩倉市立岩倉北小学校

推薦理由

社会的・職業的自立に向け、地域の人材力を活用した体験学習を通して、発達段階に応じた資質・能力の育成

を図り、他学年との交流や活動など、組織的・系統的なキャリア教育の実践に取り組んだ。

【具体的な取組について】

1 事業主題（テーマ）

地域のモノづくりの達人から「技」と「生き方」を学ぼう

2 事業概要

(1) 体験活動

ア 地域のモノづくり（染め付け）について学ぶ

染め付け職人 松浦代助氏を講師に迎え、写真や実物を見ながら、染め付けの歴史や染め付け方について事前学習を行った。

イ 染め付け体験

児童が考えたデザインを基に、職人が布に下絵を描き、その模様児童が色つけをした。

(2) 振り返りの場・伝える場

「染め付け体験」後に、各自がペア学年の下級生に活動の感想を伝えた。また、講師へお礼の手紙を書き、感謝の気持ちを伝えた。この体験を通して、個々の児童が抱くことができた職業観を2月の「二分の一成人式」で発表することができた。

(3) 保護者や地域への啓発活動について

各体験の様子を通信やHPに掲載し、保護者や地域の方に学校の取組を広く紹介するとともに、地域の方の協力を得ながら進めるキャリア教育の意義などを啓発した。

3 事業成果

- ・地域のモノづくりの達人から仕事についての話を聞いたり、体験をさせてもらったりすることで、児童が働く人への思いを実感することができ、自分の生き方について、考えを深めるきっかけとすることができた。また、地域への関心を深め、地域の一員として自己の生き方を考えていく能力の素地づくりとして有効であった。
- ・学校の教育計画の中で、キャリア教育を系統的に推進するために全体計画を見直し、各学年の発達段階や特性を考慮した体験活動を実施することができた。
- ・体験した内容の「伝える場」を設けたことにより、活動を振り返り、学んだことを整理しまとめることができた。ペアの学級の児童に分かりやすく伝えるために工夫することで、表現力の育成にもつながった。

<愛知県>（種別：学校）新城市立千郷中学校

推薦理由

中学校3年間を見通し、段階を踏んでキャリア教育に取り組んでいる。体験学習は大きく分けると3つ。「名古屋職場体験学習」「市内職場体験学習」「林業体験学習」それぞれの体験学習の事前・事後指導をする中で、一社会人としての自覚を高め、技能を身に付け、将来に向けてよりよい職業選択ができるように、継続的に指導を続けている。

【具体的な取組について】

(1) 社会人と語る会（1年生 3月）

8つの業種の社会人の方に来校していただき、それぞれの職業について質疑応答する講座を開設した。運営は生徒が中心となり、貴重な体験談を聞いたり、職業についての質問をしたりしながら、働くことの意味について考えた。

(2) レディネステストの実施（2年生 4月）

自分の職業の適正を知るために、「職業レディネステスト」を実施した。2年生で行われる2回の職場体験学習の事業所を決定する際に、その結果を参考にした。

(3) 名古屋職場体験学習（2年生 5月）

名古屋の名駅地下街と栄地下街において、職場体験学習を1日実施した。班毎に、新城から名古屋まで公共交通機関を使って行くことも含めての体験学習である。慣れない都会、はじめての職業体験学習で、働くことの厳しさ、価値などを体験するきっかけとなった。

(4) 市内（一部市外）職場体験学習（2年生 6月）

新城市内を中心にして（一部市外）3日間の職場体験学習を行った。事業所への依頼から打合せ等も職場体験の一部としてとらえ、電話の対応や打合せの仕方についても指導をした。

(5) 林業体験学習（2年生 10月予定）

学区の方の協力を得て、間伐などの体験学習を1日実施する。経験することが難しい林業体験を行うことで、職業選択の視野を広げることができる。

<三重県>（種別：教育委員会）南伊勢町教育委員会

推薦理由

南伊勢町は三重県南部に位置し、海と山に囲まれ自然豊かで人情味あふれる町である。一方、高齢者の割合は県内1位であり、児童生徒数も減少している。そこで、当該教育委員会では、「自らの夢に向かって、心豊かにたくましく生きる子どもの育成」を町の学校教育目標に掲げ、各学校を支援している。

町内の小中学校（3小学校、2中学校）では、家庭・地域、関係機関等の地域の協力・支援を得て、「チーム学校」として、地域の資源（ひと・もの・こと）を生かしたふるさと教育をキャリア教育と関連づけて取り組んでいる。

また、当該教育委員会では、「ふるさと教育全体構想」を立てるとともに、ふるさと教育推進委員会を設置し、「ふるさと南伊勢」の良さをより深く知り、将来にわたりふるさと南伊勢町に誇りと希望が持てる子どもの育成を目標とし、町内の小中学校で系統的なキャリア教育を推進するとともに、高等学校、大学、事業所、経済団体等の多様な主体と連携した様々な取組について指導・助言を行っている。

(1) 「ふるさとフォーラム21」の取組

当該教育委員会では、平成28年度から「ふるさとフォーラム21」を実施しており、子どもたちがふるさと教育で学んだことを地域へ発信し、地域住民と子どもたちがともに地域について学び、考える場を設定している。小学校の部では5年生、中学校の部では1年生を発表者とし、小学校の部では4年生、中学校の部では小学校6年生がフォーラムに参加している。このことにより、子どもたちは、これからの学習する内容や1年後の自分自身をイメージすることができている。平成29年度は、地域の方を含めて約200人の参加があり、「来年度はさらにたくさんの方が参加し、児童生徒と一緒にふるさとについて考えたい。」という参加からの声を受け、平成30年度はより多くの方々が参画し「主体的・対話的で深い学びの発信」となるよう、土曜授業に合わせてフォーラムを開催する。

(2) 小・中学校の主な取組

町内の小中学校では、地域の事業所、経済団体、上級学校等の多様な主体と連携し、発達段階に応じた取組を行っている。小学校では、漁業体験やみかん農園見学、地域の方を招いての干物づくり講座や地元の南伊勢高等学校南勢校舎の生徒による出前授業等を実施している。中学校では、地域の調べ学習や職場体験の他に、南伊勢高校南勢校舎と連携した出前授業や地域清掃、大学生を招いてキャリアフォーラム等を実施している。

こうした取組をとおして、地域への愛着を深め、地域産業や職業への興味関心を喚起することで、地域の担い手を育成している。

<三重県>（種別：学校）四日市市立羽津中学校

推薦理由

当該校は、学校づくりビジョンに、『将来に希望をもち、やる気をもって実践する生徒の育成』掲げ、基本的な取組の一つ目に「キャリア教育の視点を大切に学習活動の充実」を位置付けている。また、教科、特別活動等、全ての教育活動をとおして、生徒のキャリア形成を促している。年度毎に生徒・保護者・教職員対象のアンケート調査の結果等を用いて、振り返りを行うとともに、課題を明らかにし、次年度の年間計画に生かし、実践を積み重ねてきている。さらに、基礎的・汎用的能力と学校の教育活動（授業・行事等）との関係を明らかにし、教職員全体で生徒が自分らしい生き方を実現していくための力を育む支援をしていることを保護者へ発信している。

(1) 「基礎的・汎用的能力」の育成

各教科でキャリア教育の年間指導計画を作成し、当該校における基礎的・汎用的能力（「つながる力」「うご

く・いかす力」、「みつめる力」、「めざす力」)の育成を意識した授業づくりをしている。各授業において、キャリア教育で生徒に身に付けさせたい力を記載した4つの「キャリアカード」を提示し、現在学んでいることが将来につながっていることを意識づけている。

校内研修では全教職員が、キャリア教育の視点を取り入れた授業づくりをめざし公開授業を行っている。また、当該校の生徒の強み・弱みを研修会で話し合うことで、課題を明確にし、その解決に向けて組織的に取り組んでいる。

(2) 「自分の将来」について考えるための取組

1年次のキャリア学習では、夢や目標を叶えるための手立てや方策を読み物教材やWebページでの調べ学習で学んだ後、「ドリームツリー」を作成し、学級で発表・交流を行っている。2年次では、職場体験学習を柱に、事前学習としてDVDを視聴し、勤労の貴さや意義を考えたり、「その道のプロに聴く」と題し、職業人への聞き取りを行ったりしている。さらに、職場体験の取組について生徒と保護者が話し合う場面を作り、生徒のキャリア形成に生かすとともに自分の親・家族の労働にも思いを巡らせる機会としている。事後学習で、個人新聞を作成し、文化祭で展示することで、生徒だけでなく、保護者等への発信を行っている。

また、3年次の進路選択へ円滑につなげるために、卒業生(高校2年生)を招き、ブース形式で説明を聞き、上級学校への意識を高めている。

修学旅行には、職業体験や職業別コース見学の時間を盛り込み、旅行中の見学や体験を将来の進路と結びつけるようにしている。今年度はテレビ番組制作を体験し、裏方も含めた役割分担の重要性について学んでいる。

(3) 主体的に考え、行動できる生徒の育成

当該校では、ノーチャイム運動に取り組んでおり、生徒が主体的に考えて動くための素地を作っている。

また、音楽等の教科と連携した合唱イベント「山のコンサート」では、広報活動から準備に至るまでを生徒が中心となって行うことで、仲間と協働する力を育てている。この活動は、保幼小連携の行事となっており、昨年度は地域の方が約400人集まり、中学生主導の地域行事として定着している。

さらに、1年次に地域の介護施設・障害者施設・高齢者の団体等と合同で福祉体験を行い、地域連携において中学生も地域の重要な構成メンバーであることを認識する機会としている。

<三重県> (種別：学校) 三重県立桑名北高等学校

推薦理由

当該校は、全校生徒660名の全日制普通科の進路多様校である。平成12年度に「総合的な学習の時間」を「みらい」と命名し、外部人材を招聘した授業やインターンシップの実施など、多様な手法を用いて、生徒のキャリア形成を促す取組を行ってきた。平成28年度には、生徒の自己肯定感や進路に対する意欲を高めることをめざし、キャリア教育委員会を立ち上げ、キャリア教育を中心に据えた学校改革を行った。

管理職等のリーダーシップのもと、若手教員を核として全教職員で、これまでの行事や取組の点検や見直しを行い、3カ年を見通したキャリア教育計画を作成し、実践している。インターンシップやみらいセミナー(合同進路説明会)等の体験的なキャリア教育と挨拶や委員会活動等の日常におけるキャリア教育の両輪で取り組んでいる。

(1) 「オール桑北」で取り組むキャリア教育

平成28年度にキャリア教育委員会を設置し、「オール桑北」体制でキャリア教育を核にした学校改革に取り組んでいる。体験型と日常型の両輪でキャリア教育を推進しており、①学力 ②ソーシャルスキル ③進路の3つを柱としたキャリア教育全体計画「北高キャリア教育プログラム」を作成し、高等学校3年間のキャリア教育の体系化を図った。

生徒が進路実現に必要な学力をつけるため、平成28年度から1、2年生の学力に課題がある生徒を対象に、学習チューター制を取り入れ、全教職員で生徒の支援を行っている。また、平成29年度は1、2年生を対象に、全教職員で高校卒業後の進路だけでなく、将来の在り方・生き方を含めたキャリアカウンセリングを行った。

(2) 多様な主体と連携したキャリア教育

インターンシップを積極的に取り入れており、平成28、29年度に体験した生徒の割合は約90%で、平成30年度からは1年生全員を対象として実施している。総合的な学習の時間「みらい」の取組の一つとして、

2、3年生を対象に「みらいセミナー」(校内事業所・大学等説明会)を実施しており、平成30年度は133団体(事業所50、官公庁3、大学16、短大12、専門学校52)の参加があった。生徒はブースに分かれ、担当者から説明を聞いたり、質問をしたりすることで、地域の様々な事業所や職業があることを知り、自分の適性や社会の中での役割を考えるとともに、進学希望者については、未来の職業をイメージすることで、大学卒業後の就職を意識した進路選択を考えるきっかけとしている。

地域の保育所と年間をとおして交流を行うコミュニケーション授業やインターンシップ、地域の清掃活動等の様々な取組を行い、生徒の自己肯定感や基礎学力の向上を図ることで、地域や事業所等からの信頼度が高くなっている。

<滋賀県> (種別：教育委員会) 高島市教育委員会

推薦理由

1 小中一貫教育による人間関係形成・社会形成能力の育成

高島市では、全ての中学校区において小中一貫教育を推進し学びの連続性を重視した教育活動を展開している。加えて、地域に開かれた教育課程を実現し、学校・家庭・地域が協働した教育を推進することで、他者や社会集団と様々な関わりを持つ力の育成に取り組んでいる。また、文科省事業「平成30年度小学校における進路指導の在り方に関する調査研究」に高島小学校が指定校となり取り組んでいる。高島小学校と高島中学校が小中一貫教育校であることから、市内で毎年実施している事業訪問では、第2ステージ(5・6・7年生)の児童生徒を16のグループに分けて体験させており、異学年の交流が促進されることにより人間関係形成の能力が育まれている。また、市内の事業を訪問して働く大人の生き方に触れることで、児童生徒それぞれが小学校段階から働く大人の姿に触れ、自己を深く見つめ、将来のキャリア形成につながるよう取り組んでいる。

マキノ中学校区では、5年前からキャリア教育を小中一貫教育の軸とし、小学校入学から中学校卒業まで毎年「夢カード」に記入し、自分自身の成長を振り返ることができるように工夫している。1年が始まる4月に、自分のよいところと、頑張っているところ等を確認し、その時点の「夢」を書く。そして、その実現のために、この1年の行動目標を考える。1年が終わる3月には、「自分」「人」「社会」「未来」の4つのつながりを意識して、1年の振り返りを行い、児童生徒の自己理解力・自己管理能力の育成に努めている。

2 職場体験活動によるキャリア教育の推進

高島市では、域内の全ての中学校において、事前・事後指導を含め、充実した内容で5日間の職場体験を実施している。具体的には、事前指導として、マナー講座や職業講話を実施し、事後指導として、お礼状や事後レポートの作成、報告会等を実施している。特にマナー講座では、高島市が高島屋百貨店と包括連携協定を結んでいることを生かし、社員から接客での心づかい等、社会で働くために必要な技能を学んでいる。また、キャリア教育を体系的に整備するために、中学1年生では、職業調べと地域へのインタビューを行い、中学2年生では、職場体験の他に、京都での校外学習で大学や企業を訪問し、中学3年生では、東京での企業訪問を実施している。さらに、地域の今後の課題について意見を出し合い、地域を盛り上げるプロジェクトを考える活動を実施している。生徒が社会人・職業人として、自立できるように、発達段階に応じた系統的なキャリア教育を進めている。

3 高校生に対するキャリア教育の推進

小中学校でのキャリア教育の成果を高校につなぐことを目的に、高校生が、高島市の自然環境や生産活動、事業活動など地域の魅力を学ぶ機会を設け、将来高島市と関わりをもって活躍できるよう、市民協働課と連携しながら、高校向けキャリア教育の推進を行っている。具体的には、高校生が地域で働く方々から話を伺うことで、高島のよさを知るとともに、働くことの意義について学び、自己の将来の生き方について考えることにつながっている。

4 産業界等との連携

高島市では、滋賀県建設業協会高島支部のご厚意で、市内2校ずつ、夏季休業中に重機によるグラウンド整備が行われている。その機会を利用して、小学校の児童がショベルカー等への乗車体験を行っている。中学校では、職場体験で、高島市内の多くの事業所にお世話になっている。また、中学1年生で行われる「進路学習座談会」で、地元の職業人に来校いただき、少人数で議論する活動を行っている。さらに、高島市の市民協働課が中心となり、高島屋百貨店や地元の産業界、または、大学と連携し、中学校や高等学校でのキャリア教育

を進めている。このように、他課や産業界と連携することにより、児童生徒は、成功した職業人のモデルに触れることができる。その中で、一人一人が自らの勤労観・職業観の形成につなげている。

<滋賀県> (種別：学校) 滋賀県立守山中学校

推薦理由

県立守山中学校は県内全域を通学対象とし、県立守山高等学校と中高一貫教育（併設型）を行うなかで、以下のように特長あるキャリア教育を推進していることから、本表彰に推薦する。

○ 総合的な学習の時間における系統的なキャリア教育の推進

総合的な学習の時間のなかで、職場体験学習を効果的に組み込みながら3年間を見通した系統的なカリキュラムを編成・実施し、キャリア教育を推進している。

1年生では「地域と私」をテーマに、通学区域ごとにグループを編成し、それぞれの市町（地域）の現状について歴史観光地、市役所等への訪問を行いながら探究活動を実施している。身近な地元地域を調べることによって、我が町への誇り・愛着心を持つようになるとともに、現状から見えてくる課題についても見いだせる段階にまで迫りたい。この活動により、仲間の立場を理解しながら協力・協働して生活していく人間関係形成・社会形成能力の育成につなげている。

2年生では「働くことと私」をテーマとして、中学校が設置されている守山市内で5日間の職場体験活動を実施している。生徒は働く理由や労働に関する諸問題について予め討論したり講話を聞いたりする等の事前活動を行うとともに、体験後には学んだことをレポートにまとめ発表し合う。事前事後指導や5日間の職場体験活動を通して、生徒は働く大人の姿から勤労について学ぶとともに、自己の生き方について深く考える等、自己理解能力等の育成につなげている。

3年生では、「日本と私」をテーマとして、自分たちが暮らす滋賀県の課題について探究する活動を実施している。事前に個人で調査や学習活動を行い、滋賀県の課題についての理解を深め、課題解決に向けてグループで考察する。そのうえでフィールドワークで専門的知識を持つ方々と交流することで課題を探究し、解決に向けた提言を行っている。住みよい町づくりに向けて課題を見だし、解決に向けた具体的提言を行う活動を実施している。また、発表会には各市町自治体の担当者にも出席いただいている。生徒は具体的で説得力のある提言となるよう、熱意をもって取り組んでおり、課題対応能力の育成につながっている。

3年間の系統的なカリキュラムを編成、実施することにより、生徒は取組を通して自分の住んでいる地域について知り、よりよくするために考え行動する力を培う等、課題対応能力や人間関係形成能力を育むとともに、働くことの意義を理解し、将来設計を含めた自分の生き方について主体的に判断し行動していくキャリア・プランニング能力の育成を目指している。

○ 中高一貫校の良さを生かしたキャリア教育

中高一貫校である利点を生かし、高校生としての心構えや今後の進路の考え方、将来の生き方について高校教員等から講話を受けている。このことにより、生徒は高校生活へのスタートを円滑なものにするとともに、将来の自分の生き方や高校卒業後を見据えた進路選択について早い段階から具体的な検討を行うことができ、キャリア・プランニング能力の育成につながっている。

<滋賀県> (種別：学校) 滋賀県立安曇川高等学校

推薦理由

地域の中核高校として、普通科と総合学科を併設し「人間として豊かに生きる力を身につけさせる」ことを教育目標に学校づくりを進めている。特色ある教育活動を展開するなかで、生徒の多様な進路希望を実現するため、キャリア教育に力を入れており、平成26年度から平成28年度は県指定の「県立高等学校キャリア形成支援事業」を普通科として、平成29年度からは県指定の「次代を担う生徒のキャリア教育推進事業」に取り組んでいる。キャリア教育では、「社会人として必要な基礎的・基本的な学力を身に付けさせ、進路開拓能力を育成する」ことを目標としている。各学年のねらいは、第1学年では「自他の理解能力」自己の在り方について整理し、様々な人々と触れ合い自己理解を深める力を養成している。第2学年では「課題探究能力」（多様な勤労観・職業観を理解し、職場体験などを通して、働くとはどういうことか体験的に考える力）を養成している。第3学年では「課題解決

能力」(自分の意志と責任で自らの進路を選択し、その実現をめざし、課題設定と解決に取り組む力)を養成する等、各学年で段階を踏んだ指導計画のもと取り組んでいる。具体的な取組として、第1学年では、「産業社会と人間」において、地元企業および大学の見学、社会人講師および大学講師による講演会などを行い、ライフプランを作成させ自分の将来を考えさせている。第2学年では、大学等と連携を図った就業体験を実施している。事前に大学において就業先に関する必要な知識を学習した後、各企業で現場体験を行っている。第3学年では、高島市(行政)と高島屋(企業)と学校が連携し地元食材を生かした商品開発や地域イベントでの実演販売を行っている。また、地元自治会と連携し景観を生かした憩いの家建築計画の提案、大学主催の建築設計競技会への参加、社会人講師を招聘した技能士等の資格取得講習会に取り組んでいる。このように、地元企業や大学、社会人講師等と連携し社会とのつながりを重視したキャリア教育を実践するとともに、本年度から総合学科が県指定の「高等学校産業人材育成プロジェクト事業」に取り組むことにより生徒が自分の将来を展望し、これからの社会を生き抜いて行く資質・能力の育成を図るための取組を行っている。

<京都府> (種別：学校) 南丹市立園部中学校

推薦理由

園部中学校は、「キャリア教育」を学校教育の1つの柱に位置づけており、中学校生活3年間で、自らの将来に夢や希望を持ち主体的に進路選択できるよう、各学年での教育内容を企画・立案している。

特徴的な内容としては、学校だけが教育内容を決めるのではなく、1学期に「園部中学校の未来を考える」を地域とともに組織し、学校と地域とが「熟議」を重ねて教育内容を検討している。特に、2年生の勤労体験学習では、キャリア教育に視点をあて「熟議」で「地域フォーラム」等を企画・立案し、年度末に開催している。

3年間のキャリア教育については以下の内容である。

	【領域】	【内容】
1年生	進路学習	自分について知る。
	国際理解	国際社会に目をむける
	地域防災教育	地域のひとりとして防災教育を考える (熟議で立案)
2年生	進路学習	これからの進路について知る
	校外学習	京都市内にある大学訪問(班別行動)
	学びの発表会	訪問大学について調べた内容を発表
	ようこそ先輩	先輩より職業について学ぶ (先輩講師：舞妓、消防士、警察官)
	勤労体験	地域で働くことや地域の仕事を学ぶ (勤労体験学習：3日間)
	地域フォーラム	勤労体験事業所の方を迎えて学んだ内容の発表会(熟議で企画・立案)
3年生	修学旅行	長崎方面 平和学習、日本の歴史学習(軍艦島等訪問)
	進路学習	高校受験について、将来について考える
	校長面談	自分を見つめて将来を考える

地域とともにある学校を目指し、地域の中学生として、自らの将来を主体的に考えさせるキャリア教育を実施している。(※取組の様子については、ホームページに記載し、教育内容の見える化を図っている。)

<京都府> (種別：学校) 京都府立木津高等学校

推薦理由

1 はじめに

京都府立木津高等学校は、今年度創立117年目を迎える京都山城地域の伝統校である。

平成28年度からは府立高校特色化事業「京都フロンティア校(地域創生推進校)」の指定を受け、システム園芸科(農業科)・情報企画科(商業科)・普通科の三学科設置の強みを生かし、地域創生に関わる様々な取組を

さらに推進し、地域に貢献する人材の育成を図っている。

2 地域と連携した具体的なキャリア教育を深化させる取組

(1) 地域連携と地域創生としての取組

ア ABCマーケットの実施

平成27年度より、システム園芸科と情報企画科の連携した取組として、生産→加工・企画・開発→販売を一連の流れ、すなわち第1次産業＋第2次産業＋第3次産業＝第6次産業化を自校内で完結させた、ABC (Agri Business Community) マーケットを毎週地域で行っている。現在では、地域住民にも広く浸透し盛大に開催されるとともに、地域の学校理解の取組へと発展している。

イ 日本遺産への登録 (木津高校附属茶園・製茶工場)

『日本茶 800年の歴史散歩』 ～ 京都・山城 ～

京都・山城地域は、お茶の生産技術を向上させ、茶の湯に使用される抹茶の原料である「碾茶」、今日広く飲まれている「煎茶」、高級茶として広く世界的に広く知られる「玉露」を生産している。本校は明治34年茶業を専らとする相楽郡立農学校として開校以来、人材育成に努め多くの茶業人を世に送り出してきた。平成28年4月に、本校の附属農園及び製茶工場が日本遺産に追加認定され、さらに地域への貢献度を高めている。

ウ 地域の専門家からの学び

行政機関と連携し、地域の専門家を講師として講義やフィールドワークを行った。地元の歴史や産業について知ること、地域の将来担い手としての自覚を高めることができた。

(2) 地域貢献とボランティア活動としての取組

ア 木津駅前前のクリーン活動 (木津駅周辺清掃活動)

毎月15日の登校前に、本校近くの駅前を地域住民とともに、清掃するとともに挨拶運動を行っている。

イ 平成29年度京都府防犯まちづくり賞受賞

① 「K I Z U N Aで根絶 NO! DRUG 運動」

薬物使用の広がりや低年齢化が社会問題化する中、薬物乱用防止のための正しい知識の習得と確かな判断力の育成、生徒会が作成したクリアファイルやマグネット等を地域住民へ配布する薬物乱用防止の啓発活動を行っている。

② 「防犯への取組」

○ 軽微な犯罪を徹底的に取り締まることで重大犯罪を防ぐ「割れ窓理論」実践運動の一環として、生徒会を中心として、木津署員とともに近隣施設の落書き消しを実施

○ 自転車盗難の被害防止に向けて、イラストによる地域住民への啓発運動の実施

これらの活動の成果とし、平成29年度に「京都府防犯まちづくり賞」を受賞し、京都府知事から表彰された。

(3) 環境教育としての取組

ア 国際認証「グローバルGAP」の取得

校内の茶園や茶工場で手掛ける荒茶生産において、農産物の生産工程管理についての国際基準である「グローバルGAP」の認証を、京都府では、民間も含めて初めて取得した。「世界レベルの生産管理を学ぶ」ことで、生徒は自己肯定感を育むとともに自信と誇りをもって学びに臨んでいる。

イ 里山再生プロジェクト

普通科の授業において「環境ゼミ」を開講し、木津高校の北東に位置する鹿背山の放置竹林問題と間伐竹の活用法について研究している。NPO法人「京都発・竹・流域環境ネット」の指導のもと、竹の伐採体験を実施。また、伐採した竹を活用し、校舎の中庭にベンチを作成し、廃材の活用等環境についても研究を行っている。

(4) 学校間連携としての取組

ア 高大連携活動

2年次において3大学と連携し、専門家からの講義やフィールドワークなどの体験学習を行う。

イ 幼稚園・保育園との交流

地元の幼稚園・保育園児等に農業体験をシステム園芸科の生徒が指導することで日頃の学びを確かなものとしている。

ウ 小学校との交流

地元小学校と連携し小学生に講習会を開き、知識や技術を伝授することで学びを深化させる。「エシカルビジネス」をキーワードに流通・消費について小学生向け教材を高校生が開発し、消費者教育について高校生が小学生を指導する取組も実施している。

エ 乳児との交流

近隣の子育て中の母親と交流することを通して、子育てについて学びまた、高校生ならではの離乳食等を考案し、新商品の開発の研究を行っている。

オ ビジネスマナー講習会（中学校との交流）

生徒が日頃の学びを生かし、近隣中学校に出向き、中学生に対して「社会のマナー」や「ビジネスマナー」について指導。

カ 支援学校との交流

宇治支援学校における「喫茶カフェ JOY」のオリジナルハーブティなどの新メニュー等を連携して開発し、イベント等を通じて販売実習を行う。

キ 他校との交流

近隣高校の工業系専門学科と本校の農業系専門学科が、それぞれの特色を活かした共同研究（LED 植物栽培装置の改良品製作とそれを利用した栽培実習・作業運搬車の改良品製作とそれを利用した栽培実習）を専門家のアドバイスをもとに実施

ク 国際交流

システム園芸科での「茶香服」、情報企画科での「子育て体験」普通科での「伝統文化」など、それぞれの学科での特色ある授業で学んだことを、オーストラリアからの高校生に披露することを通して、自尊心を持たせることに繋げた。また、地元の文化財である「浄瑠璃寺」を訪れて文化交流する中で、生徒が英語で積極的にオーストラリアからの高校生とコミュニケーションを図った。

(5) 産学連携としての取組

ア 生産物販売・パッケージデザイン

地元企業で販売実習や職場体験を実施、また販売実習では生徒の考案したオリジナルのパッケージを使用している。

イ 社会人講師

外部講師により、挨拶、接客応対など、インターンシップや販売実習を行うための心構え、技術指導を受ける。

(6) その他

ア TVF講座

3年システム園芸科では、総合実習の授業に地域の一般の受講生を公募で受入れ、授業を展開し、野菜・花・茶に班分けして6つのテーマで栽培や研究を行う。（1学期 12回、2学期 15回実施）

イ クマムシの研究

科学部では、「クマムシの研究」に取り組んでいる。南極・北極等での凍結する環境で生き延びることが可能か等の実験と考察を重ね、将来への学びへと繋げている。この研究により南極・北極での科学研究を中高生が提案するコンテストで優秀賞を受賞した。また、研究成果について全国高等学校総合文化祭の自然科学部門（生物）等で発表を行っている。

<兵庫県>（種別：学校）豊岡市立日高小学校

推薦理由

（概要）

兵庫型「体験教育」である自然学校・環境体験事業を中心に据え、児童の社会的自立を意識しながら事前・事後指導を実践し、地域との連携を効果的に活用したキャリア教育系統表の作成・キャリアノートの更新に取り組んだ。

（具体的実践）

- 児童の実態把握に基づき、キャリアの視点から目の前の児童に身につけさせたい力を、基礎的・汎用的能力

のうちの「人間関係形成・社会形成能力」「キャリアプランニング能力」とした。人とのかかわりに楽しさを見出し、適切に自分を表現する力、自らの果たすべき役割に意味を見出し、主体的に判断・行動する力を育てることを目指し、環境体験事業・自然学校・関連教科において関係を整理し、一連の指導計画系統表を組み立てた。

- 身に付けさせたい力を培うための授業において見取るポイントを見出し、授業実践の反省を踏まえて分かりやすくまとめた。
- 隣接する県立日高高等学校と連携を図り、児童が直接高校を訪問し、福祉科の生徒から介護体験を学び、働くことの意義や役割、将来の進路について考え、自分たちにできることを見つけて実践した。
- 平成30年度の校内研修テーマを「共感的に聴き、自分の想いを返せる子ども」～キャリア教育の視点を通して～とし、作成している系統表やキャリアノートのさらなる充実を目指し、系統表・キャリアノート・実践事例の更新・積み重ねを図っている。
- 全ての子どもたちが、これからの生き方に肯定的な意識を持ち、自分らしい生き方を実現するための力を備えた人に育つことを願って取組を進めているところである。

<兵庫県> (種別：学校) 兵庫県立伊丹北高等学校

推薦理由

本県教育委員会では、全県立高等学校、中等教育学校において、生徒が自己の将来の在り方・生き方について考え、目標を持って主体的に進路選択ができるようにするとともに、生徒に夢を実現する力を身に付けさせるため、学習内容や進路に関連した就業体験（インターンシップ）を実施している。また、子どもたちの発達段階に応じて教育活動全体を通じた組織的・系統的なキャリア教育を推進するため、「キャリアノート」を作成し、学校におけるキャリア教育を支援している。

兵庫県立伊丹北高等学校は、総合学科として19年目を迎える学校であり、教育理念の根幹に一貫してキャリア教育を位置づけている。また、「伊丹北モデル」を作成し、3年間を通じたキャリア教育計画を立て、生徒の基礎的・汎用的能力を育成するとともに、生徒が明確な目標を持って進路を切り拓き、主体的に判断する「未来につながる人間力」を学校教育活動全体で育成している。

【取組の内容】

- (1) 地域自治体と連携した「地域社会調査」
「産業社会と人間」で1年次生全員が複数の自治体出先機関や事業所へ分かれて訪問し、地域の抱える課題を明確化するとともに、その解決策を提案し、地域やふるさとを愛し、地域に貢献できる人材を育成している。
- (2) 地域企業、事業所と連携した就業体験（インターンシップ）
- (3) 他校種連携・地域ボランティア活動
- (4) キャリア教育をつなぐ「産社ノート」「総学ノート」
3年間を見通したキャリア教育の確立のため、兵庫県教育委員会編「高校生キャリアノートモデル」を参考にオリジナルテキストを作成・活用している。
- (5) 国際社会に貢献できるキャリア形成のためのグローバル・キャリア教育
 - 海外修学旅行（2年次、台湾（H30年度））
総合的な学習の時間と連携した「日本文化探究」により個々にテーマを設定し、日本の伝統文化についての学びを深めている。
 - オーストラリア短期語学研修（1、2年次）
希望者（20名）がケアンズ モスマン・ステート・ハイスクールで12日間の語学研修を行っている。事前事後指導や発表会を通して、実践的な英語コミュニケーション能力を育成するとともに、グローバル人材の育成に努めている。
 - 海外校との積極的な交流（姉妹校提携等）
中国広東省広州外国語学校より受け入れ（9月25日～28日）
タイ王国から訪問受け入れ（9月7日）、台湾 東呉大学との交流（修学旅行時）
タイ王国マサヤムサンギット・ウィッタヤバンコクスクールとの交流事業（10月）

【取組の効果】

事業所の決定からアポイントまでを含めた生徒が主体となって行う就業体験（インターンシップ）を、1年生で位置づけて全員実施しており、生徒の将来に結びつく職業観の育成につながっている。また必修科目の「産業社会と人間」で、市の関係機関などと連携した職業人インタビューを実施し、社会と職業の関わりを体験的に学ばせ、地域の課題の解決に取り組むことで、将来の地域人材の育成の素地を培っている。こうした「伊丹北モデル」による3年間を見通したキャリア教育は、本県が推進する体系的・系統的なキャリア教育のモデルとなっており、本県のキャリア教育の推進に寄与している。

このように、伊丹北高校は地域との連携を図りながら、生徒の発達段階に応じたキャリア形成の支援の充実に取り組んでおり、その成果も着実に現れていることから、キャリア教育優良校として推薦する。

<兵庫県>（種別：学校）百合学院高等学校

推薦理由

百合学院高等学校は、時代の進展とともに深い隣人愛を実践し、国内外において真に自立した、社会に貢献しうる女性の教育を目指しており、独自の多様な体験学習を通じて、自分の個性や潜在能力を発見・開発し、職業観を踏まえた幅広い進路を実現している。

特に、「特進コース」では、学校設定科目「キャリア表現」2単位を1・2年生で必修とし、インターンシップ、企業探究プログラム、表現活動などの体験学習を多く取り入れたプログラムを実践し、独自の教育に取り組んでいる。

1. インターンシップ

自分の興味のある企業や施設から事前に与えられた課題に取り組む学びを取り入れた独自の就業体験を実施し、仕事の難しさや楽しさを体験させ、それらによって得られた成果を同級生、保護者、企業の方の前で発表している。

2. 企業探究プログラム

仮想の就職活動・入社・新任研修という一連の流れを体験し、企業から出されるミッションに取り組み、高校生ならではの視点で、実際に商品を企画し、企業にプレゼンテーションする取り組みを通して、経済社会のしくみを学ぶとともに、職業観の育成を図っている。試行錯誤を繰り返しながらミッションに取り組んだ学習の成果は、校内で広く発表する。さらに、「クエストカップ」に応募し、選考の結果、企業から選ばれたチームが全国大会「クエストカップ」に出場している。

3. 表現活動プログラム

プレゼンテーション、シネマアクティブラーニング、アナウンスなど多様な表現活動を計画的に実施し、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を育成している。

以上のように、キャリア教育を軸に据えた系統立った教育を行っていることから、キャリア教育優良校として推薦する。

【参考】

百合学院高等学校は、主体的・対話的で深い学びの中で、企画力、発想力、協調性、探求力を身につけ、「クエストカップ」に14年間連続で出場している。2017年度は、2チームが選抜され、大和ハウスチーム（チーム「吉田ハウス」）が「超高齢化社会に夢のある未来を創り出す型破りな土地活用サービスを提案せよ」とのミッションに対して、お墓のある場所は人口が多く、交通の便が良いとの分析にもとづき、人と人との幸せなつながりを生み出すハピネスマッチングをする「墓地の活用」を提案し、企業賞を受賞した。

また、2018年度は、3チームが全国大会出場を果たすなど、キャリア教育の成果があらわれている。

（参考：クエストカップ2017の大会動画「セカンドステージ」の大和ハウス→

http://questcup.jp/2017/result_mov/index.html)

<兵庫県>（種別：団体）一般社団法人 兵庫ビルメンテナンス協会

推薦理由

兵庫県における特別支援学校高等部卒業生の就職率は、近年全国平均を下回っている状況（平成25年度の全国

就労率；28.4%、兵庫県就労率；16.5%）が続いていた。このため、平成26年度から「キャリア教育・就労支援推進事業」において、「特別支援学校就職支援推進会議」を設置し、認定資格の開発と技能検定の実施、企業や関係機関との連携による授業改善等の取組を行ってきた。

認定資格の開発と技能検定の実施にあたり、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構主催「アビリンピック兵庫（障害者の技能競技大会）」の審査員として長年実績がある、一般社団法人兵庫ビルメンテナンス協会に協力をいただいている。功績については以下5点である。

①「特別支援学校就職支援推進会議（平成26年度～）」の委員として、障害者就労支援についての的確な助言をいただいた。②「外部人材等を活用した授業改善（平成26年度～）」事業の講師として学校へ出向き、授業改善や清掃技術の動作の意味を教授等、教師の指導力向上に向けて助言いただいた。③「認定資格の開発にかかる作業部会（平成26年～28年）」開発委員として、兵庫県で実施3部門（ビルクリーニング、喫茶サービス、物流・品出し）中のビルクリーニング部門についてご尽力いただいた。兵庫モデル評価表案の策定について適切な助言を行うなど、認定資格の開発に寄与した。④ビルクリーニング部門（平成28年度～）の運営委員として、企業に通用する公的な認定資格の水準の維持、教員の指導力向上に向けて、兵庫県下の県立特別支援学校に配布する「指導の手引き」の作成、教員向け講習会での講師、運営委員会での助言をしていただいた。⑤技能検定での審査員（平成28年度～）として学校教員の審査技術向上に寄与いただいた。

このように、技能検定の充実・発展に多くの実績を残した団体であることからその功績を称え、強く推薦する。

<奈良県>（種別：学校）奈良県立橿原高等学校

推薦理由

学校目標に「進路第一希望の実現」と「人間力の向上」を掲げ、全教育活動を通じたキャリア教育に取り組んでいる。以下にその一例を挙げる。

1 総合的な学習の時間

① 第1学年（自己理解、自己の可能性を発見する。）

「オープンキャンパス参加」：参加レポートの作成。

「橿高大学」：10名以上の大学教員を招聘した専門分野の講義の受講。

「学問研究」：クラスを超えて興味・関心のある学問領域で個々に課題を設定し探究活動を行い、その成果をレポート及びポスターセッションで発表。

② 第2学年（自己と社会の関わりについて考える。）

「職業研究」：校外学習でクラス別企業訪問を行い、企業の方と対談するなどし、その結果をレポートにまとめる。

「海外修学旅行に向けた取組」：校外学習で体験型英語教育施設での活動を行うほか、英語による地域や学校紹介等に取り組む。

③ 第3学年（キャリア教育の集大成としての進路実現を果たす。）

自己の進路実現に取り組む。

2 主権者教育

地元自治体の選挙管理委員会の協力のもと選挙出前講座を実施するとともに、生徒会役員選挙では本物の投票用具を使用して投票を実施しており、主権者意識の醸成を図り、社会への参画を意識させる。

3 部活動の活用

考古学研究部と橿原市立博物館とが連携して企画展の開催。

文化部を中心に、英語パフォーマンス甲子園に参加。

<和歌山県>（種別：学校）和歌山県立桐蔭中学校・桐蔭高等学校

推薦理由

○ 取組の概要

同校は、平成25年度にキャリア教育に関する文部科学省指定の研究開発学校となり、進学を主とする同校の状況を踏まえ、高等学校と高等教育との円滑な接続を図るとともに、学校から社会へ一人一人の将来を見通

したキャリア発達を促すキャリア教育の研究開発を行った。キャリア教育の中核となる新教科「キャリア桐の葉」を創設し、教育課程に明確に位置づけ、これを主軸とし、学校関係者、行政、地域との連携・協力のもと、中・高等学校の発達の段階に応じた系統的なキャリア教育の開発、進路指導の改善・充実、インターンシップ等の体験活動等の効果的な活用等について研究を行った。こうした研究を通して、生徒一人一人が将来への高い志と目的意識、社会を生き抜く力を持ち、大学、そしてその向こうにある社会で自立した一人の人間として、また社会のリーダーとして社会に貢献できるよう「桐蔭モデル」をつくり、進学を主とする高等学校に求められるキャリア教育の開発を行った。

○ キャリア教育全体計画における考え方

人がキャリア発達を遂げていく過程においては、自己を振り返り、気づき、一步踏み出すといった「省察的な気づき」が重要であり、また自らの考えを「言語化」できる資質は、社会の中で生きていく上での必須の資質であると考え、この二つの活動を教科「キャリア桐の葉」の中に一貫して位置づけている。

また、教科学習や特別活動をキャリア教育の視点で捉え直し、「なぜ国語を勉強するのか」、「数学の勉強がどう役に立っていくのか」等を示したテキスト『桐蔭の学び』を作成の上、年度当初に生徒に配付し、学習の意義を提示することで、日々の学習意欲を向上させている。

○ 評価指標と振り返り

研究開発の初年度に、キャリア教育を通して身に付けさせたい力を明確化するため、全教職員の合意形成を経て評価指標を整理し、「付きたい力30～中学生～」及び「付きたい力30～高校生～」を作成した。この「付きたい力30」は、中核となる「キャリア桐の葉」だけではなく、学校での様々な指導・支援の機会や、生徒と関わる様々な場面で育まれるものである。また、同校におけるキャリア教育の実効性を測る指標ともしており、生徒へのアンケート調査により、生徒の自己変容を測っている。

○ 体験的な学習の活用

発達の段階及び生徒の規模や適性を考慮し、種々の体験的な学習を取り入れている。中学校では、1年生で「職業人インタビュー」や「先輩に学ぶ」、2年生では「大阪校外学習」、「京都大学訪問」や「企業見学」、3年生では「東京班別自主研修」や「職場体験（5日間）」を実施している。高等学校では、和歌山を代表する方々を講師として招く「桐蔭リーダー塾」や大学の教員を招き特別講義を開講していただく「桐蔭総合大学」を実施している。また、生徒の広範囲に及ぶ適性や志望を踏まえ、「ジョブシャドウイング」、「高校生ビジネスプラングランプリ」等の各種コンテスト、「京都大学サマースクール」等への参加を促している。

○ 各学年における主な取組

【中学1年】 「キャリア桐の葉Ⅰ」

～和歌山の自然・偉人についての考察～

和歌山の自然・偉人について調べることを通して、郷土のことを深く知り、郷土に誇りをもつとともに、調べる・考える・まとめるなど追究したり、発信したりする力を育む。

【中学2年】 「キャリア桐の葉Ⅱ」

～和歌山と他府県との比較研究～

和歌山と他府県を比較研究したり、産業の特徴について調べたりすることを通して、郷土の特徴を深く知り、郷土に誇りをもつとともに、調べる・考える・表現する力を高める。

【中学3年】 「キャリア桐の葉Ⅲ」

～県外から見た和歌山の考察～

東京で働いている人たちから、仕事のやりがいや社会人としての心得などについて話を聞くことを通して、視野を和歌山から日本・世界に広げ、世の中をグローバルな視点で考える力を育てる。

【高校1年】 「キャリア桐の葉Ⅳ」

～15年後の「私」～

「社会貢献」を念頭に置き、15年後の「私」を考える中で、今自分はどうかあるべきか、何をすべきかについて省察的な気づきを促すとともに、自らの思いや考えを言語化できる力を育成する。

【高校2年】 「キャリア桐の葉Ⅴ」

～ディベートの取組他～

社会の困難や課題に対する認識を深めるとともに、論理的思考に基づくコミュニケーション力を育成する。

【高校3年】 「キャリア桐の葉VI」

～これからの自己の在り方・生き方～

実社会で直面する「正解のない問い」に立ち向かうため、チームで合意形成を図り最善解を求めようとする姿勢を育む。また、これまでのキャリア形成を振り返り、自身の成長を実感することで、社会で必要とされる「私」の在り方を考える態度を育成する。

<島根県> (種別：教育委員会) 津和野町教育委員会

推薦理由

津和野町教育委員会は、平成28年度から2年間にわたり、「明日のしまねを担うキャリア教育推進事業」委託事業「みんなのまちづくりプロジェクト」事業に取り組んだ。「体験・感動をとおして思いはふるさとへ～9年間+αを見通したふるさと教育の推進～」をテーマに、ふるさと教育とキャリア教育を視点においた小中9年間の系統性のある教育活動を展開した。学校での学びと地域・社会を結びつけ、多様なキャリアモデルとの関わりから自己の生き方や地域課題に目を向ける深い学びへと繋がった。本事業を核としながら、子どもも大人も「自ら学び続ける」、地域総ぐるみによるひとつづくり事業（0歳児からのひとつづくりプログラム）に取り組んだ。

【0歳児からのひとつづくりプログラム】

<スローガン> 「自ら学び続ける」地域総ぐるみによる0歳児からのひとつづくり

～学び続ける・問い続ける・変わり続けるまち～

- ① タテの連携～0歳から18歳まで系統性のある教育環境づくり～
 - ・保小中高の教育関係者によるワークショップ ・学びの系統表作成
 - ・中学校区における身につけさせたい力 ・高校生による小学生への学習TT
 - ・留学生国際交流事業 ・学び続ける教職員研修
- ② ヨコの連携～保育所・学校と家庭・地域・行政が連携した教育環境づくり～
 - ・地域と学校の連携協働の場：学校区エリア協議
 - ・中高生と大人の対話の場：0歳児からのひとつづくりフォーラム
 - ・地域住民と企画する中高生対象キャリア講演会
 - ・大人との対話の場：中学校区ジョブカフェ、トークフォークダンス
 - ・ふるさと（ひと）発見バスツアー ・キャリア教育系人材リスト化
- ③ 教育魅力化推進事業～社会総掛かりの充実した教育環境の整備、支援～
 - ・津和野高校魅力化プロジェクトチームとの連携
 - ・セクションを超えた魅力化推進プロジェクトチームによる目指す方向性の提案協議
 - ・行政職員×教職員によるワーキンググループにおける検討部会と具体的取組の提案

以上のように、津和野町教育委員会の取組は、行政、学校、地域が当事者となり組織的にキャリア教育推進に取り組んだ優れた実践であることから推薦する。

<岡山県> (種別：学校) 奈義町立奈義中学校

推薦理由

奈義町は、小学校1校、中学校1校であり、9年間同じ集団で学年が進むことから、学年によって、良好な人間関係が醸成されまとまりのある集団と、逆に人間関係の固定化からまとまりに欠ける集団があり、年度によって学校の落ちつき等にはばらつきが見られるとともに、「自分には良いところがある」と回答した生徒が17% (H26) と自己肯定感が低いことが課題であった。そこで、平成27年度からキャリア教育実践モデル事業の指定を契機に、キャリア教育の視点から、「他とつながり、関わり合うことのできる力」を育む教育を推進している。

○ 研究体制の構築と幼・小・中の11年間を見通した全体計画等の作成

中学校が中心となって「奈義町立奈義中学区キャリア教育全体計画」、「授業の基盤づくりのための『学びの連携表』」、「幼小中の集団づくりの連携表」を作成し、幼稚園・小学校・中学校の11年間を通して身に付けさ

せたい資質・能力を明確にするとともに、定期的に4校園合同研修会等により取組の方向性を確認しながら研究を進めた。

○ コミュニケーション能力等の育成

中学校区のキャリア教育全体計画等をもとに、小グループを活用した学び合い活動や、「聴く・話す」を重視した授業展開等に取り組み、全ての教科で、生徒のコミュニケーション能力を高める授業を実践した。また、平成29年から、奈義町教育・文化のまちづくり監を務める平田オリザ氏を講師に、演劇のワークショップを実施し、演劇を通じたコミュニケーション能力の育成に取り組んでいる。さらに、教員主導ではなく、生徒が自ら企画・運営する学校行事の工夫、縦割りグループ活動の導入など、生徒の主体性を生かしたよりよい集団づくりに取り組むとともに、職場体験活動を5日へ延長し、生徒の望ましい勤労観、職業観の育成を図っている。

○ 生徒の変容等

こうした取組により、教員がコミュニケーション能力の向上に取り組み、授業での生徒の発言が多くなるなど、学習意欲の向上が図られた。また、全国学力学習状況調査や独自の生活アンケートにおいて、「将来の夢や目標をもっている。」(78.5%→92.8%)「学校のきまり・規則を守っている。」(96.1%→100%)「自分には良いところがある。」(70.6%→83.9%)といった項目の肯定的回答の割合の増加が見られている。

<岡山県> (種別：学校) 岡山県立瀬戸高等学校

推薦理由

当校は、明治42年(1909年)創設の普通科高校である。現在は「尚学・自主・健康・協調」を校訓に、学区に根ざした進学校として、“自ら学ぶ生徒”“リーダーシップを発揮する生徒”“表現力のある生徒”の育成を目指している。

○ 総合的な学習の時間における体系的なキャリア教育

総合的な学習の時間(ひたぶるタイム)において、生徒につけさせたい力を6つ(①受けとる力、②伝える力、③つながる力、④考える力、⑤見つける力、⑥より良くなるようにする力)に整理し、地域に根ざした活動を行っている。思考ツールの活用やループリックによる評価を行いながら探究的な活動を進め、生徒自身が3年間の活動を記録に残すなど、体系的にキャリア教育を行っている。

○ 自治体や企業、大学との連携によるキャリア教育

学びの場を地域とし、複数の自治体、地元企業との連携体制を構築して、自治体や企業の担当者と生徒が直接意見交換を行う場を設定している。また、世界の課題を踏まえた地域での活動とするため、第1回「ジャパンSDGsアワード」の特別賞を受賞した岡山大学と連携し「SDGs」についても学んでいる。修学旅行等では企業を訪問し、企業の行っている「SDGs」の取組についてヒアリングなどを行い、学びを深めている。その結果、地域の課題と世界の課題や学問とのつながりを認識しながら活動を行うことができている。

○ 地域から将来へとつながるキャリア教育

総合的な学習の時間における探究的な活動は、地域課題の学びから始まり、よりよい社会を実現しようとする将来の学びにつながっている。まず、地域の方から課題を聴き取り、県立図書館等との連携による調査研究を通して、自分たちが地域にどのようなことができるかを提案し、その後、「SDGs」の学びを通して、地域課題が世界課題や将来学びたい学問分野につながっていることを知り、未来をより良く生きるために自分たちに何ができるか探究し提案をしている。このような活動は、大学でも社会でも活躍する「未来を生きる力」を育成する取組となっている。

<岡山県> (種別：学校) 岡山県立岡山瀬戸高等支援学校

推薦理由

本校は、平成21年4月に中国・四国地方では初めて、比較的軽度の知的障害のある生徒を対象として、就労による社会自立を目指す高等部単独の特別支援学校として開校した。

○ 実社会からの学びを重視した地域型実習等の先駆的取組

職業教育に重点を置いた教育課程を編成し、「ものづくり」「流通サービス」「食品」「福祉」の4つのコース

の専門教科を中心とした校内での専門的な実習とともに、地元の事業所等の協力を得て、年間を通じ、授業として産業現場等での多様な学習活動や体験活動を定期的に行い、「実社会からの学び」を重視した就労につながる実践的な力の育成に積極的に取り組んでいる。

特に、地域の介護施設や店舗、倉庫等で行う地域型実習や、地域の方を招いて校内店舗で喫茶サービスを行う「カフェ来夢」等に先駆的に取り組み、その実践を県内特別支援学校に広く普及している。

また、「就労し続ける（働き続ける）」ために必要な力を分析し、その獲得に重点を置いた学習について研究実践を行っており、こうした実践を毎年県内外に発信している。

○ 産業界と連携した早期からの現場実習等の先駆的取組

就労による社会自立に必要な実践的な知識、技能及び態度を育成するため、地域での活動や学習の充実とともに、産業現場等における実習（1回当たり2～3週間程度）に積極的に取り組んでいる。

特に、1年生から段階的・系統的に行う産業現場等での実習は、県内特別支援学校に先駆けた取組であるとともに、実習先や就労先の開拓にも顕著な成果を上げている。

本県では、特別支援学校の就労支援に積極的な企業等を「岡山の就労応援団」として登録し、職場体験や地域型実習、産業現場での実習等に対する協力を得ている。この事業は、本校の取組を契機として開始したものであり、登録事業所約400社のうち100社余りを本校が開拓するなど、本県特別支援学校で学ぶ企業等への就労を希望する生徒の就労支援に、多大な貢献を果たしている。

また、一般企業等への就労率は、平成28年度は100%、平成29年度は95%であり、開校以来高い就労率を維持している。

これらの取組により、生徒一人一人の就労による社会自立の実現に成果を上げるとともに、本県の特別支援学校におけるキャリア教育推進の先導的な役割を果たしている。

<広島県>（種別：学校）東広島市立高美が丘小学校

推薦理由

当該校は、平成28年度より、総合的な学習の時間において「高美が丘プロジェクト」と称する地域貢献をテーマとした地域学習を行い、「高美が丘のまちを愛し、よりよいまちにしていこうと地域に積極的に関わり働きかける子ども」を育成するキャリア教育を推進している。

昨年度の学習は次のとおりである。

第1学年 テーマ「大好き！高美が丘」

第2学年 テーマ「笑顔いっぱい！高美が丘」

総合的な学習の時間で実施する「高美が丘プロジェクト」の前段として、生活科において地域探検等を通して地域や地域の人々のことを知り、親しむ活動を実施するとともに、これらの学習を通して学んだこと等を地域の方を招いて報告した。

第3学年 テーマ「美しい町！高美が丘」

高美が丘を美しい町にするために、自分たちで育てた野菜を地域の夏祭りで販売し、その売上金で花の苗を購入した。花を育てる際には、高美が丘中学校（平成29年度全日本学校関係緑化コンクール 学校環境緑化の部 文部科学大臣賞受賞校）の生徒から育て方を学び、育てた花は地域の公共施設等に設置した。

第4学年 テーマ「やさしさいっぱい！高美が丘」

地域における高齢化問題を知り、自分たちができることを地域のお年寄りと交流する中で考え、実施した。

第5学年 テーマ「安心・安全！高美が丘」

事故や災害等に対する地域の課題を知り、安心・安全な地域にするために地域の方と協力して防災マップを作成した。

第6学年 テーマ「町づくり『現在・過去・未来』」

学校の伝統として受け継いだ「高美の風」の歌詞に込められた思いを知り、自分たちの町を何とかしたいという思いから、町の未来を創造し、町のCM、「私たちからの提案魅力リーフレット」を作成した。

「高美が丘プロジェクト」を進めるに当たり、「地域サミット」と称して、各学年の学習に関わりの深い地域の方を招き、活動計画報告会及び協議会を開催し、地域の方の意見も取り入れながら、自分たちができることを考え実施した。また、実施した結果は活動報告会で地域の方に発信した。

このような取組を通して、児童一人一人に、将来社会人・職業人として自立するために必要な資質・能力を身に付けさせるとともに、地域に愛着をもち貢献する心を育てており、その成果は、平成30年度全国学力・学習状況調査の児童質問紙調査「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」を肯定的に回答した児童が81.7%という結果にも現れている。

<広島県> (種別：学校) 安芸高田市立高宮中学校

推薦理由

当該校のある安芸高田市では、「郷土を想い 夢と志に向けて とともに学び続ける人づくり」を基本理念とし、学校・家庭・地域・行政が連携し、すべての大人が積極的に関わり、子供を慈しみ育てる地域ぐるみの『協育』を進め、子供たちに郷土に対する愛着と誇りを醸成する取組を推進している。

当該校では、市の教育基本方針を踏まえ、地域振興会組織との連携・各関係諸機関との連携・小中連携等の活性化を図りながら、地域の実態や現実の課題について探究的な学習を通して、自ら課題を設定し主体的・創造的・協働的に課題を解決する中で、学び方やものの考え方や論理的な思考力・表現力を身につけ、自己の生き方が考えられる生徒の育成をめざしている。

当該校では郷土学習への取組を進め、多様な人との関わりや、生き方に触れることで自らの「生き方」が将来の姿に結びつくよう系統的キャリア教育の推進を行っている。そこで地域課題を3点に設定し実践を行っている。

1 「高齢化社会と福祉に関わる課題について」

地域の高齢者施設を訪問し、入所されている高齢者への考え方や多様な生き方に触れると同時に、施設で働いている職員の想いを聞き取る中で、現在の状況から「自分達にできることは何か」を考えさせる取組を実践している。その取組を通して、地域課題として捉えることの重要性について気付かせている。

2 「地域活性化に関わる課題について」

地域の特産品がつくられた経緯や取り組まれた内容についての学習等を通して、地域の特性を生かす過程に触れ、地域活性化のために尽力されている想いを自己の生活の中でどう生かしていけばよいかを考えさせる取組を実践している。昨年度より、その成果を試す場として、修学旅行の行程の中で地域特産品販売を実施し、郷土の良さを発信させ、地域の一員としての自覚を高めさせる取組を実施している。

3 「地域文化に関わる課題について」

地域の文化継承にかかわり、「面山源流高宮太鼓」への取組を実施している。この文化は途中で衰退し、長く演奏をされておらず後継者も不在の状況も長く続いた。この文化を「復活」させることで、当時の方を指導者として招き、文化の継承に関わらせ、地域への想いを深くさせる取組を実施している。

当該校が推進している「地域の実態や現実の課題について探究的な学習を通して、自ら課題を設定し主体的・創造的・協働的に課題を解決する中で、学び方やものの考え方や論理的な思考力・表現力を身につけ、自己の生き方について考えられる生徒の育成をしていく活動」は、地域における自分の将来の姿を思い描かせ、主体的に学ぶ意欲を高めたり、課題を発見したりすることを通して、地域に貢献するための実践的な態度の育成に結びつくものである。

昨年度同様、今年度も地域の振興会組織が主催する祭りに、地域住民運営スタッフとして生徒に参加させることにより、地域振興会が考える「郷土の活性化・継承」といった取組を目の当たりにし、地域の風土や歴史を探究する意識や地域の一員としての自覚を高めさせる取組を進めている。

<広島県> (種別：学校) 広島県立三原特別支援学校

推薦理由

当該校は、昭和53年に開校した小・中・高等部を有する知的障害のある児童生徒対象の特別支援学校である。「礼儀」「感謝」「挑戦」を校訓とし、地域貢献できる児童生徒の育成に力を入れている。「三原発！『子どもたちが主役！地域と協働プロジェクト』」を掲げて小学部から高等部までの一貫したキャリア教育に取り組んでいる。高等部の就職率は増加傾向にあり、過去3年間で5割から6割の生徒が企業に就職している。

1 「三原特支カフェ」プロジェクト

高等部では、広島県特別支援学校技能検定で身に付けた技能を生かして、地域清掃ボランティアや地域住民

に向けたカフェを実施している。平成30年度から地域の商業施設で定期的にカフェを開くため、生徒が目的を「カフェを通して三原市を元気にする」と設定し、地域の開店場所候補を現地調査した。また、地元のコーヒー専門店のバリスタから指導を受け、生徒によるオリジナルブレンド「たこみちゃんMAX」を開発し、生徒がミルで挽いた豆を使用したドリップ式コーヒーを販売している。カフェチームの生徒たちは営業部長などの役職名で役割を担い、生徒が電話で開店に向けた交渉を行ったり、三原市長を訪問しカフェを通した三原市まちづくり計画について生徒がプレゼンテーションを行ったりすることを通して、主体的な学びが促されている。食品加工チームは地元パティシエからの指導を受けながら、カフェで提供するケーキ菓子の製造に取り組んでいる。大手商業施設の方からの協力を得て、カフェ実施の場所を提供していただくとともに、生徒が開店にふさわしい味と接客であるかを評価するための審査会を開催した際の審査員役も担っていただいた。

2 キャリア教育を踏まえたカリキュラムづくり

地域と協働し地域貢献できる児童生徒を育てるための取組として、「清掃」「おもてなし」「芸術」を3大プロジェクトとして教員による3つのチームを編成し、教員の主体的な学びを促がすとともに「三原特支付けたい力」を基に、それぞれに必要な力の整理とカリキュラム・マップの作成に取り組んでいる。高等部が実施するカフェは、小学部における高学年児童が低学年児童を招待する「お店屋さんをしよう」の学習や中学部の生徒が外部講師から接客の基礎を学び、生徒が「おもてなし会」を企画・実施する学習と関連するものであり、小・中・高等部を通して地域貢献に必要な力を育成する系統性のある指導内容としている。

3 自立に向けたキャリア発達を促す取組

- ① 広島県特別支援学校技能検定に向けて、外部講師の指導を受けながら技能習得及び向上を図っている。本番に向けて校内技能検定を実施するとともに、中学部では高等部技能検定の前段階として、中学部段階に合った手順と評価表で中学部清掃技能検定を実施している。
- ② 広島県特別支援学校技能検定で1級を取った生徒たちが、毎年ひろしまアビリンピックに参加しさらなる技能の向上を目指して取り組んでいる。平成29年度は7名が受検し、製品パッキング部門で本校生徒が金賞を受賞し、全国大会に参加することになった。
- ③ 平成24年度から「三原検定」を実施し、身だしなみや挨拶、質問に対する応答の仕方、電話のかけ方について評価し級を認定してレーダーチャートとともに本人が次の目標設定に生かすことができるように取り組んでいる。

4 地域・産業界と連携したキャリア教育の実践

- ① 高等部では、作業学習に作業基礎の単元を設け、企業から就労に向けた基礎的な指導を受け、自らのキャリアデザインの形成に役立てている。
- ② 高等部生徒が外部講師からマナー指導を受け、社会で通用するマナーについて学び、地域貢献の取組に生かしている。
- ③ 毎年、地元企業家団体と連携し、企業懇談会を開催している(平成29年度31団体41名の参加)。好感触を得られた企業へは教員が分担して企業訪問し、就職や職場実習の依頼を行っている。
- ④ 地元の大手商業施設で製品販売会を毎年実施し、高等部作業学習で製作した製品を販売している。また、外注を受けて木工製品の販売・配達も行っている。

<山口県> (種別：学校) 下関市立名池小学校

推薦理由

下関市立名池小学校は、平成24年度からコミュニティ・スクールの指定を受け、学校教育目標「心身たくましく創意あふれる活力にみちた児童の育成」をめざして地域・保護者と連携を図りながら、教育活動を進めている。

また、平成28年度から2年間、下関市の小中一貫教育研究推進校となり、名陵中学校区内3小中学校が、9年間のめざす子供の姿を共有しながら、キャリア教育を始めとした日々の教育実践に以下の観点から取り組んでいる。

【小中連携したキャリア教育】

1 小中でめざす子供の姿を共有

名陵中学校区の3校で、小中一貫教育グランドデザインを作成し、めざす子供の姿を共有している。

2 小中一貫カリキュラムの作成

9年間の学びの連続性を図るために、「ふるさと学習・キャリア教育」における小中一貫カリキュラムを作成し、「誇りと志をもって下関(名陵)を発信できる児童生徒の育成」をめざしてキャリア教育を推進している。

《実践例》① 2年生「名池のまちたんけん」 ② 6年生「未来予想図を描こう」

3 小中学校での合同学習

名陵中学校校区では、例えば小学校1・2年生と中学校3年生のように合同で学習をする教育活動を仕組んでいる。この活動では、小学生にとっては、なりたい自分のイメージを具体的にもつこと、中学生にとっては、自分の実践を確かな学びへと深めていくことを目的としている。

《実践例》小学3・4年生と中学2年生による合同学習「職場体験発表会」

【縦割り班活動を活用したキャリア教育】

当校は、昭和49年度から青少年赤十字に加盟しており、「気づき、考え行動する」のJRC精神のもと、全校児童が16の縦割り班に分かれてふれあい活動やボランティア活動を行っている。

《実践例》①「VS活動」 ②「平家おどり」

【地域や保護者と連携したキャリア教育】

地域やPTAと連携した活動は以前から積極的に実施していたが、中学校区全体で地域がめざす子供像の共有化が図れるようになり、双方向の情報発信がより活発になっている。

《実践例》①「名池まつり」 ② 学習内容にリンクしたPTA学年活動

名池小学校は、小中一貫教育をベースに、小中9年間を通じて学びの連続性を意識した取組を系統的に行っており、山口県が推進する小中一貫教育や「やまぐち型地域連携教育」の趣旨に合致するものであり、キャリア教育優良学校として推薦する。

<山口県> (種別：学校) 光市立浅江中学校

推薦理由

光市立浅江中学校は、コミュニティ・スクール(「あさなえJネット」として地域・家庭と連携強化を図っていき、「地域とともにある学校づくり」をめざしている学校である。キャリア教育については、コミュニティ・スクールの機能を生かし、①生徒たちが、社会や世界に向き合い関わり、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを教育課程において明確にすること、②地域の人的・物的資源を活用し、家庭、地域、産業界等との連携を図ったキャリア教育を推進することに重点を置き、「社会に開かれた教育課程」の実現をめざすための重要な柱の一つとして位置付けている。特に総合的な学習の時間を中心に「15歳は地域の担い手プロジェクト」として教育課程全体を通じた取組を行っている。以下に具体的取組の一端を示す。

1 地域の担い手プログラム

各学年ごとにキャリア教育で育てたい力を位置付け、地域の方とのふれあい活動を中心として様々な地域貢献活動を行っている。将来、この地域の担い手となる生徒の地域住民としての意識を醸成する活動を行っている。

2 自分探しの旅プログラム

(1) しごと発見塾(1学年)

様々な職業についての調べ学習及び実際に社会で活躍している人の協力による職業体験セミナーを通して、仕事のやりがいや苦勞、喜びなどにふれ、自らの職業選択に積極的に考えていくことをねらいとして実施している。看護師、介護福祉士、美容師、整体師、自動車整備士、アナウンサーなど約40名の地域人材を25のブースに分け、希望するブースで体験を交えて職業について学んだ。

(2) あさなえ模擬面接(3学年)

高校進学のための面接試験を控えた3年生を対象に実施しており、地域在住の元企業の方々を模擬面接官として面接指導を行っている。特に、社会の中で求められていることに生徒自らが気づき、自己を見つめる場となるとともに、社会人として様々な経験をされた方々からのアドバイスを受けることで、社会との関わり方を学ぶ場となっている。

(3) ようこそ先輩(全学年)

毎年、浅江地区コミュニティ協議会の青少年部と連携して実施している。

本校の卒業生を講師として迎え講師の生き方や夢の実現についての講話を通して、生徒が自分の生き方を考える場をもち、地域人材を活用した取組を進めている。

(4) あさなえワークス（特別支援学級）

全ての特別支援学級を対象に通年で2日程度の職場体験を実施している。受入の事業所の紹介等の支援は、学校が任命した地域のジョブサポーターが行っている。この取組は、生徒が自立を意識するきっかけとなるとともに、将来にわたって生徒の特性を地域が理解し、就職の受入にもつながる活動となっている。

(5) 職場体験（2学年）

2日間実施している。1年次の「しごと発見塾」での経験を生かすとともに学校運営協議会委員の協力を得ながら事業所と連携を図り、職業の存在や働く意義を学び、生徒が自分の生き方を考える場としている。

(6) 立志式（2学年）

生徒が将来の自分の姿をイメージし、それに向かって進路選択等ができるよう地域の方や保護者の前で誓いを立てる場を設定している。事前の道徳の授業や総合的な学習の時間と関連付けるとともに地域と連携したキャリア教育の一環として自己理解を深め、自己実現に向けての意欲を養う場としている。

以上のように「15歳は地域の担い手」として捉え、生徒が地域への愛着と誇りをもち、地域の一員として自覚を深めるといふ浅江中学校の取組は、学校の課題と地域の課題の解決を図る取組であるとともに、山口県が進める「やまぐち型地域連携教育」の趣旨に合致するものであるため、キャリア教育優良校として推薦する。

<山口県>（種別：学校）山口県立豊北・下関北高等学校

推薦理由

当該校は、極端な人口減少、少子化・高齢化の進行、これに伴う活力低下が深刻な問題となっている地域に開校した地域唯一の県立高校として、新しい学校づくりを進める中で、コミュニティ・スクールの仕組みを活かした地元自治体や市民活動団体等との連携により、地域課題の解決に取り組むとともに、生徒の地元への理解・愛着・誇りを育み、地域の担い手を育てるキャリア教育を以下のとおり展開している。

こうした継続性のある優れた取組や功績が認められることから、キャリア教育優良学校として推薦する。

1 学校経営方針等におけるキャリア教育の位置付け

学校の課題やミッションを明らかにした上で、教育目標の中にキャリア教育を明確に位置付けるとともに、教育課程の中にキャリア教育の中心となる教育活動を設定して展開している。

(1) 地域の課題解決に向けた学校のミッション

- ・地域社会の維持・発展に貢献できる人材の育成
- ・高校生ができる地域貢献による地域の活性化
- ・高校存続による地域社会の維持

(2) 新しい学校づくりのコンセプト・教育目標

<コンセプト>

地域と連携・協働する教育活動の推進により、郷土への愛着と誇りを育み、未来社会に対応できる実践力を培う学校づくり

<教育目標>

- 夢や希望をもって未来を切り拓く、確かな学力の育成
- 郷土への愛着と誇りをもち、地域や人とのつながりを大切にする豊かな心の育成
- 主体性をもって多様な人々と協働して学び、地域の活性化や課題解決に貢献する人材の育成

(3) 生徒のキャリア形成を主眼とする教育課程の編成

新高校の教育課程の編成に当たっては、地域唯一の高校としての責任を果たすため、幅広い学力と多様な進路希望を有する生徒に対応できるよう、2年次から2つのコースに分け、四年制大学進学を希望する生徒には、受験に必要な科目を集中的かつ効率的に学習できるようなカリキュラムを整える一方で、普通科の授業の中に地域の特性を踏まえ、ビジネスや福祉、保育、ハンゲル・中国語などの外国語、さらには、学校設定教科「地域探究」を設置し、地域の主要産業である農業・漁業・観光産業等にもふれることができる機会を設け、自分の住んでいる地域に立って、自分の将来をみつめるような学習ができるカリキュラムを編成している。

(4) キャリア教育全体計画・年間指導計画の見直し

新高校の教育課程の編成に併せて、コンセプト、教育目標を踏まえ、キャリア教育全体計画や年間指導計画を見直し、従来の3年間を見通した、計画的・系統的で体験的な進路学習に加えて、地域連携活動を位置付けている。

- 計画的・系統的で体験的な進路学習
 - 職業理解ガイダンス(1・2年(6月))
 - 面接指導ガイダンス(全学年(5月)3年(6月))
 - 小論文ガイダンス(1・2年(6、9、11月))
 - ホームカミングガイダンス(1・2年(9月))※卒業生による進路講話
 - オープンキャンパスへの参加(全学年(8月))
 - 予備校自習体験(2・3年(6・9月))
 - 大学等上級学校見学会(1・2年(10月))
 - 進路ガイダンス(上級学校理解)(1・2年(11月))
 - 進路講話(1・2年(5、12月))※業者
 - 3年生による合格体験発表(1・2年(2月))

2 地域で生きることを考える教育実践

～新高校開校に向けて先行実施してきた取組～

- 地域の若手経営者との交流会(地域で活躍する大人を実感)
～地域の若手経営者と語る地域の未来・私たちの未来～
商工会青年部豊北町支部と連携しパネルディスカッションを実施
- 夏の夜市へのボランティア参加(地域で活躍する大人を実感)
交流会でパネラーを務めた商工会青年部の方が企画運営する夜市などの地域行事に参加し、準備・運営補助
- 地域貢献型インターンシップ(地域の主要産業を理解)
豊北地域の農業特産品である「ほうほく梨」の選果作業や「介護福祉施設」での実習(10回程度)を実施
- こども園や小学校との交流
(異年齢交流による自己肯定感・有用感の醸成)
保育実習、園児の本校文化祭参加、家庭科でのスイートポテトづくり、小学生への夏休みの学習支援、体育教員と高校生が参加した陸上競技の出前授業など
- 俳句相撲(地域の魅力再発見)
地域出身の俳人田上菊舎にちなんだ、俳句の創作
- 同窓生と地域で“ブラタモリ(まちあるき)”(地域の魅力再発見)
同窓生等有志グループと協働し、記録映像等の視聴、地元の街を散策・探訪、報告会・フォーラムの実施
- 地域創生講演会(地域の魅力再発見)
「里山資本主義」の著者藻谷浩介氏による人口動態からみた地域の現状についての講演
- 地域の食材を利用した調理実習等(地域の魅力再発見)
地域の特産(連子鯛や瓦そば)や校内自生の食材を活用した調理実習
- まちづくり協議会のワークショップ参加(地域の活性化)
豊北地区まちづくり協議会が主催するワークショップで、地域活性化策を提案
- 商店街の空き店舗で美術展(地域の活性化)
同窓生等有志グループと協働し、空き店舗で美術展を開催
- ハロウィンかぼちゃのランタンづくり(地域の活性化)
地域の花卉農家と連携したハロウィンかぼちゃのランタンづくりの推進により、起業家教育(アントレプレナー教育)を推進するとともに、豊北町を観光用かぼちゃの一大産地にすることをめざす取組を展開
- 校内の専門委員会に地域貢献活動を位置付けて実施
交通安全活動など、校内の自治活動だけでなく、実施可能な地域貢献活動を位置付けて実施することにより、学校生活と社会生活につながりをもたせる取組を展開

3 学校運営協議会による取組の検証・改善

地域が抱える課題やミッションを共有し、キャリア教育を持続的に実施していくことができる人材や組織の

代表で構成し、地域のニーズを把握しつつ、取組を検証し改善・充実していくこととしている。

4 今後の取組～キャリア教育を支える組織づくりと教育課程の工夫～

- 教育課程の工夫・改善による「社会に開かれた教育課程」の編成（カリキュラム・マネジメント）

下関北高校のカリキュラム編成に当たっては、ビジネスや福祉、保育、さらには、学校設定教科「地域探究」を設定し、地域の主要産業である農業・漁業・観光産業等にもふれることができる機会を設けるなど、キャリア教育・地域貢献活動を行う時間を教育課程に明確に位置付けて展開する。

<徳島県>（種別：学校）三好市立池田小学校

推薦理由

「様々な人との出会いや体験活動を通して、きまりを守り、夢や希望をもち、意欲をもって粘り強く取り組む児童の育成」を目標に掲げ、総合的な学習の時間を中心に、各教科や道徳、特別活動と関連付けた指導計画を作成し、組織的・系統的なキャリア教育を実践している。平成29年度には、「未来を創る起業家育成事業『みんなが主役！』小中高校生起業塾」（徳島県教育委員会）の研究校として指定され、地元商工会議所と連携した起業体験活動の推進などに積極的に取り組んだ。

具体的な取組

第6学年の総合的な学習の時間では、「考えよう これからの地域 これからの自分」をテーマとし、起業体験活動を中心とした取組を展開した。自分たちの住む三好市池田町についての現状把握から始まり、阿波池田商工会議所による出前授業により、株式会社の設立や事業計画書の作成について学び、数名のグループごとに模擬会社を設立した。また、地元商店街や地元起業家（廃校カフェの経営者）等への取材を実施し、材料の仕入れ、製作を行い、地域イベントに出店した。

成果

自己肯定感が高まり将来の夢や希望に向けて意欲的に活動していこうとする態度や、課題を解決するために情報を収集したり分析したりする力等を児童に身に付けさせることができた。また、地域や産業界との連携が強くなり、組織的・系統的なキャリア教育を効果的に推進している。本県小・中・高等学校教員対象の「キャリア教育推進フォーラム」や「徳島県キャリア教育推進協議会」において取組発表をするなど、成果の普及にも努めている。

<徳島県>（種別：学校）藍住町立藍住東中学校

推薦理由

「社会的・職業的自立に向けた職業観や勤労観の育成」「自ら学び自ら考え、課題を追究する力の育成」「仲間や地域の方とコミュニケーションを図り、協力・協働して課題解決に取り組む力の育成」を目標に掲げ、総合的な学習の時間を中心に、各教科や道徳、特別活動と関連付けた指導計画を作成し、組織的・系統的なキャリア教育を実践している。平成29年度には、「未来を創る起業家育成事業『みんなが主役！』小中高校生起業塾」（徳島県教育委員会）の研究校として指定され、地元事業所や経済団体と連携した起業体験活動の推進などに積極的に取り組んだ。

具体的な取組

職場体験活動での学びを深めるため、徳島ニュービジネス協議会と連携し、新しい働き方や起業についての出前授業（県内ベンチャー企業の社長による）を実施するなど、職場体験活動における事前指導及び事後指導の充実を図るとともに、県産食材を生かした商品開発を中心とした起業体験活動を実践した。起業体験活動では、グループごとに、商品開発案、事業計画書作成等の体験を実施し、学んだことの成果と課題を共有し合うため、学級発表会及び学年発表会を開催した。また、グループごとに仕入れ、商品試作等を行った。

成果

必要な情報を取捨選択できる判断力、自ら課題を解決しようとする力、新しい価値を生み出そうとする創造力等を生徒に身に付けさせることができた。また、地域や産業界との連携が強くなり、組織的・系統的なキャリア教育を効果的に推進している。本県小・中・高等学校教員対象の「キャリア教育推進フォーラム」や「徳島県キャリア教育推進協議会」において取組発表をするなど、成果の普及にも努めている。

<徳島県> (種別：学校) 徳島県立みなと高等学園

推薦理由

みなと高等学園では、発達障がいのある子どもたちを「才能の宝庫」としてとらえ、その才能を生かした教育を実践し、日本の未来を創造する人材育成に向けた取組を進めている。当校では、商業、情報、生産、流通の専門学科を設置して、学習を進めるとともに、地元を中心とした企業の協力を得て、職場見学や事業所での実習等の就業体験を通して生徒の働く力を育成している。

また、企業からの就労ニーズの高いビルメンテナンズの職業技能を高めるため、「とくしま特別支援学校技能検定」を平成24年度に開発・実施し、職業的自立に向けた取組を進め、現在は、県内全ての特別支援学校高等部を対象に技能検定を実施しており、他の特別支援学校にも普及した。

さらに、生徒が身につけた職業スキルや態度を実地に生かす場面として、様々な地域貢献活動に取り組んでいる。平成26年度からは、清掃に関する技能を生かして、公共施設や福祉施設での清掃奉仕活動を継続実施している。また、平成28年度からは、地域の事業所と協力して、キラゲを用いた新商品の開発、宣伝、販売等を行ったほか、平成29年度は、地域のスーパーと連携し、技能を生かした6次産業化の体験学習として、おはぎの試作、販売など従来の特別支援学校では見られない新しい取組を展開している。

こうした活動をとおして、地域住民の方々にみなと高等学園の存在が認められるとともに、生徒にとっても働く意欲やコミュニケーション能力、職業スキルの向上に大きな成果をあげている。これらの成果については、平成25年度からみなと高等学園を事務局として発足した、「徳島県発達障がい教育研究会」において、積極的に県内外の各高校へ情報発信を行っている。

<香川県> (種別：学校) 香川県立多度津高等学校

推薦理由

当該校は、地元企業や漁協等と連携した実習授業・インターンシップなどを通して自己有用感の涵養を図りながら、望ましい勤労観や職業観を身に付けさせ、工業科と水産科を併せ持つ専門高校として、地域の産業を担う人材の育成を推進している。

1 就職内定率100%達成

卒業生の約4分の3の生徒が就職を希望し、その約9割が県内企業に就職している。平成21年度からの9年間のうち7年間で就職内定率100%を実現し、3年以内離職率も約1割と少なく、地元企業から期待され、求人数も増加している。

2 地元町との包括的連携・協力に関する協定に基づく活動

平成25年8月に、地元多度津町と包括的に連携・協力し、教育及び研究の推進並びに地域の活性化に寄与することを目的に協定を交わし、それに基づいて平成25～28年度に「ため池環境整備推進プロジェクト」を実施し、貝の摂食濾過作用を利用したため池の水質浄化に取り組んだ。平成26・27年度にはJR多度津駅前公園の蒸気機関車のライトアップを行い、平成28年度からは新交通システム研究開発を進めている。

3 地元漁協等との協力によるブランド商品開発

実習で養殖したサツキマス「DCJサーモン」として高松市中央卸売市場の協力を得てセリにかけたり、宇多津漁協からの依頼で瀬戸内海でとれるサワラを活用した商品開発に取り組んだ。

4 地域交流・地域貢献

地元小学校の理科や図工の授業に電気科や建築科の生徒が出向いて指導する出前授業を実施するほか、カキ祭り・町民祭などのイベントに参加し、ものづくりの楽しさを体験してもらったり運営協力を行っている。また、近隣住民との合同防災訓練、海浜清掃美化活動、幼稚園との交流、学校施設公開によるミニ水族館の実施など、地域交流・地域貢献の取り組みも行っている。

5 各種資格取得の推進

工業科ではガス溶接技能、危険物取扱者、電気工事士、測量士補など、水産科では潜水士、小型船舶操縦士、HACCP基本技能など、多くの生徒が各種資格取得にチャレンジし、多数合格者を出している。

6 産業教育に関する全国レベルの各種大会等への参加

マイコンカーラリー、ロボットアメリカンフットボール、ゼロハンカー、コンクリート甲子園など各種大会

に参加し、全国大会出場、入賞などの成果を上げている。

7 新規学卒者のための支援

平成26年度から、新規学卒者（卒業して1年以内）について、就職指導の担当者等が就職先を訪問し、状況把握を行うとともに悩みの相談を受けるなど、職場定着に向けたサポートを行い、早期離職防止を図っている。

<香川県>（種別：学校）香川県立志度高等学校

推薦理由

当校は、「敬愛、勤労、熱誠」の校訓のもと、「夢へのチャレンジを支える学校づくり」をスローガンに、社会の変化に主体的に対応できる21世紀を生きる人材の育成に努めている。

1 就職内定率5年連続100%達成（過去10年間で7年100%達成）

卒業生の2割程度が就職を希望し、県内企業にそのほとんどが就職している。5年連続での就職内定率100%を実現し、地域に貢献する人材の育成に努めている。部活動で培った忍耐力やコミュニケーション能力は企業からも期待されており、そのため離職者も極めて少ない。

- ・〈過去10年間合計〉卒業生数：2,960名、就職者数：498名、平均就職率：16.8%
- ・平成25年度新規学卒就職者の3年以内の職場定着率 97.7%

2 インターンシップによる職業理解

例年、2年生を対象に職業観・勤労観の育成及び最先端の知識・技術理解等のために県内50数社の事業所において企業体験を実施している。

3 商品開発等の充実

3年商業科の課題研究の授業では、地元和菓子店と連携した商品開発・販売実習を実施している。また、平成27、28年度には、商品開発に加えて『東讃地域の活性化を目指して私たちにできること』をテーマに、地元の企業やお店を紹介して地域ならではの物や知られていなかった良さを地域の人に知ってもらい、地域の発展・活性化のための情報誌を作成した授業で「楽天IT学校」に取組み、県内の靴販売会社のWebページ作成や商品開発を行い、専門科目の興味・関心を高めている。

4 地域等の教育力の活用

平成29年度県教育委員会の指定（「かがわの高校アクションプラン」）を受け、地元企業等で活躍している卒業生による講演会の実施や県内大学講師による出前授業など大学との連携により、自己探求と進路意識の高揚を目指している。また、就職2年目の先輩3名から自らの受験体験等を聞く機会を設けたり、ハローワークと連携した地元企業の高校内企業説明会の実施など、職業観を形成している。

5 各種資格・検定取得の推進

全国商業高等学校協会主催の簿記実務検定や珠算・電卓検定などの、各種資格・検定を積極的に取得させるため、課外等個別指導を充実させ、合格率の向上と専門知識の向上を図っている。平成28年度実務特級は商業科94名（生徒数237名）、英語実務科2名（生徒数40名）である。

6 新規学卒者のための支援

新規学卒者（卒業して1年以内）について、就職指導の担当者等が就職先を訪問し、状況把握を行うとともに悩みの相談を受けるなど、職場定着に向けたサポートを行い、早期離職防止を図っている。

<愛媛県>（種別：学校）松山市立湯築小学校

推薦理由

湯築小学校は、日本最古の歴史を誇る道後温泉や多くの観光客が訪れる道後商店街が校区にあり、地域の豊かな文化や人・自然等に積極的に関わりながら、ふるさとを愛し、そのよさを発見・発信することを通して、自分たちのよりよい生き方を考え、夢や目標を持って、他者と協働しながら意欲的に活動する児童を育てる取組を長年に渡って行っている。

総合的な学習の時間を中心に、各学年のテーマを設定し、探求的な活動が系統的に行われている。発達段階に合わせて、人やものを軸に、地域と積極的に関わり、小小連携や小中連携を生かしながら、児童一人一人のキャ

リア形成を意識したキャリア教育の実践を行っている。

○ 各学年の「キャリア教育」の取組

第3学年では、湯築の町を探究する活動や地域の方々と交流する活動を通して、そこで働く人たちの思いや町のよさを知り、学んだことを生かして、「ゆめキラキラ集会」で紹介した。自分の生活や成長に多くの人が関わっていることに気づき、今後の自分の生活をよりよくしていこうとする主体的な態度を育成することができた。

第5学年では、総合的な学習の時間において「世界へはばたけ！湯築のOMOTENASHIの心」というテーマで、道後温泉や道後の町でのガイド活動やプロデュース活動を行っている。

道後温泉の職員の方に歴史や苦勞、工夫などについて直接話を聞いたり、道後村めぐりや道後温泉の入浴体験を行ったりして、地域に・世界に誇る文化があることを再認識し、自分たちの力で道後の町をより良くする活動に参画し、町の魅力を自分たちで紹介していく活動を年間を通して行った。

第6学年では、「輝く いのち」をテーマに多様な人に関わり、その生き方について触れることにより、自分の生き方を見つめ直す活動を行った。

<愛媛県> (種別：学校) 愛媛県立今治工業高等学校

推薦理由

愛媛県立今治工業高等学校は、機械造船科、電気科、情報技術科、環境化学科、繊維デザイン科の5学科を設置し、優れた技術力を持つ、有為な人材を多く輩出し、地域のものづくり教育の中心的役割を果たしている。

○ マッチングフェアの実施

2年生の就職希望者を対象に、企業と高校生のマッチングフェアを行っている。企業が求める人材を理解し、ミスマッチを防ぐ取組として有意義である。

○ インターンシップの実施

2年生全員が5日間のインターンシップを実施し、勤労観・職業観の育成に努めている。事前に受入企業の研究、外部講師によるマナー指導や安全指導などを実施しているほか、事後には、自己評価、お礼状の作成や、後輩を対象とした報告会、学習発表会を実施している。

○ デュアルシステムの実施

3年生の希望者が、地元企業で週1回程度の就業体験を継続的に行うことにより、生徒の実践力の向上や勤労観・就業観の育成を図っている。

○ 「匠の技教室」の実施

企業技術者等による技能講習や講演会を実施している。生徒の学びへの意欲を喚起し、進路意識を高める取組である。

○ 生徒体験発表会の実施

各科での、課題研究及びインターンシップ発表会の後、全校での発表会を実施し成果の普及に努めている。

○ 地域との連携

機械造船科ではSPH指定校として地元の造船・船用企業や大学等と連携・協力し、地域産業を支えるスペシャリストの育成に努めている。繊維デザイン科では、今治タオル工業組合の方を招へいし、生徒が新商品の企画提案を行う「提案プレゼン交流授業」を実施するなど、実践力の向上に努めている。また、地元でのイベントにも積極的に参加し、夏休みには小中学生対象のものづくり教室を開催している。

○ キャリア教育に係る情報発信

キャリア教育の実施状況を、随時ホームページにも掲載し、保護者や企業に情報を発信している。

<愛媛県> (種別：団体) 道前会 (愛媛県立西条高等学校同窓会組織)

推薦理由

本団体は、愛媛県立西条高等学校同窓会組織として設立されており、西条市役所や西条市にある企業等に多数の会員を持つ組織である。

西条高校商業科が実施しているインターンシップにおいて、高校の要請に基づき、生徒が職場体験を希望する事業所に対する仲介を会員を通じて積極的に行い、インターンシップの成果向上に大きく貢献している。

平成 28 年度は、道前会会員で独立行政法人物質材料研究機構特命研究員の方を講師に招いて講演会・交流会を企画・実施した。また、修学旅行の機会を生かした企業見学の見学先の紹介及び案内、生徒との研修・交流会を行った。

これらの取組を踏まえ、平成 29 年度は、道前会会員を講師として招き、「道前塾」と称した講演会を実施し、生徒のキャリア教育の充実に尽力した。なお、この事業は今後も継続予定である。

西条高校は、平成 30 年度からSSH校の指定を受け、「南海トラフ地震の学びを通じた多次元的マルチリーダー財育成」の主題の下、西条市役所との相互連携体制を構築し、地域の課題を研究している。その連携体制の構築にも、本団体の積極的な支援が行われている。

【主な取組】

- ・職場体験事業所への仲介
- ・平成 29 年度道前塾（年 3 回実施・延べ生徒 120 名参加）

第 1 回

「テクネチウム-99（Tc 同位体）がひらく宇宙物理と医学の世界」

「ベトナム稲作農民とともに歩む国際協力学」

第 2 回

「国立総合大学とはどんな所か、大学で学ぶことの意義、研究室に所属されて行う研究について、社会に出る時に求められること」

第 3 回

「安全・安心な社会構築のための災害シミュレータの開発とリスク・コミュニケーション」

<高知県>（種別：学校）高知県立山田高等学校

推薦理由

1 学校概要

「誠実にあれ 誇らかにあれ 貫きてあれ」を校訓とする山田高等学校は、高知県の中東部にある香美市に所在し、全日制普通科・商業科、定時制を設置している。「知・徳・体」の力をバランスよく養い、地域社会に貢献できる人材の育成に努めており、その柱の 1 つに「キャリア教育の推進」を掲げている。

平成 28 年度より、学校地域協働本部事業を活用し、民間人や大学生の地域連携コーディネーターを配置して、地元・近隣自治体や地元企業などとの連携の強化を図りながら、キャリア教育の視点から「地域の発展に思いを馳せ、地域創生に有為な人材を地域と一体となって輩出する学校づくり」を進めている。

2 ②・③の観点から

(1) 取組の核となる「地域課題の探究～チームでイノベーション～」

普通科の 1・2 年生では、総合的な学習の時間において、「チームでイノベーション」をテーマに、地域の大人だけでなく県内外の数多くの人々の全面的な協力のもと、「地域課題を解決するためのアイデアを提案する」というミッションに取り組む地域課題探究学習を行っている。

1 年次：前期「地元企業の CM 制作」、後期「地元・近隣市長への政策提言」

・前期には、地元企業の CM 制作を行う（H28：25 社、H29：28 社、H30：18 社）。まず、地元商工会長から地域の経済の状況や後継者育成の現状・課題等について学ぶとともに、地元新聞社の記者による講義を受講した後、取材活動を行う。また、効果的・魅力的な CM づくりの考え方やテクニック等について国内トップ企業の専門家からの講義を受ける。その後、夏期休業中には各事業所で 2 日間のインターンシップも実施する。CM は 1 分間の動画で、取材等で得た経営者の想いや商品の特色、企業の社風や印象といった生徒たちの心を動かしたものについて創意工夫を凝らして作成する。また、「伝わる」動画編集とするため、地元の大学生の支援・助言も得ている。制作した CM は、地元商店街にあるコミュニティホールで発表会を行い、インターネット上でも公開している。

・後期は、各自治体の担当者による地域の現状や課題についての講義や、地元イベントへのボランティアスタッフとしての参加などを通して地域を知り、課題設定、調査を行う中で、地域課題の解決に向けたアイデア提言を行う。各チームには大学生メンターが伴走し、地域おこし協力隊も支援を行う。2 月には各市役所に出向き、全チームが市長に直接提言を行っている。

2年次：「高知県の県政課題を探究」

- ・1年次の経験を生かしながら、県庁各課の出前講座や大学生の企画による新しいアイデアを生み出すためのディスカッションである「アイデアソン」、フィールドワーク等を通じて、課題の絞り込み、アイデアの磨き上げ、企画書の作成を行う。平成29年度には、鳥獣対策としての狩猟者派遣会社の設立や、地震対策としてのペットと共存できる避難所マニュアルの作成などの提言がなされた。

取組後には、生徒同士がお互いを認め合い感謝し合う「ありがとうカード」の作成や、問題発見力、創造力、チームワークなど身に付けさせたい力を整理したループリック（8項目5段落）による自己評価を実施、感動したこと、発見したこと、学んだことを一定の文字数（500字）でまとめる活動などの振り返りを行っている。

また、3年次には、「自己実現への探究」をテーマとして、これまでの探究学習を基に自己実現に向けた個人探究を行い、卒業時には冊子としてまとめている。

(2) 商業科の商品開発の取組

商業科においては、平成26年度から科目「商品開発」の授業で、地元企業と連携し、地域の農産物等の特産品を活かした食品を考案している。改善を繰り返しながら商品開発を継続した結果、平成28年度に開発した地元のショウガを使った「高校三年生の山田まん」は、大手航空会社の機内食としても取り上げられるなど、大ヒット商品となっている。その後も、高知県を代表するロングセラー商品を目指し、販売促進方法や企画、広告、パッケージデザインについて研究、マーケティング分析が続けられている。高校時代にこのような本物のビジネスを経験することで、主体性、協働性、創造性などの育成や商業活動の様々な場面で活躍する人材の育成にもつながっている。中には、これらの活動をさらに深めたいと大学進学を目指す生徒や、共同開発を行った企業への就職を希望し、積極的に行動したことが評価され内定をもらった生徒なども出ている。

(3) 地域貢献活動の推進

自己肯定感を育み、豊かな人間性を身に付けることを目的として、ボランティア部、生徒会執行部を中心とした地域貢献活動も積極的に行っている。全校生徒が年1回以上のボランティア活動に参加することを目標としており、平成29年度には、小学校での学習支援や子ども会活動への支援、幼稚園等に出向いての読み聞かせ・演奏会、地元イベントの運営スタッフ、防災ディキャンプ（地域住民と防災マニュアルの作成や避難訓練の実施）や防災食堂の開催など、40以上の活動に延べ500人以上が参加し、地域にとってなくてはならない高校として評価されている。

<高知県>（種別：学校）高知県立日高養護学校高知みかづき分校

推薦理由

1 学校概要

日高養護学校高知みかづき分校は、「地域に愛され、地域に貢献できる人材の育成」を教育目標に掲げ、作業学習を中心に職業教育の充実を図り、生徒一人一人に応じた職業教育や社会自立を目指す教育を行う高等部だけの学校として平成23年4月に開校し、卒業後は、一般企業へ就労できる生徒の育成に取り組んでいる。

2 取組内容

働くことの意味や意義を理解するために積極的に地域との交流を行い、将来を見据えたキャリア教育の充実に努めている。また、校内作業では、各作業種ごとに地元の企業や専門学校とジョブサポーターパートナーズ（JSP）を締結し、専門的な知識や技術の指導助言を受け、作業学習の評価・改善を行っている。

(1) 作業学習

① 環境サービス

各教室、窓、廊下等の清掃作業を行う。清掃道具の扱い方、マナー等については、清掃会社の指導助言を受け、より実践的な清掃作業を行っている。また、近隣の商店街や公民館、小学校の清掃も定期的に行っている。

② フードビジネス

店舗型の実習施設でパンやケーキの製造、販売、接客を行っている。週2回の開店日には、地元の方が多く来店しており、地域の人々のコミュニケーションの場にもなっている。また、調理の専門学校と連携

を行い、商品の開発や接客のマナー等の学習を行っている。

③ 物流実務

商品のピッキング・計量・ラッピング、名刺・封筒・ポスター・紙袋づくり等を行っている。また、近隣の店舗で販売学習を行い、地域との交流も行っている。

(2) 職場実習

一般企業や福祉事業所等で年2～3回（1回2～3週間）の実習を行っている。また、実習先など外部での評価を校内で確認し、職業選択のマッチングに生かしたり、働くことの意識付け、就労への意欲の向上などにつなげている。

(3) キャリア教育充実に向けた事業への参加

① 障害者技能競技大会へ向けた取組及び参加

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構が主催するアビリンピックへ参加し、日頃の学習活動で身につけた清掃作業・接客のスキルを競い合い、入賞を目指している。

② 高知県特別支援学校技能検定へ向けた取組及び参加

清掃や接客のスキルを1～10級で評価する検定へ参加し、多くの1級取得者を出している。

3 取組の成果

上記のような取組により、職業自立という目的をもって学習活動を行うことができ、近年、卒業生は一般企業への高い就職率を達成する事ができている。

【卒業生の就職率（就労継続支援A型事業所含む）：平成27年度 90% 平成28年度 93.3% 平成29年度 88.9%】

<福岡県>（種別：教育委員会）古賀市教育委員会

推薦理由

- ・古賀市中学生職業体験学習「ドリームステージ」実施要項に基づき、市教委を事務局とした実行委員会を組織し、市内事業所や市商工会の協力を得て、事務局にて職業体験受入協力事業所を確保し、市内中学校と連携を図りながら、5日間の職業体験を実施している。
- ・本事業は平成20年から始めており、今年度で11年目となる。ここ3年間の協力事業所は毎年140事業所を超えている。（H28・・・140事業所、H29・・・144事業所、H30・・・140事業所）
- ・中学生は、5日間の職業体験を通して、普段は表から見えない、目立たない仕事が会社を支える役割の重要性や気配りの大切さ、仕事に対する姿勢や信念など、望ましい職業観・勤労観を育む貴重な学びを得ることができている。
- ・市内全小学校5年生と中学校2年生を対象に、市費にて講師を招聘し、キャリア教育の一環として教育課程に位置付け、接遇マナー研修を実施している。中学校2年生は、職業体験学習を実施する1週間前に接遇マナー研修を受講する。（講師謝礼の予算化については、中学校分は平成21年度から、小学校分は平成24年度から行っている。）中学生にとっては、学んだ内容（社会人として必要な挨拶や言葉遣い、コミュニケーション能力等）を職業体験学習ですぐに実践し、事業所より直接評価を得ることができる実践型の学びとなっている。また、小学校・中学校で発達段階に応じた接遇マナーを学ぶことで、系統的なキャリア発達を促す能力・態度の育成も図ることができている。
- ・年4回開催する実行委員会を通して、計画－実践－評価を行うことで、事業の内容充実を図っている。実践と評価のまとめとして、毎年、職業体験実施後に報告書（冊子）を作成している。

<福岡県>（種別：学校）朝倉市立南陵中学校

推薦理由

生徒一人一人の社会的、職業的自立に向け、3年間を通して、基礎的、汎用的能力の育成を目指し、全教育活動の中でさまざまな活動を行っている。特に以下のような特徴的な取組を行っている。

① 郷土愛を深めるための1年生GLOBAL活動「地域文化活動」（総合的な学習の時間）

7月中旬から学年末にかけて、地域文化である「和太鼓」「獅子舞」「民話と方言」「能楽」の中から選択

し、地域文化推進委員からそれぞれの文化を学ぶ活動を行っている。学年末には地域、保護者、小学6年生を対象に、「地域文化発表会」を開催し、活動の成果を発表している。

② 中1、中3を対象とした「夢デザイン講座」

さまざまな職種（プロスポーツ選手や医師など）で働いている方を講師として招聘し、仕事に対する思いや願い、人生の考えなどを話していただき、生徒の職業観を育成する活動を行っている。

③ 「アクティブファイル」の作成

3年間を通して、系統的なキャリア教育を推進するため、ポートフォリオ評価を実施し、自己の変化をセルフモニタリングできるようにしている。

<福岡県> (種別：学校) みやま市立東山中学校

推薦理由

○ 取組

平成29年度から本年度までの2年間、進路実現に向けた進路指導の在り方について研究を行い実践している。研究主題は「進路実現に向けて目標をもち、主題的に学ぶ生徒の育成」、副主題は「裾野教育の視点を生かした学習過程の工夫を通して」である。裾野教育とは「知恵」「社会性」「健康」を内容とし「挑戦力」を位置づけたみやま市の風土を生かした教育のことである。

○ 具体的説明

福岡県みやま市の研究指定・委嘱校として平成30年10月5日に研究発表会を行い、授業公開をはじめ進路実現に向けた日常の取組を発表した。内容は以下の通りである。

- ・ 1単位時間の学習過程の工夫
めあて→見通し→個の学び→協働の学び→振り返りの過程を授業に位置づけ、気づきや深まりをキーワードとした授業を展開する。
- ・ 単元レベルの学習過程の工夫
単元の第1次で単元の見通しを持たせ、第2次では、個の学び、協働の学びを繰り返し、第3次の振り返りでは達成感や感動を共有させる単元構成である。次の単元への目標設定を行い、単元のつながりを意識させる。
- ・ 教科領域を関連させたユニット単元の工夫
キャリア教育ユニットとして各教科、道徳科、特別活動等を関連させたカリキュラムを組み、主体的に活動する生徒を育成する。学年及び学校全体の取組についてユニット単元を作成し実践している。
- ・ 東山中ドリームノート（家庭学習ノート）による将来の見通しを持った学習
将来の夢の実現に向けて、見通しを持って学習に取り組む生徒を育てるために教師、生徒会、保護者が一体となって取り組む家庭学習ノートを作成する。個々がキャリアプランニングを立て家庭学習に取り組んでいる。
- ・ 小中9ヶ年で育てる進路実現に向けた取組
2小学校、1中学校からなる東山中学校区の小中連携において、授業交流を柱として9ヶ年で育てる子どもの姿を明らかにする。

<福岡県> (種別：団体) 福岡県立三井高等学校PTA

推薦理由

福岡県立三井高等学校PTAは、教職員と密に連携しながら地域社会に有為な人材を育成することを目標として、生徒を中心に据えた様々な特色のある教育活動に積極的に取り組んでいる。

キャリア教育や進路指導に関わっては、30年以上にわたり進路指導部やPTAのOBによる後援会組織と連携して、「進路相談会」の準備や運営に携わったり、3年生を対象とした「模擬面接指導」を行ったりしている。

特に、6月に実施する模擬面接指導においては、生徒のほとんどが進学・就職をする際に面接試験を受けることから、「PTA進路対策委員会」の保護者が中心となって、面接指導における面接官の役割を担っている。

模擬面接指導は、生徒の希望進路によって進学・就職に分かれ、各分科会は保護者の面接官2名と教師1名に

よって集団面接形式で行われる。例年20名程度の保護者が面接官として関わり、質問は基本的に保護者が行い、面接後は、生徒に対して面接時の所作や服装・態度、質問に対する受け答え方等について助言を行っている。

本取組の意義として、以下の三点が挙げられる。

- (1) 保護者の中には、企業の総務や人事担当者、大学教授も面接官として参加しており、企業や大学が求める人材像を踏まえた受け答え方等について、それぞれの視点からの鋭い指摘もあり、以後の面接指導においては教職員が指摘された点を重点的に指導できるというメリットがある。
- (2) 生徒は教師以外の大人から指導・助言を受けることで、普段よりも緊張感をもって面接に臨むことができ、早い時期から面接試験に対する意識を高めることができる。さらには、学校生活における所作や挨拶、受け答え方等のコミュニケーション能力を高めることが期待できる。
- (3) 保護者は、面接官の経験を通して、子どもが進学・就職をするまでに高めておきたい適性や能力を認識することができ、家庭における進路実現に向けた取組につながるという効果が期待できる。

以上のように、教職員と保護者が連携・協力して、生徒一人一人の進路希望に応じたキャリア教育・進路指導を展開し、希望進路の実現に大きな成果を上げていることから、福岡県立三井高等学校PTAを推薦する。

<福岡県> (種別：団体) 福津市立神興東小学校PTA

推薦理由

平成11年より、PTA主体で始めた5、6年生希望児童への職場体験学習が、今年度で20年目を迎えた。

1. **目的**：働くことの尊さがわかり、進んで働く子どもが育つ家庭づくり
子ども達が労働の体験をすることで、勤労の大切さを学び、人との関わりを通して感謝の気持ちを持ちながら、地域で自分の力を発揮できる環境を作ること。
2. **これまでの歴史**：平成11年から、PTA本部役員を中心に始まったインターンシップ事業（職場体験学習）である。当初は、学校からも教務主任がオブザーバーとして、この事業に関わっていた。回を重ねるにつれ、PTAの単独事業として活動するにいたっている。現在は、PTAインターンシップ委員会を設けており、その委員会を中心に行っている。
3. **内容**
 - ① PTAインターンシップ委員会は、事業所に職場体験受け入れ協力依頼状を渡し、受け入れ事業所を決定する。
 - ② 参加希望児童に希望職種のアンケートを採り、各事業所へ参加児童を振り分ける。
 - ③ 保護者説明会、児童説明会をそれぞれ行い、事業所ごとに連絡係等の各担当を決める。
 - ④ 事前に受け入れ事業所に児童と保護者で挨拶に行く。その際に誓約書と事前連絡票を事業所に渡す。
 - ⑤ 2日間の職場体験学習を行う。校区外の事業所へは保護者が責任を持って送迎する。最終日には、保護者の代表が挨拶に行く。
 - ⑥ 活動後は、児童には事業所へお礼の手紙を書かせるとともに、体験後アンケートを採り、また保護者と各事業所には実施後アンケートを採って、取り組みについて評価・分析を行って、次年度以降の取り組み改善につなげていく。

4. 推薦理由

家庭教育の向上を目的としたPTA単独事業として非常に価値ある取組である。

- ・事前の児童説明会、保護者説明会も昼休みを使い、PTAが自立してやっている。
- ・我が子を伴って誓約書を持たせ、保護者一人一人が責任をもって事前挨拶にいっている。
- ・学校のカリキュラムではなく、家庭教育の向上をねらってPTAが主催である。

本校は平成19年度からコミュニティ・スクールの指定を受け、地域の母体である「郷づくり」と連携・協働システムを構築している。そのため、児童は小さい頃から地域の方に見守られ、育まれてきた。「福津市のめざす子ども像」である『夢や希望をもち、健やかに育つ子ども』、「神興東小学校の学校教育目標」である『ふるさとを愛し、共に生き抜く「けやきっ子」の育成』のために、このインターンシップ事業は、小学校高学年になった児童が社会に目を向け、人との関わりを通して、自分を発揮する場として職場学習を行うことができるという意味で大変意義深い。保護者アンケートでは、家での手伝いを積極的にしてくれるようになった、感謝の気持ちを素直に言えるようになったという回答が多く、事業所からも職場・職業を知ってもらいたい機会であり、地域で未来

を担う若者を育てているという責任と誇りをもって行っているという意見をいただいている。

以上の理由から、神興東小学校PTAの「子どもインターンシップ事業」を強く推薦する。

<佐賀県> (種別：学校) 武雄市立山内中学校

推薦理由

当該校は、生徒が社会に出た時に必要な基盤となる能力や態度の一つとして、社会人としてのマナーや心構え、頑張り抜く姿勢を一貫して指導していく「生き方指導」を推進している。

これを土台に、生徒の意識の変容を図り、生徒が自らを律し、夢や希望をもって自己実現ができるようにするために、以下の取組を通して具体的に育成したい生徒の姿を目標にしてキャリア教育を推進している。

【①礼節を重んじる生徒の育成を土台にしたキャリア教育】

- ・校区内の幼稚園、保育園、小学校と共通して取り組む「立腰」指導により、生徒の集中力、学習意欲の向上を図り、自己を振り返る時間を確保することで、社会人としてのマナーや心構え、頑張りぬく姿勢を養う指導を系統的に続けている。
- ・特にマナーにあっては、職場見学や職場体験活動、高等学校入学選抜に係る面接、就職等を踏まえ、教職員や地域の方々の力を借りて、マナー検定・掃除検定により育成を図り、生徒をより一歩大人に近づけることを目指し、社会における生きてはたらく力として育成している。
- ・生徒会が主体的に、「立ち止まって元気よく挨拶する」「時間をみて3分前行動をする」「無言掃除を徹底する」などの目標を立て、節度ある学校生活にするための活動に取り組んでいる。

【②生徒の発達段階に応じた系統的なキャリア教育】

- ・学校教育と社会との円滑な接続を図るため、各学年の発達段階に応じた学びを地域との連携に位置付け、講話や体験活動を通してキャリア教育を推進している。
- ・第1学年においては、「地域の職業人に学ぶ生き方（人の生き方に学ぶ）」と題した講話を実施したり、総合的な学習の時間「郷土を知る」と連携させ調査活動や発表活動を行ったりすることで、地域を誇りに思う気持ちを育て、第2学年の職場見学や職場体験活動へつなげている。
- ・第2学年においては、礼節を重んじる教育を土台にししながら、職場見学、教職員が試験官となるマナー検定、地域の方々が試験官となるマナー検定、掃除検定、職場体験活動、活動の振り返り、文化学習発表と、生徒が段階的に「職業」や「勤労」について考え、学んでいけるよう職場体験活動を軸にカリキュラムが実施されている。
- ・第3学年においては、命の大切さを取り扱った生き方講話を聴いたり、赤ちゃんを育てている方との交流を通じた道徳の学習や「花いっぱい運動」で校内美化に取り組んだりすることを通して、人を思いやる心や、ものを慈しむ心を育てる情操教育と併せ、自己の生き方を考えさせる取組が取り入れられている。

【③コミュニティースクールの実施により、地域の支援と協力のもと連携して取り組むキャリア教育】

- ・地域との連携をより密にして、地域に根差した生徒の育成を推進するとともに、生徒一人一人に役割と出番を与え、創造的・組織的な学校づくりを目指して取り組んでいる。

《具体的な取組を通して育成したい生徒》

- ・立腰教育及び講話等を通して、社会人として必要な資質や、生徒一人一人のマナー（挨拶、礼儀、態度、応対、服装、言葉遣い）習得などの発達を支援し、自らを律することができる生徒
- ・職場見学及び職業講話等を通して、働くことへの関心・意欲の高揚と、学習意欲の向上の相互を関連付け、将来への希望や見通しをもった生徒
- ・ふるさとを学ぶ学習、地域の産業についての学習、職場見学や職場体験活動等を通して、地域への理解、職業に対する考えと職業観・勤労観を備えた生徒
- ・職場見学、職場体験活動等を通して、自己の将来の生き方を考え、働くことへの関心・意欲を高め、社会人となるための自立意識の涵養と豊かな人間性をもった生徒

このように、礼節を重んじる教育を土台にし、地域と学校が一体となった創造的・組織的な学校づくりの中で、生徒の発達段階に応じた系統的なキャリア教育を計画的に推進していることから、当該校をキャリア教育優良学校として、文部科学大臣表彰に推薦する。

<佐賀県> (種別：学校) 佐賀県立唐津商業高等学校 定時制課程

推薦理由

当該校定時制課程は、多くの生徒が昼間アルバイトをした後登校し、夜間に授業を受けている。小学校や中学校で不登校を経験したり、全日制高校に馴染めなかったりした経験をもつなど、多様な経験をもつ生徒が在籍する。就職や進学に向けての進路意識をもっているものの、目標達成へ向けてなかなか前へ踏み出せない生徒も少なくない。

当該校定時制課程のキャリア教育では、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤である豊かな人間性と健全な職業観・勤労観の育成を目標としている。

豊かな人間性の育成に向けては、社会性と自己理解力を高めることを重視している。10月の生活体験発表会を軸として、自己を振り返る機会を計画的に取り入れている。まず、6月から、自己の生活や家庭、友人関係を文章で表現する「作文マラソン」に取り組みせ、これまでの自己を振り返らせる。その後、10月の生活体験発表会までに、作文を発表させたり、聞き合ったりする中で、学年の枠を超えて他者の考え方や価値観に触れさせ、自己理解力を高めていく。12月には1年間の学びを振り返ることで次年度の成長や取組へとつなげていく。生徒の書く作文は、自己評価や教師が生徒の変化や成長を支援、指導するための学習成果物として位置付け、4年間を通じて、様々な場面で活用している。

健全な職業観・勤労観の育成に向けて、ハローワークと連携してアルバイト就業を推進するとともに、外部講師を招聘した進路講演会を行うなど、外部機関との連携を図っている。アルバイト就業では、学校との両立や安定した就業に向けて、就労形態の確認を行うなど担任教師と事業所とで当該生徒の情報を共有し、指導、支援に生かしている。また、未就業生徒に対して、インターンシップを希望制で導入している。進路講演会では、就業の選択肢を広げ、将来を見通した自己の在り方を考えさせることを目的としており、社会の勤労実態や働く人の権利を学ぶ講座やLHRなどを計画的に設定している。その際、生徒の進路希望調査や感想、受講の様子を個々の指導計画やキャリアカウンセリングに生かしている。

上記のような取組を年間を通じて実践しながら、生徒の社会的・職業的自立に向けて、各学年の段階に応じた系統的なカリキュラムを立てている。

以下は各学年の主な目標や取組内容である。

【1年生】

基本的なあいさつができるようになるなど、社会性を身に付ける。

基本的な生活習慣確立後にアルバイトなどの就業を開始する。

【2年生】

起床就寝・就労・学校・食生活などの基本的な生活習慣を確立する。

学校行事や学外行事を通じて自己の役割を理解し、最後までやり遂げる責任感など自己理解・自己管理能力を高める。また、周囲との意思疎通を図りながら協力・協働することで人間関係形成・社会形成能力を高める。

【3年生】

進学、就職希望先を担任・進路部に相談する。

資格取得、情報収集、面接練習などの受験準備を通じて、就職や進学への意識を高める。

【4年生】

補習や面接練習などの受験準備を通じて、就職や進学への意識を高める。

就職内定を得た仕事を円滑に遂行するため技術や知識を高めるなど、就職に向けた準備に取り組む。

このように、定時制課程ならではの課題に組織的に向き合い、アルバイト就業の推進等、生徒個人個人の課題に対応した教育を計画的に進め、生徒の社会的、職業的自立につなげていることから、当該校をキャリア教育優良学校として、文部科学大臣表彰に推薦する。

<長崎県> (種別：学校) 長崎県立宇久高等学校

推薦理由

高校のある宇久島にスポットライトを当てた探究活動「Uku Labo」に取り組んでいる。

① 1年次：Digital Museum作成

Google のストリートビュー機能が宇久島には提供されていないため、生徒自らの手で作成。この活動では宇久小・宇久中とコンソーシアムを作り、共同研究を行っている。

また、島の地理・自然を活かした科学的探究活動も行っており、昨年度は、高校・高専「気象観測機器コンテスト」において、審査員特別賞を受賞。発表生徒は副賞として今年7月に1週間のアメリカ研修に参加した。また、「離岸流」の研究では、高文連主催自然科学部門科学研究発表大会の九州大会において優良賞を受賞した。

② 2年次：地産食品開発

地元漁協の依頼を受け、水揚げされても市場に出回らないガンガゼ（ウニの一種）を使った魚醤油作りに挑戦し、商品化に成功した。この結果を受け、今年度からは、漁協でも製造販売を始めた。また、新たな依頼を受け、魚醤油を使った商品作りに挑戦している。

その他、地元食材を活かした食品開発を行い、島の「産業祭り」で販売し好評を得ている。地元のお弁当屋が食材として採用したものもある。

この活動は、福知山公立大学主催「2018田舎力甲子園」において優秀賞（第2位）を受賞した。

③ 3年次：Coming Generation Plan（次世代を担う高校生による島活性化プラン）

今年度は、高校の活動に関心を持った社団法人からの企画提案により、観光雑誌の「宇久島」特集記事（10ページ）の企画・取材・執筆・デザインのすべてを高校生で行うという活動を行っている。宇久島の魅力を再発見するとともに、生徒たちは発信する喜びを感じている。雑誌の発行は11月の予定である。

これらの活動については、島の小中学生をはじめ多くの島民に対して成果発表を行っている。また、小中学校への出前授業や体験授業においては、高校生が児童生徒の指導を行うなど、地域への還元も熱心に行っている。

<長崎県>（種別：学校）長崎県立五島高等学校

推薦理由

五島市が抱える人口減少、少子高齢化、若年層の人口流出等の諸問題を解決するため、グローバルな視点を持ち、ローカルに活躍する人材を育成するという「GOTO グローカル」構想をもとに、平成28年度から「バラモンプラン」と称したキャリア教育を行っている。目的は、社会人として必要な資質を育成するとともに進路を実現をするものである。新しいキャリア教育は社会的貢献をとおした地域の活性化が重要であると考え、以下の取組を体系的に実践している。また、「バラモンプラン」に関する取組以外でも、各種ボランティア活動等に取り組む姿勢が定着している。

○ 総合的な学習の時間「バラモンプラン」

<1年次 自分を知る、職業・地域を知る>

- ・官民学が連携し、五島市の未来について知恵を絞りあって、集約し、共有するワークショップ（五島ミライシティ）を開催。（H28）
- ・バラモンプラン講演会では、島内外から様々な分野の講師を招いて講演会を実施。地域との協働を目的に地域へ開放する講座とした。（H29）
- ・財務省主催の教育プログラムで国家予算の模擬編成を行い、日本の現状を知るとともに五島市の財政を学んだ。（H29）

<2年次 地域の課題に挑戦する>

- ・市長模擬選挙を実施し、選挙公報に地域課題と解決案をまとめた。（H28）
- ・バラモンフォーラムでは、NIEの実践指定校として新聞を活用し、班別に地域の課題分析と改善について、地域の専門家と意見交換を行った。（H29）

<3年次 課外活動等をとおし社会的貢献に挑戦する>

- ・自己推薦書の作成やディベートなど自分が希望する進路と合わせた地域探究を行った。

<全学年 バラモンプラス>

- ・地元住民、移住者、高校生が協力し、「1日レストラン」を開催。開発した五島ピザを振舞った。他にもこども大学、ベンチ塗りWS、石田城周辺街路デザインWS等、様々な課外活動へ参加・協力を行った。

○ 定着しているボランティア・地域行事への参加

- ・小学校ボランティア事業では、3年生で進路決定した者が、出身小学校で教員の助手を行っている。

- ・国際トライアスロン大会のボランティアとして例年約170名参加し、大会を支えている。
- ・福江みなとまつりでは、生徒・保護者・教職員が協働し「ねぶた」を補修するなど一体となり参加している。

＜長崎県＞（種別：学校）長崎県立諫早農業高等学校

推薦理由

地域活性化を目標とした様々なキャリア教育に取り組んでいる。

1 地域の農業後継者育成の取組

自営者養成学科（農業科学科・動物科学科・バイオ園芸科）では、農業後継者養成に取り組んでいる。平成29年度は、動物科学科の非農家出身の女子生徒3名が学習する過程で養豚に興味を持ち、五島市で養豚業の農業法人「草野ファーム」に雇用就農した。また、平成24年より「諫農担い手育成塾」を立ち上げ、地元で就農を志す生徒を対象に県内農家や農業施設の視察研修等の講座を年間11回行い、地域農林業を支える人材を多く輩出している。

2 県の特産品を活用し地元企業と連携した新商品開発

長崎県は枇杷の生産量全国1位である。しかし規格外品としてハウス枇杷では約20%、露地枇杷では約50%処分される。食品科学科では、県内枇杷生産者より規格外品を有効利用する方法の検討依頼を受け、長崎県のお土産の定番「カステラ」への利用を研究した。地元製菓業者と連携して「びわかステラ」の商品化に成功し、1ヶ月に500本の売上を達成する人気商品となった。

この活動は、第8回高校生バイオサミットで経済産業大臣賞を受賞した。また、平成30年度第61回九州学校農業クラブ連盟発表大会「区分Ⅱ類」で最優秀賞を受賞し、10月に鹿児島県で開催される全国大会への出場権を得た。

3 環境問題に配慮しながら地元伝統文化を継承する取組

食品科学科では、県内産カボチャのつるを材料にした「手すき和紙」の研究活動に取り組んでいる。カボチャを収穫後に廃棄されるつるを再利用し、諫早市高来町の伝統和紙「湯江紙」の製造技術を地元職人より習い製造し、その後地元の障がい者施設へ技術や工程を継承し商品化が決定した。

この活動は、平成30年度第61回九州学校農業クラブ連盟発表大会「区分Ⅲ類」で最優秀賞を受賞し、10月に鹿児島県で開催される全国大会への出場権を得た。

4 商店街を拠点とした馬鈴薯のプランター栽培イベントへの協力

地元アーケードの中で馬鈴薯の優良種をプランター栽培（定植・管理・収穫・調理）して農業の魅力を発信する企画である。各学科の生徒が主体となって、農家や県農林試験場のアドバイスを受けながら栽培協力をしている。生徒は学んだ知識・技術を発揮して、木製プランターの製作、栽培管理、調理実習等を見学等と行い、農業の魅力を諫早市内や県内に向けて発信している。

これらの活動については、学校が所在する地域をはじめ多くの県民に対して成果発表を行っている。また、地域商店街と連携して実習生産物の販売会を行うなど、地域への還元を熱心に行い、「ふるさと教育」に力を入れている。

＜熊本県＞（種別：学校）熊本大学教育学部附属特別支援学校

推薦理由

熊本大学教育学部附属特別支援学校では、児童・生徒の「夢・希望」をかなえる学校を目指し、「卒業のない学校」として、卒業後のフォローアップを含む一貫したキャリア発達支援・キャリア教育に取り組んでいる。その推進に当たっては、本校職員の他、労働、福祉等外部機関の専門家等を含めた就労支援チームを組織し、①大学（教育学部）や医療・労働・福祉等の関連機関との連携による本校の児童・生徒に対する進路指導・就労支援体制の充実、②熊本県内の進路・就労支援に関するセンター的機能の強化、③本校における進路指導・就労支援の先導的な取組を熊本県下の小・中・高等学校や特別支援学校における特別支援教育に活かす研修会の充実などに取り組んでいる。

この内、①の「進路指導・就労支援体制の充実」に関して、次のことに取り組んでいる。

○ 生徒の夢を実現するキャリア教育の実践

生徒一人一人の希望や適性に応じて進路選択ができるよう、就労支援チームのネットワークを生かし、幅広い職種での職場見学や職場体験、現場実習などを実施している。また、職場開拓についても本校独自で配置している就職支援コーディネーターを中心として関係機関と連携を図るとともに、ジョブコーチの資格を持つ専門教諭による職業指導・就労支援も行っている。

○ 「卒業のない学校」の具現化

本校の同窓会とも連携し、卒業後3年目、6年目、10年目の卒業生を対象とする「フォローアップミーティング」を行い、卒業式はあっても「卒業のない学校」を具現化する継続的な就労支援、生活相談を実施している。

○ 社会の要請に対応したキャリア教育

キャリア教育の推進に当たっては、知的障がい者を雇用する企業へアンケート調査を行うなどして社会が求める「学校教育終了時まで身に付けておくことが望ましい資質」を把握し、それらを小学部入学から高等部卒業までの12年間で系統的・発展的に身につけることができるよう改善を図っている。

<宮崎県> (種別：教育委員会) 日向市教育委員会

推薦理由

日向市では「元気な日向市 未来創造戦略」という地方創生戦略を策定し、その中で「ふるさとを愛し日向の未来を支える人材の育成」を位置付け、「よのなか教室」を核としたキャリア教育支援事業の推進を明示している。日向市教育委員会では、キャリア教育をまちぐるみで進めるため、平成25年に日向商工会議所内に開所した「キャリア教育支援センター」と連携を図りながら、学校だけでなく企業や行政、地域などを巻き込み、産官学をあげてキャリア教育の推進を図っている。

1 キャリア教育推進の基盤づくり

(1) キャリア教育推進懇話会

年2回定期開催されている懇話会では、産業界（工業会、農林水産の各組合、建設業協会、商店会、医療福祉団体など）、行政、県立高等学校も含めた学校の代表が集い、産官学をあげて、キャリア教育に関する課題の研究・協議を重ねてきた。また、本懇話会では「将来どう生きるかを考えさせる機会を増やしたい」「学ぶ意欲を高め、学力向上を図りたい」「子供たちが日向に喜んで住み続けたいと思う街にしたい」という本市のキャリア教育の方向性を決定し、定期的に確認しつつ、社会の情勢や地域の状況を踏まえた意見交換等も行っている。

(2) センター会議

日向市教育委員会の指導主事は、キャリア教育支援センターのコーディネーター及び日向商工会議所の代表等とともに、月2回、センター会議を実施するなどして、キャリア教育支援センターと常に連携している。センター会議では、本市のキャリア教育の現状等についての情報交換、「よのなか教室」の実施状況の確認、研修の企画立案、課題についての協議等を行っている。

2 キャリア教育推進のための教職員等の研修

(1) キャリア教育担当者会の実施

市内小中学校のキャリア教育担当者が一堂に会し、本市が進めるキャリア教育について理解を深め、各学校の取組や意見を交換し、キャリア教育の推進を図るためのキャリア教育担当者会を年2回実施している。

(2) 新赴任教職員歓迎研修会の実施

キャリア教育支援センターとともに、本市に初めて赴任した教職員に対して、市長も講師に招き、本市のキャリア教育についての理解を深める研修会を実施している。本研修会では、本市のキャリア教育についての概要説明、学校や企業の実践報告だけでなく、テーマを設けて「よのなか先生」との協議も行っている。

3 各学校におけるキャリア教育推進

(1) よのなか教室の活用

「各学校におけるキャリア教育」の中核は「よのなか教室」である。「よのなか教室」とは、地域で働く大人が「よのなか先生」として子供たちにこれまでの成功談や失敗談など、働く喜びや苦労を本気で語りかける授業のことである。市内小中学校においては、総合的な学習の時間や道徳の時間、学級活動や教科等の関連的な学習の時間等において「よのなか先生」による「よのなか教室」を活用しながら、学校の特色をい

かしたキャリア教育を行っている。

(2) 地元企業による出前授業の実施

地元企業の業務内容や技術等、社会貢献の一端についての理解を深めることなどをねらいとして、市内すべての小中学校において、企業等による出前授業を実施している。出前授業の充実のために、年1回、「企業等による出前授業の推進会議」を実施し、企業の活動報告や次年度の出前授業の授業内容についての協議等を行っている。

<宮崎県> (種別：学校) 宮崎県立延岡商業高等学校

推薦理由

1 「電子商取引（延商まなびや）」について

「延商まなびや」とは、本県初となる高校生が運営するオンラインショッピングモールであり、当該校の3年生が企業からのWebページの作成依頼を受けて、打合せを重ねながらWebページを作成し、商品を販売している。

本年度は、「延商まなびや」への企業出店説明会を開催し、社長・副社長・マーケティング部長・広報部長・IT部長及び営業スタッフ(全て生徒)が、プレゼンテーションや企業別説明、加入を検討する企業との個別打ち合わせなどを実施した。

ネット上だけではなく、取扱商品を、大型商業施設や道の駅、市の協力を得て「まつりのべおか」での商品販売により取扱商品と「まなびや」のPRに取り組んでいる。

本取組により、生徒は、将来社会人として必要とされるビジネスマナーや大人との交渉や売上アップや販路拡大に必要となるコミュニケーション力やプレゼンテーション力、仕事への責任感を身につけている。さらに、出店企業とのコラボ商品開発では、企画力や提案力も身につけている。

2 チャレンジ・ショップ「和」について

「和(なごみ)」は平成14年度より、起業家マインドの育成を目指した実践的・体験的な学習の場として、地元商店街の空き店舗を活用して生徒が経営するチャレンジショップである。

※営業期間：約3か月(9～12月)

営業日：毎週火・金曜日(14:00～16:30)

本取組は、商店街活性化に寄与しているため、地元商店街・商工会議所・行政機関等の積極的な協力を得て実施されている。

生徒は、仕入計画、販売計画や店舗設計の立案や仕入先との交渉等も経験しながら経営スキルを身につけていく。

本年度も「安心・安全」をテーマに、県内外の高校生が開発・生産した製品を中心に品ぞろえを特徴とした販売戦略を展開するとともに、新たに2社の地元企業と開発した新商品を加えて販売する。

3 販売実習(桜マーケット)について

桜マーケットは、「おもてなしの心」「実践力」「戦略的思考」を育むことを目指して校内で実施する販売実習である。

「お客様にハピネス(ワクワク、ドキドキ)を届けよう」をテーマにお客様の心に残る体験を提供できるよう、生徒と教員が一体となって、接客方法や売場の統一感、企画等の工夫に取り組んでいる。

1年生は本校OB・OG協賛企業と協働した販売実習、2年生は仕入計画・販売・売上報告書の作成、3年生は販売実習及びおもてなし活動など学年に応じた実習内容により生徒のスキルを向上させている。

<宮崎県> (種別：学校) 宮崎県立福島高等学校

推薦理由

1 学校設定教科「地域創生学」

当該校では、串間市とともに「キャリア教育」を中心とした、小中高一貫教育を推進しており、市内の小中学校で取り組まれている地域学習「くしま学」で培った知識を基に、さらに発展させた「地域創生学」に取り組んでいる。

市役所や地元企業、大学等と連携し、地域の課題解決に向けた探究型の教育プログラムの開発と充実に取り組んでおり、地域創生学の学びをきっかけに、生徒の地域への愛着や誇りが育まれている。

【主な取組】

- ① 地域と協働した商品開発
行政、地元企業、大学等の協力により、地域の特産物を生かした新商品の開発やマーケティング等に取り組む。
- ② 地域の課題解決に向けた探究活動
市の課題を市役所の担当部署から聞き取り調査した上で、フィールドワークなどの調査研究を経て、政策提言を地域に発信する。
- ③ 地域創生学発表会の実施
ポスターセッションやプレゼンテーション等により、課題解決に向けた政策提言を地域に発信する。
- ④ 地域の防災リーダー育成のための実践的な学習
串間市と締結した災害協定に基づき、防災リーダー育成のための講話・研修、防災士資格の取得の推進、防災設備の作成等に取り組む。

2 地元企業へのインターンシップの実施

1年次に地元企業との連携により、進路希望に応じた4日間の就業体験を実施している。地域や自分を取り巻く環境の中で働くことの目的を理解し、主体的に行動できる人材を育成している。この就業体験をきっかけに、地元企業への就職を希望する生徒も多く、地域を担う人財育成につながっている。

3 修学旅行における企業訪問の実施

2年次の修学旅行において、自分の興味・関心のある分野や、地域創生学の研究テーマに応じて、東京都内の企業を訪問する。事後学習として、ポスターセッションによる説明や意見交換を実施している。

<鹿児島県> (種別：学校) 肝付町立波野中学校

推薦理由

波野中学校は平成28年度から平成29年度にかけて、大隅地区研究協力校として『「人・自然・文化」との関わりの中で、自立していく生徒の育成～『やりぬく力』『かなえる力』を育成する指導の工夫～』という研究主題のもと、キャリア教育研究を推進してきた。

事前に行ったキャリア教育の基礎的・汎用的能力に関する意識調査の結果と教師の見取りにより、課題対応能力とキャリアプランニング能力の育成が重点課題であることが明らかになった。そこで、課題対応能力を「やりぬく力」、キャリアプランニング能力を「かなえる力」とし、教師と生徒が共有した上で、総合的な学習の時間の体験活動と教科授業の2つの観点で工夫・改善を行った。

1 地域連携による体験活動の工夫

地域の人材や自然を活用した課題解決的な学習において、事前・事後学習を充実させることにより、見通しをもって他者と協力し課題に向かう態度と望ましい職業観・勤労観の育成を図った。

- 1年 宿泊学習でのシーカヤック体験と食生活改善委員指導の魚さばき体験、高齢者体験、高齢者福祉施設への継続的な訪問
- 2年 修学旅行での自主研修
地域おこし協力隊及び農業・漁業従事者による職業講話、農業体験
- 3年 職場体験学習、県立楠隼高校との連携による出前授業

2 キャリア教育の視点に立った授業の工夫

学びの意義を社会とのつながりの中で理解できる授業にすることが、学力向上と生徒の将来の生き方に向けた展望につながると考え、全ての教科で以下の指導過程を取り入れて授業改善を図った。

- (1) 学習課題（めあて）の提示
- (2) 学び合い活動の設定
- (3) 学習を振り返る場面の設定
- (4) 既習事項を活用する場の設定

教育活動全般をキャリア教育の視点を意識して進めることで、生徒に何事も自分たちで作り上げようとする

主体性が見られるようになった。

また、研究授業を通して授業改善を重ねる内に、教師の説明が多かった授業が、ペアやグループ活動を取り入れた生徒が主体的に学ぶ授業へと改善されていった。

今後は小学校と連携した系統的な取組が期待される。

以上のことから、肝付町立波野中学校をキャリア教育優良学校として推薦する。

<鹿児島県> (種別：学校) 与論町立与論中学校

推薦理由

与論中学校は、平成28年度から平成29年度にかけて、大島地区研究協力校として、「未来開拓力を高め、島立ちに向けて挑戦する生徒の育成～自己実現のために必要な基礎的・基本的な能力の育成を通して～」という研究主題のもと、キャリア教育の研究を推進してきた。

「自己実現のために必要な基礎的・基本的な能力を育成することによって、未来開拓力が高まり、島立ちに向けて挑戦する生徒になるのではないか」という研究仮説を設定し、以下のとおり具体的な取組を実践した。

1 キャリア教育の視点に基づいた目指す生徒像の決定

キャリア教育を進める視点を、生徒の実態に合わせて、目指す生徒の姿を再設定した。

- ・「人間関係形成・社会形成能力」→「連携力」
他者の考えや意見に傾聴しつつ、自分の考えや意見を伝えられる生徒
- ・「自己理解・自己管理能力」→「自立力」
基本的な生活・学習習慣を身に付けている生徒
- ・「課題対応能力」→「課題対応力」
生活・学習面の課題を理解し、夢実現のために粘り強く努力する生徒
- ・「キャリアプランニング能力」→「未来開拓力」
島の現状を把握し、与論島の発展と自分の夢の実現を重ねて考える生徒

2 キャリア教育の視点に立った研究授業の実践

各教科において視点を取り込んだ授業を行った。

(国語、社会、英語、保健体育、数学、学活、音楽、総合的な学習の時間で実施)

3 テレビ会議システムを活かしたキャリア教育の実践

「コミュニケーションのスキルアップ」「望ましい人生観・職業観の育成」「課題設定能力」「課題追究能力の向上」「島内には無い職種の仕事内容を知ること」をねらいとし、5種類の職業の方々と交流した。

4 地域と連携した職場体験学習、郷土学習

- (1) 島内21カ所の事業所等と連携して、職場体験学習を実施
- (2) 選択制郷土学習(1年生8講座、2・3年生レポート作成)

5 小中高のキャリア教育の連携強化

島内の3小学校と連携し、小・中学校共通様式である「夢シート」に将来のことについて記入させポートフォリオ化している。また、中高乗り入れ授業等、与論高等学校との連携も推進している。

以上のことから、与論町立与論中学校をキャリア教育優良学校として推薦する

<鹿児島県> (種別：学校) 鹿児島県立隼人工業高等学校

推薦理由

鹿児島県立隼人工業高等学校は、校訓「至誠 自律 友愛」の下、「ものづくり」「キャリアづくり」「ひとづくり」を教育方針の3つの柱として掲げており、「ものづくり」を通したキャリア教育を推進することで、社会の一員として貢献できる実践的な産業人の育成を目指している。

近隣の小・中学校、特別支援学校と連携し、出前授業やものづくり教室等の「ものづくり」の機会を提供し、小・中学校段階から児童生徒や保護者に「ものづくり」への関心を高める取組を行っている。また、学校が所在する鹿児島県霧島市は、「高度技術産業集積地域」として指定され、大手IC関連製造企業等のハイテク企業が数多く進出しているため、地の利を活かした産学連携や、地域にある工業大学とも高大連携に関する協定を結んで

いることなどを活用し、あらゆる機会を捉えた先進的なキャリア教育を実践している。

地域と連携した「ものづくり」を通したキャリア教育を、学校におけるキャリア教育の全体計画や年間指導計画に位置づけ実践することで、基礎的・汎用的能力の育成につながるとともに、地域を愛し大切に思う気持ちが高まり、以前より課題であった就職者の県外流出が減少し、地元への就職者が増加するなどの成果が出ている。

○ 「ものづくり」を通した地域貢献活動によるキャリア教育の推進

1 小・中学校、特別支援学校及び地域（行政、企業、大学等）との連携

(1) 出前授業の実施

地元の中学校にインテリア科の生徒・職員が出向き、知的財産教育に関するものづくり授業を行っている。

(2) 親子ものづくり教育の実施

夏期休業中に地元の小学生とその保護者に対し、親子共同によるものづくり教室を行った。

(3) 依頼に対する作品製作

例年、地元からの依頼に対し、様々なものを製作している。

- ・地元の神宮の祭りで使用する竹灯籠
- ・地元の小学校の理科室で使用するスツール 30 脚
- ・地元のショッピングセンターのクリスマスシールやハロウィン用写真撮影ボードのデザイン
- ・地元の自動車学校に縦 2 m×横 1.3 m の巨大壁画
- ・霧島市が制作した 10 年間の将来像を示す「第二次霧島市総合計画」の冊子の表紙デザイン
- ・JA が開発した商品のラベルデザイン
- ・鹿児島空港ギャラリーでの作品展 等

(4) 地域と協働した活動

霧島市からの依頼を受け、平成 32 年に本県で開催される第 75 回国民体育大会及び第 20 回全国障害者スポーツ大会に向け、開催競技の PR と両大会への市民参加の機運醸成を目的とし、地域の高校、高専、大学と協働して両大会開催日までの「カウントダウンボード」を製作した（平成 29 年度）。さらに、今年度も新たに 2 機を製作予定である。また、地域貢献活動を行う NPO 法人と連携し、「こども食堂」の壁にシンボルマークを描くなどの美術・運営補助をしている。

2 隼工展の実施

例年、生徒が実行委員となり、課題研究や実習で製作した作品を披露する「隼工展」を、地元のショッピングモールで開催している。平成 29 年度で 15 回目を迎えた。

平成 29 年度：2 月 10 日（土）～12 日（月）（3 日間）

○ キャリア教育に関する他の取組

1 キャリアガイダンス等の実施

(1) 教職員による「自分を語る週間」の実施

年度当初に教職員自らが社会人としての経験を語り、生徒の勤労観、職業観を育む週間を設けている。校長は、全体朝礼で、各先生方は、各クラスで授業の始めに話をさせていただくようにしている。

(2) 卒業生講話の実施

実社会で働く卒業生から、働くことの意義や楽しさ、厳しさを学び、職業に対する関心を高め、生徒一人一人のキャリア形成と自己実現を目指すことを目的で実施しており、本年も 2 回に分けて計 3 名の卒業生が講話を行った。

2 キャリア教育講演会の実施

例年、1 年生に対し、外部講師を招聘して、「社会の成り立ち」、「会社の役割」、「個の役割」などについての講演を行い、キャリア形成の一環となる学習としている。

3 インターンシップの実施

インターンシップは、できるだけ就職を希望する企業又は職種で実施できるように工夫しており、2 年生全員が 12 月上旬の 4 日間実施している。事前に、学習会を行い企業及び職種等に関する研究を、事後には、1 年生を対象としたインターンシップ報告会を実施している。

4 隼工業高校版職場見学の実施

地元企業を希望する生徒を対象として、地域の職業安定所と連携し、職場見学を実施している。これによ

り、情報の少ない地元の中・小企業での必要な知識や技能等を具体的に知ることができ、就職ミスマッチによる離職の減少につながっている。

5 PTA 県内企業視察研修会の実施

保護者が実際に県内企業に出向き、実際の職場を見学し雰囲気を感じることで、企業を理解していただくことを目的として、年間1回実施している。

6 各企業見学会、しごとフェア等への積極的な参加

生徒は、鹿児島県や霧島市が実施している企業説明会やしごとフェアに積極的に参加をしている。また、霧島市の企業を見学する機会（霧島しごと発見）に多くの生徒・職員が参加し、企業理解に努めている。

○ 成果

- ・地域と連携した教育活動をキャリア教育の全体計画や年間指導計画に位置付け実施することで、基礎的・汎用的能力の育成につながっている。
- ・地域での体験活動を通して、目的をもって主体的に学習に取り組む意識が高まってきている。
- ・地域の良さを知り、地域を愛し大切に思う気持ちが高まってきている。
- ・鹿児島県の課題でもある就職者の県外流出に対し、学校による地元企業を理解するための様々な取組や地域貢献活動による地域を愛し大切に思う気持ちが高まったことにより、県内就職者更には地元就職者が増加している。

以上のことから、鹿児島県立隼人工業高等学校をキャリア教育優良校として推薦する。

<沖縄県> (種別：教育委員会) 今帰仁村教育委員会

推薦理由

本村は平成24年度より「北山学園プロジェクト(※)」と称し、『「キャリア教育」を核とした保幼小中高の18年間を貫く「地域型一貫教育」』に取り組んでいる。特に、平成27年度より平成29年度までの3年は、沖縄県商工労働部の「地域型就業意識向上支援事業」を受け、取組の広がりや深化が図られた。中心的な取組となる7つの事業を以下に示す。

① 教育ファーム事業 (対象：小学生)

…村内にある宿泊型体験施設を拠点とした「農業・食品加工体験」を実施する

② 県外インターンシップ研修事業 (対象：中学生)

…県外企業や大学・研究機関等へ派遣し、就業意識の向上、夢や目標の構築に繋げる

③ 今帰仁村プロデューサー育成事業 (対象：小中高生)

…地域に根ざしつつ、新たな価値を創り出す“起業家”としての精神を育む

④ スーパー講師招聘事業 (対象：小中高生)

…様々な分野のスーパー講師を招聘し、就業意識の向上を図る

⑤ キャリア教育視察・開拓事業 (対象：教職員)

…村教委と先生方の連携強化を図るとともに、研修先やインターンシップ先の開拓を行う

⑥ 生き方支援元気アップ研修事業 (対象：不登校生等)

…生活体験・就労体験を実施することで、自己成長を促し、学校復帰を目指す

⑦ 「キャリア教育実践発表会」の開催

…本事業の集大成として、小・中・高合同の「キャリア教育」発表会を開催する

この期間、本事業の中心人物として取り組んでいた「キャリア教育コーディネーター」が、今年(平成30年)度より「地域連携コーディネーター」として残り、更なる進化に取り組んでいる。特に、小学校においては「キャリア教育」の視点から「学習意欲を喚起」し、「児童生徒自らが学びたくなる環境づくり」に取り組んでいる。授業と学校行事を連動させ、教室内の学習が、生活に密着し、体験的なものになるように取り組んでいる。昨年(平成29年)度から3、4、5、6年生に対して、「社会科」を中心に「国語」「家庭科」「総合的な学習の時間」「特別活動」等の教科で教科横断的な授業を展開している。今年度はこの流れをより深化させるため、「キャリア・パスポート」の作成に取り組んでいる。

本村が目指すキャリア教育とは、職業教育や進路指導等に限定されるものではない。「学校(教育委員会)、家庭、地域が「児童生徒の10年後の姿」を共に想い描き、その実現のため「授業と社会の繋がり」を意識し、「ストー

リー性を持った教科間の繋がり」を具体的な「地域課題」をもとに紡ぎ出す教育」と捉えている。

<沖縄県> (種別：学校) 嘉手納町立嘉手納中学校

推薦理由

本校は、平成12年度からキャリア教育を学校経営の基本方針に位置づけし、中学2学年を対象に県内初の取組として、職場体験学習「ふれあい・チバリ・ワークデーズ」(5日間)実施、今年度で18年間継続している。

平成30年度も生徒一人一人の社会的・職業的自立を目的に、事前学習(マナー講習等)や事後指導(お礼状や新聞作成等)を積極的に取り入れ、地元企業や自治体、商工会と連携・協力を主体的に図り、組織的・系統的にキャリア教育を推進、体験学習を実践した。

また、嘉手納町商工会や町教育委員会などと連携し、地元企業の理解と協力を得て町ぐるみで生徒たちを育成しようとする状況づくりに力を入れてきた。生徒に地元への理解・愛情・誇りを育む教育を積極的に取り組んでいる。

それから、2年に1度、学校と家庭・地域が連携協力して、重機教室やネイルアート教室などの体験講座や、本校OBによる心のセミナー教室の「日曜学校」(県内初)も実施しており、キャリア教育の充実及びPTAの活性化にも寄与している。

これらの本校の取組は、職場・職業体験学習等で地域の多くの方が積極的に生徒を育てようと関わり、卒業してもなお地域全体で声かけをして生徒を育てる教育環境が整ってきており、地域の団結力や地元を活性化することに繋がっている。地元への理解・愛着・誇りを意識したキャリア教育を組織的・系統的に育成することを長年続けている。

1 具体的取組

- (1) 職場体験学習「ふれあい・チバリ・ワークデーズ」(7月)〈H12年スタート〉・・・県内初
 - ①目標：地域の産業と地域の関わりを学び、働く人々からそれぞれの職場についての話を聞いたり実際に体験することにより望ましい職業観や勤労観を身につける。
 - ②取組：企業への受入れ依頼(2月) 確認(4月) 調査(5月) 打ち合わせ・マナー講習会(6月) 職場体験実施・お礼状作成(7月) 職場体験新聞作成(8・9月)
 - ③内容：琉球コスモセブン、ナカダ自動車、かでな振興株式会社等(49の地元事業所)
 - ④体制：町教育委員、商工会との連携
 - ⑤対象学年：2学年
- (2) 職業体験学習「日曜学校」(2年に1度開催)〈H16年スタート〉・・・県内初
 - ①目標：保護者や地域の方々の協力により職業体験をすることで進路学習につなげる
 - ②取組：職場受入依頼(5月) 生徒希望調査(7月) 事前打ち合わせ(8月) 職場体験実施(9月)
 - ③内容：(体験講座) うちなーぐち教室、警察官体験教室、料理教室等(20教室)
(心のセミナー) 歴代PTA会長 町議員 青年会長など

2 成果

- (1) 事業所や職場で働く人達との交流は、仕事に対する厳しさや責任、働く意義や社会貢献、人間関係の重要性が分かり、将来を展望した目的意識の高揚を図る生徒が多くなった。
- (2) 職業・職場体験学習の地元企業や自治体等の仕事内容を理解することで、本町の良さの発見につながり愛町心も高くなり、地元で働きたいという意識につながった。
- (3) 地元嘉手納町の各事業所や職場等で、多くの地域住民とふれあい、頭を働かせ(ワーク)、一生懸命頑張る(チバル) ことにより嘉手納町を知り(理解)・好きになり(愛着)・誇り(感謝)に思う生徒が増えてきた。

<沖縄県> (種別：学校) 沖縄県立八重山特別支援学校

推薦理由

本校は沖縄県八重山諸島、日本最南端・最西端の特別支援学校である。6年前よりキャリア教育を学校経営の柱に位置づけ実践研究を進めてきた。

1 6年間の実践研究

H25年にキャリア教育の意義を確認し全職員で「推進ツール」の作成に着手した。H27、28年には県教委の研究指定を受けこの「ツール」を活用し指導の改善を図った。終了後もアクティブラーニングの視点で授業改善を行いキャリア教育に関わる基礎的・汎用的能力の育成を目指し実践研究に励んでいる。

2 キャリア教育「推進ツール」の作成・活用

「キャリアプランニングマトリックス」を作成し「育成すべき資質・能力」を明確にした。次に「キャリア教育全体構想図」に取り組み「学校教育目標」「学部目標」「キャリア教育の目標」「育てたい力」「各教科・領域の指導内容」を関連づけた。各学部は「学習プログラムの枠組み」を完成させ授業の手引きとして活用した。

3 地域との連携・協力（「社会に開かれた教育課程」の推進）

① 就業体験

高等部全生徒が地域と繋がり企業・事業所で2週間の実習を行っている。報告会には保護者や地域からも参加し社会人としての意識・意欲の向上に役立っている。中学部は校内の会社「八特コーポレーション」を立ち上げ、野菜、木工品、お菓子等を生産・販売し、就労意欲を高め高等部に繋ぐ指導に力を入れている。

② 地域との連携・協力（「社会に開かれた教育課程」の推進）

(1) 「島」最大のイベント石垣島祭りでは作品を展示、販売。野菜や草花の苗は大人気で地域の緑化にも貢献し本校や特別支援教育の啓発にも繋がっている。

(2) 本校の位置する宮良地区では「地域に感謝！大感謝祭」を開催。公民館で販売学習を行い地域住民と触れあいお年寄りにも喜ばれている。

(3) 夏季体験教室

作業学習の内容（園芸、木工、陶芸、調理、洗車）を高等部生徒が指導者になり地域の小学生に教える学習活動である。コミュニケーション力、指導力、問題解決能力を向上させ貢献感を培っている。

(4) 地元新聞を活用した理解啓発（打って出る八特！）

これらの活動は新学習指導要領の鍵である①育成を目指す資質能力②社会に開かれた教育課程③主体的対話的で深い学び④カリキュラムマネジメントの先駆けとして新学習指導要領に繋がる貴重なキャリア教育の研究実践である。

<沖縄県>（種別：団体）沖縄県嘉手納町立嘉手納中学校PTA

推薦理由

本校PTAは、2年に1度、学校と家庭・地域が連携協力して、重機教室やネイルアート教室などの体験講座や、本校OBによる心のセミナー教室の「日曜学校」（県内初）を実施しており、キャリア教育の充実及びPTAの活性化にも寄与している。特に、PTAである保護者が、地元企業への依頼、事前打ち合わせ、準備、当日の講師、案内、運営など、PTA会長を中心とした組織で、「子ども夢や希望を持たせるキャリア教育の一助にする」と継続実施してきた。

この日曜学校の取組は、平成16年度から県内初として、1年生から3年生の生徒が希望した講座で職業体験を重視した内容で、他学年の交流学习の場にもなっている。学校内での職業体験教室等で地域の多くの方が積極的に生徒を育てようと関わり、卒業してもなお地域全体で声かけをして生徒を育てる教育環境が整ってきており、地元への理解・愛着・誇りを意識したキャリア教育を組織的・系統的に育成することを長年続けている。

また、心のセミナー教室は、PTA会長や地域の方々が、「何のために勉強をするのか」「生きる力・豊かな心」など、卒業生、地域人材を活用し、学校生活や学校と将来の職業とのつながるような進路学習を各学級に入って講話を実践している。これらのPTAの考えに合わせ工夫した「ふれあいチバリ・ワーク・デーズ」の素晴らしい取組は、保護者・地域の団結力や地元を活性化することに繋がっている。

今年度の「第7回日曜学校」は、9月2日（月）に実施した。

1 具体的取組

(1) 職業体験学習「日曜学校」（2年に1度開催）(H16年スタート)・・・県内初

- ① 目標：保護者や地域の方々の協力により職業体験をすることで進路学習につなげる
- ② 取組：職場受入依頼(5月) 生徒希望調査(7月) 事前打ち合わせ(8月) 職場体験実施(9月)
- ③ 内容：(体験講座) うちなーぐち教室、警察官体験教室、料理教室等の20教室
(心のセミナー) 歴代PTA会長 町議員 青年会長など

(2) 職場体験学習「ふれあい・チバリ・ワークデーズ」(7月)〈H12年スタート〉・・・県内初

- ① 組織：PTA役員
- ② 取組：受入の開拓、紹介、調整等
- ③ 内容：指導ボランティアによる職場体験

2 成果

- (1) 職場体験の受入先の確保など18年間継続的に学校に積極的にに関わり、キャリア教育の充実に寄与している
- (2) 学校と保護者が本行事に連携協力して実施したことにより地域・社会でキャリア教育推進を進め、地域に開かれた学校づくりに繋がった。
- (3) 保護者・地域の団結力や地元企業との連携することにより、生徒の進学率を高めたり・就職を決定することができた。

<仙台市> (種別：学校) 仙台市立東宮城野小学校

推薦理由

東宮城野小学校は1年生から6年生まで、生活科や総合的な学習の時間において、児童の発達段階に応じた職業観を育てるため、地域性を生かした仙台自分づくり教育(仙台版キャリア教育)を計画的に推進している。当該校は仙台の流通の中心地である卸町が学区内にあり、多くの企業が所在している。この地域の特性を生かし、1年生での「学校たんけん」、2年生の「どきどきわくわくまちたんけん」、3年生の「仙台はかせになろう」では、地域の商店や工場の見学、講師を招聘しての出前授業を行い、特に4年生では「へえへえウォーキング」という弟子入り体験(小学生の職場体験活動)を地域の企業や人々の協力を得ながら実施している。「へえへえウォーキング」の1回目は仙台七夕飾りを制作している鳴海屋紙商事で、4年生全員が職業講話を含めた弟子入り体験を行っている。2回目は少人数のグループに分かれ卸町の十数箇所の事業所で弟子入り体験を行い、様々な仕事を体験している。さらに弟子入り体験で学んだことをグループ毎にまとめ、卸町のオフィスビルにあるイベントスペースで発表会を行っている。この活動は卸商センター青年経営研究会がコーディネーター役を担っている。この弟子入り体験を通して、児童に職業観を身に付けさせるとともに、地域の方々と触れ合いながら、地域の良さを大切にする心を育てている。この学習を5年生で行うスチューデントシティ(仙台子ども体験プラザでの問題解決型経済学習)での学習につなげている。

このような地域の特性を生かした活動を行う中で、地域に愛着を持ち、6年生では地域に感謝の気持ちを伝える活動の一つとして、東宮城野小学校で受け継がれている「あけぼの太鼓」を地域のイベントや祭り等で発表している。

この「へえへえウォーキング」は15年継続され、地域の企業や人々との結びつきが大変強く、様々な活動を通して卸町の地域や企業と協力体制ができ、自分たちが住む町に愛着を持つきっかけとなっており、今後も継続的な活動が期待できる。地域の「人・もの・こと」を活用し、学ぶ力と人とかかわる力を養うことを目的に、総合的な学習の時間を中心として、仙台自分づくり教育を積極的に推進しており、キャリア教育優良学校として推薦する。

【ホームページ】<http://www.sendai-c.ed.jp/~togusyo/>

<仙台市> (種別：学校) 仙台市立鶴谷特別支援学校

推薦理由

鶴谷特別支援学校では、平成27年度より仙台自分づくり教育(仙台版キャリア教育)の視点を生かした教育課程を編成し、授業づくりに取り組んでいる。本市は、キャリア教育で育む基礎的・汎用的能力を5つの力(かかわる力、いかす力、みとおす力、みつめる力、うごく力)に整理し、これらを「たくましく生きる力」としている。当該校では5つの力の中から、児童生徒の実態を踏まえて、「コミュニケーション(かかわる力)」、「集団参加(みつめる力・いかす力)」、「働くこと(みとおす力・うごく力)」を「卒業後の生活に役立つ力」と捉え、その力を育てていくために、小中高等部12年間の学びをつなげるための指標とする「自分づくり教育系統表」を作成し、学習内容及び単元構成について、学部間の縦の系統性や学部ごとの横の関連性を見直して、教育課程を編成して授業実践に積極的に取り組んでいる。

授業実践においては、幅広く校外の人材や施設等の活用を図り、将来の居住地域での生活を見据え、様々な人とかかわる経験を重ねられるよう、学校近隣の町内会、保育園、小中学校や市立高等学校との交流活動を積極的に行っている。また、働くことに対する意識を高める工夫として、高等部の就労に向けた産業現場実習以外にも、スチューデントシティでの学習、親子施設見学や障害福祉サービス事業所での職業体験など、働く人の「姿を見る」、「話を聞く」、「体験する」という機会を発達段階に応じて早期から取り入れている。さらに、卒業生のフォローアップとして、教職員が企業や福祉事業所等を訪問し、卒業生の様子を確認するとともに、情報共有を行い、継続的な定着支援を行っている。

授業実践を通して、児童生徒が人とかかわることの心地よさや楽しさを感じるようになったことは、新たに出会った人との関係構築を容易にする素地となってきた。また、「できた。またやりたい。」という思いの積み重ねが主体的な行動として現れてきており、全校縦割活動や児童生徒会活動においても生かされている。さらに、就労に向けては、「先輩のようにになりたい。自分も頑張る。」など、社会人となった自分をイメージした発言やそれに向けて頑張ろうとする姿が見られるようになってきている。今後も継続的に授業実践を重ねる中で、成果がより明確に現れてくると期待できることから、キャリア教育優良学校として推薦する。

【ホームページ】 <http://www.sendai-c.ed.jp/~tsuruyou/>

<川崎市> (種別：学校) 川崎市立木月小学校

推薦理由

川崎市においては、第2次川崎市教育振興基本計画「かわさき教育プラン」基本政策I「人間としての在り方生き方の軸をつくる」の施策の1として「キャリア在り方生き方教育の推進」を位置づけ、平成28年度より全市立学校で実施し、積極的にキャリア教育を推進している。

木月小学校においては、平成27年度より他校に先行して「キャリア在り方生き方教育」の推進協力校として研究に取り組み、平成28・29年度は自主研修として、校内で「キャリア在り方生き方教育」の研究を進め、その成果を発信している。

川崎市のキャリア在り方生き方教育の3つの視点「自分をつくる」「みんな一緒に生きている」「わたしたちのまち川崎」と、学校目標の重点、児童の実態を踏まえ、テーマを『自分をつくる子ども』サブテーマを「～地域の人々と関わり合うことを通して～」として、地域のヒト・モノ・コトに繰り返し関わる授業研究を重ねている。

教職員全員で共通理解を図りながら、育成を目指す資質・能力を整理し、学校目標を中心にカリキュラムを見直した。指導内容や指導方法だけではなく、地域の人々と関わり合いながら、教科横断的に社会的自立に向けて育てたい子供の姿を追求し、どの学年も、単元構成において、①地域の「人」「もの」「こと」との出会いを大切にす。②自らの学びの意味をもてるように繰り返し関わりたくなる場の設定を工夫する。③自ら行動したことや考えたことをどのような場、どのような方法で発信していくかを大切にする。④どのような場面で協働的に学習を進めていくことができるのかを明らかにしながら進めていく。という4つの視点を踏まえ、思考の流れと人の関わり、他教科・領域の関連を構造図にまとめた。年間6回の校内研究を、市内の各学校における研究推進担当者や、校種を超えた地域の学校に広く公開し、多くの先生方が参加されている。また、大学教授を講師の方々として招き、研究の成果や課題、方向性についてもご指導いただいている。

組織的・系統的にキャリア教育に取り組み、大変成果をあげて市内のキャリア教育の推進を牽引しているため優良学校に推薦したい。

<浜松市> (種別：学校) 浜松市立富塚中学校

推薦理由

当該校は、平成28年度「はままつ型コミュニティ・スクール推進モデル校」の推進に当たり、自校の生徒に身に付けさせたい基礎的・汎用的能力を平易な言葉で表現し、保護者・地域人財と共有している。また、キャリア教育の視点で教育活動を見直し、多様な地域人財との関わりを通して、地域・社会を担うため「社会を生き抜く力」の育成に取り組んでいる。

1 生徒に身に付けさせたい基礎的・汎用的能力の分析

生徒に身に付けさせたい力を「社会を生き抜く力」とし、それを「つながる力」「みつめる力」「ふかめる力」

「みとおす力」と、平易な言葉で「4つの力」を設定した。

2 多様な地域人財の活躍の場を通じた「社会に開かれた教育課程」の編成

(1) 「4つの力」での教育活動の見直し・整理

キャリア教育の視点で教育活動を見直し、教育課程編成に取り組んだ。その中で、総合的な学習の時間の年間計画等も、「4つの力」で整理、構造化した。

(2) 「地域人財の活躍」による学習活動の充実

「地域人財の活躍」による教科指導等を、「4つの力」で整理した。計画に基づき多様な授業等が展開されている。

3 地域への提言 総合的な学習の時間「TS (Tomitsuka Study)」

(1) 1年生「地域をみつめて」

地域の方々から直接お話を伺ったり、自分で観察・実験したりし、追究課題を決める。

(2) 2年生「将来をみつめて」

各自の追究課題のための、他地域の行政機関等を調査し、新たな視点をもって、自分たちの地域を見つめ直す。

(3) 3年生「未来に向かって」

「地域への提言」の形で、追究してきた成果を発表する。地域と関わり合いながら得た知見や生徒自ら作り出したアイデア等を生かして、未来の地域人としての自覚をもち、主体的に生きていこうとする生徒を育む活動にしている。

以上のように、キャリア教育の積極的な推進は、地域人財との連携・協働の活性化にもつながっている。また、諸活動は、将来の地域の活性化、生徒自身の生き方をみつめる機会ともなり、「社会を生き抜く力」を身に付けた、地域を担う人財を育成する実践であるため、ここに推薦する。

【ホームページ】<http://www.city.hamamatsu-szo.ed.jp/tomitsuka-j/>

<京都市> (種別：学校) 京都市立九条弘道小学校

推薦理由

九条弘道小学校は、『Chance にする子：あらゆる「人、もの、こと」との出会いをチャンスととらえる子』『Challenge する子：未知なる世界に果敢に挑戦する子』『Create する子：自分と社会との関連で、内外を問わず自分の世界を創造する子』を目指す子ども像として設定し、そこには、キャリア教育の視点が盛り込まれている。

○ 3Cプロジェクト教育 (Chance Challenge Create)

現状に甘んじることなく、常に“よりよい自分・よりよい学級・よりよい学校”にするために、何ができるのかを考え、実践していく姿を目指した取組を行っている。①「未来創造型生き方探究教育」②地域教育③ピア・サポート教育を柱として、様々な体験活動を通して、自己有用感や人と関わる力、創造力の伸長を図るとともに、社会や人との結びつきを実感しながら、自分自身や社会をよりよくしていこうとする実践的行動力を育てようとしている。

○ 未来創造型プロジェクト ふれあいタウン※

3Cプロジェクトの取組の一つとして、平成25年度から培った力を発揮、確認する場として「未来創造プロジェクト ふれあいタウン」を開催している。児童自身が「ふれあいタウン」の計画・準備・運営に年度当初から関わり、その取組の過程の中で、「自己有用感の向上」「人とかかわる力」「相手意識・共感力」を培っていく仕組みを構築している。

各学年の学習では、人や社会とのつながりを意識し、地域や企業と連携した学習を展開している。学習を通して学んだことを発表するに留まらず、それらを活用し、自分たちで「人に役立つ」「人に喜んでもらう」企画を創り上げていくことで、児童が主体的・意欲的に学習に取り組んでいる。

ふれあいタウン実施後には、児童自身がこの取組を通してどんな力が身についたのかなどを振り返り、自身の成長を確認できる機会を設けている。

全国学力・学習状況調査においても、児童の基礎的・汎用的能力に係る項目の数値が向上するなど取組の成果を上げており、表彰の推薦を行う。

※ふれあいタウン

子どもたちが考えて計画・準備をし、運営する「人に役立つこと」「人に喜んでもらうこと」を目的とした会社を全学年で学年ごとに設立する。学校を一つの町に見立て、「ふれあいタウン」開催日に、地域住民や企業等を招待し、会社の取組を発表する。

<京都市> (種別：学校) 京都市立大原小中学校

推薦理由

今年度、大原小中学校（児童生徒数67人）は、新たに義務教育学校としてスタートするとともに、小中一貫教育校として開設10周年を迎え、地域・家庭・学校が一体となった学校運営協議会や、地域の子育てセンター（校舎内に保育所子育て支援施設、学童施設に併設）としての役割も担うことで、0～15歳までの「地域に根差したキャリア教育」の実践を進めている。児童生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、自分らしい生き方を実現する力をつけること、そのための課題対応力や、自己理解・自己管理能力、人間関係形成・社会形成能力などの資質・能力を、小規模小中一貫教育の強みである、一人一人の子どもの実態に応じた9年間でのきめ細かい指導のもと、地域との関わりの中で身に付けられるよう、キャリア教育の充実を図っている。

キャリア教育の実践にあたっては、「地域」の支援を受けて保護者とともに進めており、大原小中学校独自の「大人になる科」（道徳科（中学校は道徳の時間）、特別活動、総合的な学習の時間の9年間での体系的学習）を中心に、発達段階に応じた創意工夫ある取組を9年間での系統性を持たせながら展開している。

【取組例】

- ・大原提言（9年）

生徒一人一人が9年間のキャリア教育での学びを踏まえ、「大原地域の今後のあり方」について、課題設定→仮説→検証を行い、地域の方々に発表を行う。

- ・大原探究（6年）・生き方探究チャレンジ体験（8年）

6年生では、地域の様々な場所で職場体験を3日間行い、地域の方々の働きについて学び、8年生では大原地域外で5日間の職場体験を行い、社会との関わりを学ぶ。

- ・大原ライス（5・6・7年）・「しばづけ」作り（3・4年）

地域や地元企業等の協力・指導の下、学校農園での米作りやシソ等の栽培等を通じて、農業（耕作から出荷まで）や地域の特産物（栽培から販売まで）への理解を深める。

こうした地域と一体となった「大人になる科」等での学習を通じて、地域の方々の思いを汲みながら、生活の糧を自力でたくましく獲得できる力や、課題対応能力、自己理解・自己管理能力、人間関係形成・社会形成能力、キャリアプランニング能力といった、キャリア教育で育む資質・能力の育成が着実に図られてきている。

また、児童生徒や保護者による学校評価アンケートからも、自ら課題を見つけ学習に取り組む姿勢が生まれてきたことや、大原の地域の良さや課題を考えることで、地域の環境や自身の将来を考え、意見できるようになってきている。また、1年生～9年生での地域人材を活用した英語教育によるコミュニケーション能力の向上とともに、児童生徒の主体性や対話力の育成が図られているなどの、大原小中学校10年間の取組の成果が挙がっている。

平成31年1月26日（土）には「小規模校全国サミット」を大原小中学校で開催予定であり、小中一貫教育小規模校のリーディングスクールとして、全国を力強く牽引している。

<京都市> (種別：団体) 特定非営利活動法人 京都シニアベンチャークラブ連合会

推薦理由

○ 特定非営利活動法人京都シニアベンチャークラブ連合会（平成11年7月発足）は、企業や行政機関のOBが培ってきた経験を社会の中で有意義に活用し、自らの生きがいつくりと社会の発展に寄与することを活動目的とし、地域支援や教育支援、企業支援等の活動を実践している。

○ 京都市教育委員会では、京都のモノづくり企業の創業者の歩みや先端技術等を展示する「殿堂」と、殿堂に関連したモノづくり体験学習が可能な「工房」を設置した学習施設「京都モノづくりの殿堂」を京都まなびの街生き方探究館に創設（平成21年2月12日）。ものづくり企業創業者やものづくりに携わる人のものづくりへの情熱に触れることを通じて、子どもたちの創造性や社会性の育成を目指した生き方探究教育（キャリア教

育)として、授業の一環で、京都市立小学校4年生～6年生を対象に学習を実施している。(平成29年度は163校10,075名が学習を実施)

- 京都シニアベンチャークラブ連合会は、上記学習の趣旨に賛同し、平成22年度からモノづくり企業OBの人材を活用し、「モノづくり学習支援員・京(みやこ)モノレンジャー」として学習支援を行うなど、本市生き方探究教育の充実発展に多大の貢献をされたところである。具体的には、「殿堂」学習では、京都のモノづくり企業創業者の生き方や情熱、最先端の技術等を解説し、「工房」学習ではモノづくりの工作支援を行っていただいております。企業OBとしての豊富な経験をもとに、普段子どもたちが知り得ない経験に裏付けされた「ほんまもん」の経験談を交えながら解説・製作支援を行っていただくことで、子どもたちの興味・関心をより高め、効果的な学習を実践いただいている。

＜参考＞学習における京モノレンジャー派遣延べ人数

22年度 223名、23年度 404名、24年度 705名、25年度 883名

26年度 1,134名、27年度 1,287名、28年度 1,446名、29年度 1,416名

◎22～29年度までの派遣延べ人数 7,498名

- このように、子どもたち一人一人の創造性や社会性の育成を目指した生き方探究教育において、学習の根幹を担うモノづくりの専門性を有する人材を派遣いただくなど、本市のキャリア教育の推進に特筆すべき貢献をされていることから本表彰に推薦する。

＜大阪市＞（種別：学校）大阪市立白鷺中学校

推薦理由

（概要）

当該校は、全校生徒数が547名であり、大規模校に属する。今年度、創立50周年を迎える同校では、学校教育目標を『心～魅力ある生徒の育成～』、理想の学校像を『思いやり』と『そうぞう力』にあふれる、みんなにとっておもしろい学校』と掲げ、学力向上はもとより、キャリア教育・防災教育・団活動（異学年交流）を学校教育の3本柱とし、3年間を通した組織的・系統的な特色ある取組を進めている。

その1つであるキャリア教育では、生徒の基礎的・汎用的能力（自己理解・自己管理能力、人間関係形成・社会形成能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力）を育成し、一人ひとりの社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成することを目標とし、学校外の教育資源と積極的に連携した取組を展開している。

（特色）

① 3年間を系統だてた組織的プログラムの実施

キャリア教育を学級や学年だけの取組ではなく、学校の教育活動全体を通した取組とし、その狙いを達成するため、校内組織としてキャリアグループ（以下キャリアG）を発足させ、週に1回、時間割の中に定例会議を設定している。キャリアGでは、全体計画や年間指導計画の作成、外部機関との連絡調整、実践上の課題解決・評価等の任務を担当する。また、年間指導計画において、「笑育A→C」や「キャリアデリバリーA→C」など、学年が進むにつれ、その内容も深化する系統的プログラムを構築している。

② 他校種及び地域・産業界等との積極的な連携

「人」をキーワードとする、学校外の教育資源と積極的に連携した同校独自の取組（「笑育」・「キャリアデリバリー」、「白鷺キャリアデイ」等）を展開している。

その中で、松竹芸能株式会社との連携で実施している「笑育」の取組は、プロのアナウンサーや芸人を学校に招き、生徒が笑いの仕組を学び、実際に漫才の台本を作り、最終的には漫才を披露する過程を通して、基礎的・汎用的能力や21世紀型スキルの育成をめざす独自のプログラムである。

③ 明確な目標設定と検証改善

年度当初に明確な目標設定をし、マニフェストに掲げ、学校HP等を通じて広く公開している。また事前・事後の取組を充実させるとともに、生徒アンケートを行い、キャリアカウンセラーを中心にPDCAサイクルによる、効果検証と改善を図っている。平成29年度は、基礎的・汎用的能力の育成に関わる項目での肯定的回答率の目標を78%以上と設定して取り組んだ結果、事後に78.8%となり目標を達成した。平成30年度は80%以上を目標としている。また「笑育」後の効果測定では、取組後に14項目中13項目で肯定的回答

率が上昇し、基礎的・汎用的能力における自己理解・自己管理能力の育成に関わる項目では10%以上の上昇が見られた。同校の取組はテレビ局や新聞社などのマスコミからの取材を受け報道されている。

同校では、学校・地域・他校種・産業界等と連携して、積極的にキャリア教育に取り組み、大きな成果をあげている。本市教育委員会では、同校の取組を高く評価し、キャリア教育優良校として推薦する。